

早川教忠編輯

現
新
鴻
縣
志
規
類
纂
三
編

新鴻 櫻井書房藏版

03
1115
44-07

行現 新潟縣法規類纂第三編

目次

第壹類	一
郡市長特委任條件	丁
第貳類	二
縣會	丁
市町村制	全
第三類	三
願、伺、届	丁
第四類	三
報告例	丁

目次

三

第五類

市町村區域名稱 付町村役場位置

八丁

河川、堤防、道路、橋梁

一〇丁

船 舶 付海員雇入雇止

三三丁

備荒儲蓄

三五丁

第六類

鑛山

三八丁

第七類

土地評價

三九丁

社寺院境內地

四〇丁

地圖調製方

全丁

山林原野

四二丁

第八類

租稅

地租

四五丁

船車

五〇丁

酒類

全丁

煙草

五一丁

印紙

五二丁

所得稅

全丁

租稅收方

歲入出

五三丁

國稅臺帳

五五丁

國稅賦課現計書及報告表

六七丁

稅則違犯沒收物處分	六八丁
國稅滯納處分費辨納金調定	全丁
收稅雜	七〇丁
縣 稅 付地方稅財產管理規則	七四丁
市町村稅 付市町村費支辨ノ事業ニ對スル寄付金取扱	七八丁
第九類	
戶 籍	八〇丁
逃亡失踪	全丁
行旅死亡人取扱	八一丁
第十類	
衛 生	
醫 師	八一丁

衛生組合 付市町村衛生要領	八二丁
種 痘	八四丁
傳染病豫防 付清潔法	全丁
藥 業	九五丁
鑛泉浴場	九六丁
第十一類	
俸 給	九七丁
雜 給	全丁
旅 費	九九丁
出 納	一〇〇丁
第十二類	
神社寺院	一一三丁

第十三類

警察官証票

巡查

無盡講

諸興行取締

諸營業取締

人力車取締

銃砲火藥取締

漁罐及漁機取締

雜取締

六

一一五丁

全丁

一二一丁

一二二丁

一二三丁

一三六丁

一三七丁

全丁

一四〇丁

一四〇丁

第十四類

虫害驅除豫防

農商工通信事項

養蠶

漁業、採藻

博覽會

第十五類

裁判所

登記

第十六類

學制

尋常中學校

尋常師範學校

農學校

一四一丁

一四四丁

全丁

一四五丁

一四九丁

一五〇丁

全丁

一五一丁

一五二丁

全丁

目次

七

小學校

一五二丁

學事雜

一六九丁

第十七類

兵制

徵兵

一六九丁

豫備、後備兵

一七一丁

教導團

全丁

陸軍諸則

全丁

徵發

一七六丁

第十八類

外國交際

一七七丁

附錄

行政裁判所判決錄

一七九丁

現新潟縣法規類纂第三編

○第一類

○郡市長特委任條件

●明治廿四年(三月)縣令甲第十九號

明治廿年(七月)縣令甲第百五號郡市長特委任條件第三十六項左ノ通改正ス

第三十六 官有ニ屬シタル地所及官有地賣渡下渡ニ係ル土地ノ登記ヲ求ムル事

但諸官省用地ニ係ルモノハ本文ノ限リニ非ス

●明治廿四年(六月)縣令甲第四十一號

明治廿年(七月)縣令甲第百五號特委任條件中第十四項ヲ刪除ス

●明治廿四年(五月)訓令乙第三十六號

郡役所 市役所

明治二十年九月訓令乙第四十二號特委任條件處分濟報告離形中第十七項乃至第二十項ノ事項ハ之ヲ省略シ件數ノミヲ掲載スルモ差支ナキ旨及指令置候儀モ有之候處第十七項ノ事項ニ限リ該訓令ノ雛形ニ原ツキ報告スヘシ

但此訓令ニ矛盾スル從前ノ指令ハ總テ消滅ト心得ヘシ

第一類 郡市長特委任條件

○ 第二類

○ 縣 會

● 明治廿四年(五月)訓令乙第三十五號
 郡市役所
 明治十九年(十二月)訓令甲第六十號縣會議員選舉被選舉權ヲ有スル者取調ノ儀ハ爾今十一月十五日現在ヲ以テ每翌年一月限差出スヘシ

○ 市町村制

● 明治廿四年(一月)訓令乙第一號
 郡 役 所
 以來町村制第四條二項及ヒ第五條ニ依リ町村ノ境界ヲ變更シタルトキハ客年九月六日付訓令乙第四十二號ニ依リ更ニ戶數人口ヲモ併セテ報告スヘシ
 但已ニ報告済ノモノモ此際取調メ更ニ報告スヘシ

○ 第三類

○ 願、伺、届

● 明治廿四年(五月)縣令甲第三十二號
 明治廿一年十月縣令甲第一號但書中圖面ノ下「及ヒ賣樂營業願書」ノ八字ヲ追加ス

○ 第四類

○ 報 告 例

● 明治廿四年(一月)訓令乙第三號
 郡市役所
 内務報告例ニヨリ衆議院議員選舉調左記雛形ニ依リ毎年六月十五日現在全年八月十五日限リ調製差出スヘシ
 (書式)用紙美濃紙

衆議院議員選舉調(明治何年六月十五日現在)

市郡 廳 名

郡 市 名	族 籍	何 種 族			直接國稅拾五圓以上ヲ納ムル者	選舉權ヲ有スル者
		華 族	士 族	平 民		
市 計						

● 明治廿四年(一月)訓令乙第四號
 郡役所 市役所
 客年(十月)訓令乙第四十九號市制町村制ニ關スル報告例目第二表市町村吏員調ハ左記ノ通

改正シ第三表市町村會議員選舉調報告期日ハ二月二十八日ト改正ス

第二表		市町村吏員調		明治何年十二月三十一日現在		郡(市)役所名	
階級別人員	支給報酬金額	階級別人員	支給報酬金額	合計	合計	合計	合計
市長 半圓以上 未滿		町長 拾圓以上 未滿		町村吏員 拾圓以上 未滿		町村吏員 拾圓以上 未滿	
市吏員 半圓以上 未滿		助役 拾圓以上 未滿		助役 拾圓以上 未滿		助役 拾圓以上 未滿	
參事 名譽職		收入 拾圓以上 未滿		收入 拾圓以上 未滿		收入 拾圓以上 未滿	
役員 名譽職		常設 名譽職		常設 名譽職		常設 名譽職	
委員 名譽職		區長 名譽職		區長 名譽職		區長 名譽職	
區長代 名譽職		區長代 名譽職		區長代 名譽職		區長代 名譽職	
書記 三十圓以上 未滿		書記 三十圓以上 未滿		書記 三十圓以上 未滿		書記 三十圓以上 未滿	
附屬 六圓以上 未滿		附屬 六圓以上 未滿		附屬 六圓以上 未滿		附屬 六圓以上 未滿	
員 六圓未滿		員 六圓未滿		員 六圓未滿		員 六圓未滿	
計		計		計		計	

●明治廿四年(三月)訓令乙第十四號
 明治廿三年(十月)訓令乙第四十九號報告例目中年報ノ部第六ヲ左ノ通改正シ其表式別紙ノ通相定ム

郡ノ部

第六 土地ニ係ル町村稅不納者公賣處分調 第四表 (翌年度二月廿八日)

市ノ部

第六 土地ニ係ル市稅不納者公賣處分調 第四表 (翌年度二月廿八日)

明治何年度土地ニ係ル(市)町村稅不納者公賣處分調 郡(市)役所名

表四第	不納金額	物件公賣代價
	七五〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇

一 町村長助役ニシテ收入役書記區長等ヲ兼スルノ類ハ各兼掌ノ方ヲ朱書スヘシ
 一 町村制第六百十六條ニ依リタル町村行政全部ノ組合吏員ハ各其欄内ニ別記シメヲ付スヘシ
 但一部ノ事務ノ爲メ設ケタル組合ノ吏員ハ掲載スルヲ要セズ
 一 年俸及日給ノ者ハ月給額ニ改算シ各合計ニ於テ四拾五入シ四位ニ止メ記載スヘシ報酬金
 モ之ニ準シ人員金額トモ精算シテ記入スヘシ
 一 年俸及報酬金ノ年額ヲ以テ定ムルモノハ十二分ノ一、日給ハ三十日分ヲ以テ計算シ月額
 トナシテ記入スヘシ但報酬ニ屬スル實費ノ支辨ハ之ヲ除ク

郡役所 市役所

報 年	
土地 買上 代價	九五〇〇〇
土地 公賣 代價	五〇〇〇〇
土地 買上 代價	五〇〇〇〇
裁判ニ據リ徵收セシ金額	一、一四五〇〇
合計	一、一四五〇〇
納濟金額	六四四、二〇〇
處分金	二〇〇、八〇〇
過剰下戻金	四八〇、〇〇〇
合計	一、一四五〇〇
不納金ト納濟金ト差引不足金額	一〇五、八〇〇

一處分法第五條ノ納稅義務ヲ終リシ者ノ不納金額ハ本表ニ算入スルモノトス
 一處分法第三十一條第二項ニヨリ評價ヲ以テ賣却セシ物件代價並ニ同法第三十八條ノ第一項ニ依リ賣却シタル代價ハ公賣代價ニ合算スヘシ
 一處分法第九條ニ掲グル處分費滯納金ハ末項ニ別掲スルヲ以テ此ニ之ヲ省クヘシ
 一表中ニ掲グル員數ハ其一例ヲ示スモノナリ

屬附表四第		屬附表四第	
土地種類	公賣シタル	買上ケタル	合計
耕地宅地	段別地價	段別地價	段別地價
山林原野雜種	代公賣價	代買上價	代買上價
合計	合計	合計	合計
市町村稅	不納人員及ヒ其事由	財產差押 後納金 納濟金額	全上 處分費
市町村稅	貧困ニヨリ 怠慢ニヨリ 其他及事 由不詳 合計	合計	合計

一 本表下欄ハ既ニ財產ノ差押ヲ受ケタル後處分法第九條ニ依リ處分費、滯納金ヲ完納セシモノヲ掲載スルモノトス
 一 同年度間ニ再度以上不納セシ者ハ一人ト計算シナルヘシ重複セサルコトヲ要ス
 一 廿二年度分ニ限リ本年五月末日迄ニ本表ヲ報告スヘシ

○第五類

○市町村區域名稱 付町村役場位置

郡市役所 町村役場

●明治廿四年(二月)訓令甲第四號
容年八月法律第七十七號第二條ニ依リ市役所町村役場ノ位置ヲ變更セントスル時ハ左掲ノ書
類ヲ具シ認可ヲ乞フヘシ

一 位置變更ヲ要スル理由

一 大字町村名並ニ番地

一 新舊役場位置ヲ標示セシ町界ノ繪圖

●明治廿四年(二月)縣令甲第十七號

●明治廿三年(十二月)縣令甲第八十六號村名改稱ノ件取消ス

●明治廿四年(二月)告示第十一號

古志郡中野俣村役場位置大字西中野俣ニ變更スルノ村會議決ヲ認可セリ

●明治廿四年(二月)告示第十五號

北浦原郡泉村役場位置大字吉田ニ變更スルノ村會議決ヲ認可セリ

●明治廿四年(二月)告示第十七號

中浦原郡鳥屋王村ヲ鳥屋野村ト改稱ス

●明治廿四年(三月)告示第廿六號

北浦原郡内竹村役場位置大字小見ニ變更スルノ村會議決ヲ認可セリ

●明治廿四年(四月)告示第三十四號

南魚沼郡三和村旭村組合ハ客月十七日其組合ヲ解キタリ

●明治廿四年(四月)告示第三十六號

古志郡中通村役場位置大字攝田屋ニ變更スルノ村會議決ヲ認可セリ

●明治廿四年(四月)告示第三十八號

明治廿三年法律第七十七號第一條ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ受ケ西浦原郡卷村ヲ町ト爲ス

●明治廿四年(四月)告示第三十九號

南魚沼郡三和村役場位置ヲ大字大月ニ定ムル村會ノ議決ヲ認可セリ

●明治廿四年(四月)告示第四十號

南浦原郡中野村役場位置ヲ大字中野中ニ變更スルノ村會議決ヲ認可セリ

●明治廿四年(五月)告示第五十九號

中頸城郡鳥坂村役場位置ヲ大字中宿ニ變更スルノ村會議決ヲ認可セリ

●明治廿四年(六月)告示第七十二號

明治廿三年法律第七十七號ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ得北浦原郡小浮村ヲ大和村ト改稱ス

●明治廿四年(七月)告示第八十一號

三嶋郡中越村役場位置ヲ大字川西ニ變更スルノ村會議決ヲ認可セリ

●明治廿四年(七月)告示第八十二號

第五類 市町村區域名稱付町村役場位置

三島郡北西越村役場位置大字郷本へ變更スルノ村會議決ヲ認可セリ

●明治廿四年(七月)告示第八十五號

明治廿三年法律第七十七號ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ得南蒲原郡小古瀬ヲ大和村ト改稱ス

○河川堤防、道路、橋梁

●明治廿四年(一月)縣令甲第七號

明治十九年(七月)乙第八十一號達以別地價戸數取調凡例ヲ廢止ス全年(一月)甲第八號布達市町村土木補助費支出規則別冊ノ通改正シ來ル廿四年度ヨリ施行ス

但本則第五條ノ書出期日本年ニ限リ市役所町村役場ヨリハ二月十五日迄ニ郡役所ヨリハ三月十日迄ニ差出スヘシ

市町村土木補助費支出規則

第一條 河川堤防修築費ハ被害市町村ノ支辨ニ屬スルト雖モ舊三等川以上ニシテ年度中左ノ負擔額ヲ超ルルハ地方稅ヨリ之ヲ補助スヘシ地元市町村則一等組合ニ於テ地價百圓ニ付金拾五錢一戸ニ付人夫一人半氏等組合(壹等組合ノ無關涉ノ分共)地價百圓ニ付金拾錢壹戸ニ付人夫一人三等組合地價百圓ニ付金五錢一戸ニ付人夫半人ノ割合ヲ以テ該金ト人夫賃金ヲ通算シテ之ヲ支辨スヘシ

第二條 堤防急破防禦ニ係ル費用及増築ニ係ル堤敷潰地買上代金ハ地方稅補助ノ限リニアラス

第三條 地方稅補助ニ係ル人夫職工賃及用材代金ハ縣會ノ議決ニ基キ計算スルモノトス

第四條 地方稅補助ノ工事ニシテ縣廳直轄施行スルルハ其市町村負擔額ハ目論見帳許可ノ日ヨリ三十日以内ニ上納スヘシ

第五條 第一條ノ負擔額ハ毎年一月一日ノ現數(假令ハ二十四年度中ハ二十四年一月一日ノ調ヲ用エ)ニ據リ起算スルヲ以テ關係アル市町村ハ左記條項ニ照準各大字毎ノ反別地價戸數詳密取調(組合アルモノハ毎組合ニ調製)一月三十一日限リ郡役所へ(市ハ市役所ニ於テ調製直ニ本廳へ)差出スヘシ郡役所ニ於テハ精數ニ調査ヲ遂ケ各川毎ニ製表シ二月廿八日限リ本廳へ差出スヘシ

但郡役所ニ於テ製表スル處ノ用紙ハ本廳ヨリ之ヲ交付ス

第六條 前項反別地價戸數ハ各組合ノ區畫ニ據リ(組合ナキ獨立市町村ハ一市町村ノ惣額又ヲ甲乙二川ニ區畫シアルモノハ其ノ區畫ニヨリ)關涉無關涉ヲ區分シ民有一切ノ總數ヲ記載スルモノトス

既定關涉反別地價戸數ハ無關涉ニ編入スルヲ得ス若シ變更ヲ要スル場合ハ詳細ナル圖面ヲ添具申スヘシ戸數ハ全戸出寄留ヲ除キ入寄留ヲ加ヘ全居ト雖モ竈ヲ異ニスルモノハ一戸ニ算入シ其貧困者ニシテ地方稅戸數割免除ノ者ハ之ヲ除クヘシ

關涉反別地價戸數ハ墨書シ無關涉ノ分ハ朱書スヘシ

第七條 壹組合ニシテ數川(假令ハ信濃川中ノ口川西川)ニ關涉スルト雖モ其區畫全一ナルモノハ各川毎ニ掲グルニ及ハス其大ナル信濃川組合ノ部ニ記載シ欄外へ(中ノ口川西川ニモ

第五類 河川堤防、道路、橋梁

一北蒲原郡新發田町字神明脇(縣道一等線ヨリ分岐)ヨリ新發田衛戍ニ至ル路線
 一新潟市ヨリ中蒲原郡龜田町大字龜田横越村北蒲原郡京ヶ瀬村大字京ヶ島新田堀越村大字中
 潟新分田村大字寺社安田村大字保田東蒲原郡下條村大字小石取津川町ヲ經テ福島縣河沼郡
 ニ通スル路線
 一中頸城郡直江津町大字直江津(國道五號線ヨリ分岐)ヨリ同郡谷濱村大字長濱ニ至ル路線
 但中頸城郡國府村大字居多地内ニ於テ國道廿一號線ニ合ス
 縣道三等
 一新潟市役所ヨリ西堀通六番町縣道一等線ニ接スル路線
 一北蒲原郡役所ヨリ新發田町地内字石川小路ヲ經テ縣道一等線ニ接スル路線
 一北蒲原郡新發田町(縣道一等線ヨリ分岐)ヨリ同郡天王村大字天王新田水原町大字水原町分
 田村大字分田中蒲原郡新津町大字新津南蒲原郡田上村大字田上加茂町大字加茂町三條町大
 瀧村大字大而見附町大字見附ヲ經テ古志郡長岡町ニ至ル路線
 一北蒲原郡水原町大字水原町(縣道二等線ヨリ分岐)ヨリ中蒲原郡龜田町ニ至ル路線
 但北蒲原郡京ヶ瀬村大字上黒瀬地内ニ於テ縣道一等線ニ合ス
 一中蒲原郡役所ヨリ新津町地内縣道二等線ニ接スル路線
 一中蒲原郡松島村大字逢谷内新田(縣道一等線ヨリ分岐)ヨリ北蒲原郡松ヶ崎濱村龜代村大字
 次第濱築地村大字中濱乙村大字桃崎濱岩船郡鹽谷岩船町大字岩船東神納村大字
 七湊ヲ經テ村上町縣道三等線ニ合スル路線

一西蒲原郡役所ヨリ卷町地内縣道二等線ニ接スル路線
 一西蒲原郡彌彦村(國道五號線ヨリ分岐)ヨリ全郡吉田村大字吉田燕町ヲ經テ南蒲原郡三條町
 ニ至ル路線
 一西蒲原郡金卷村(國道八號線ヨリ分岐)ヨリ中蒲原郡酒屋村小須戸町ヲ經テ南蒲原郡三條町
 ニ至ル路線
 但南蒲原郡上林村大字栗林地内ニ於テ國道八號線ニ合ス
 一西蒲原郡上坂井輪村大字坂井(國道五號線ヨリ分岐)ヨリ全郡會根村大字會根卷村大字卷地
 藏堂町大字地藏堂町三嶋郡與板町大字與板町片貝村大字片貝ヲ經テ北魚沼郡小千谷町ニ至
 ル路線
 一南蒲原郡役所ヨリ三條町地内字門前町二ノ丁三ノ丁四ノ丁ヲ經テ國道八號線ニ接スル路線
 一南蒲原郡三條町ヨリ全郡四ッ津村大字荒澤本下田村大字吉ヶ平ヲ經テ福島縣南會津郡ニ通
 スル路線
 一南蒲原郡三條町(國道八號線ヨリ分岐)ヨリ西蒲原郡地藏堂町大字地藏堂町ヲ經テ三島郡寺
 泊町ニ至ル路線
 但西蒲原郡國上村大字渡部地内ニ於テ國道五號線ニ合ス
 一南蒲原郡保明村大字保明新田ヨリ中蒲原郡村松町川東村大字馬下ヲ經テ東蒲原郡下條村ニ
 至ル路線
 一中蒲原郡新津町(縣道三等線ヨリ分岐)ヨリ全郡龜田町地内縣道一等線ニ合スル路線

全年縣令甲第
八十四號ヲ以
テ十九項廿三
項三十一項ヲ
改正ス末項ニ
追加ス

- 一 中蒲原郡新開村大字市新(縣道三等線ヨリ分岐)ヨリ全郡五泉町大字五泉村松町七谷村大字黒水ヲ經テ南蒲原郡加茂町大字上條地内縣道三等線ニ接スル路線
- 一 東蒲原郡役所ヨリ津川町地内縣道一等線ニ接スル路線
- 一 三島郡役所ヨリ與板町地内縣道三等線ニ接スル路線
- 一 三島郡寺泊町ヨリ全郡善高村大字大川津ニ至ル路線
- 一 古志郡役所ヨリ長岡町地内國道八號線ニ接スル路線
- 一 古志郡長岡町ヨリ三島郡與板町ヲ經テ出雲崎町ニ達スル路線
- 一 古志郡長岡町(國道八號線ヨリ分岐)ヨリ三島郡宮本村大字宮本刈羽郡會地村大字會地ヲ經テ柏崎町ニ至ル路線
- 一 古志郡北谷村大字名木野(縣道三等線ヨリ分岐)ヨリ全郡枋尾町大字枋尾ニ至ル路線
- 一 古志郡六日市村大字妙見地内(國道八號線ヨリ分岐)ヨリ北魚沼郡小千谷町中魚沼郡岩澤村大字岩澤中條村十日町村大字十日町馬場村赤崎村大字蘆ヶ崎上郷村大字子種新田寺田村大字寺石ヲ經テ長野縣水内郡ニ通スル路線
- 一 北魚沼郡役所ヨリ小千谷町地内旭橋際ニ至リ縣道三等線ニ合スル路線
- 一 中魚沼郡役所ヨリ十日町地内縣道三等線ニ接スル路線
- 一 南魚沼郡役所ヨリ六日町地内國道八號線ニ接スル路線
- 一 南魚沼郡六日町(國道八號線ヨリ分岐)ヨリ全郡鹽澤村上關村大字關湯澤村三俣村二居村淺貝村ヲ經テ群馬縣吾妻郡ニ通スル路線

- 一 刈羽郡役所ヨリ柏崎町地内國道五號線ニ接スル路線
- 一 刈羽郡柏崎町(國道五號線ヨリ分岐)ヨリ全郡北條村大字北條三島郡塚山村大字塚野山北魚沼郡小千谷町赫生村ヲ經テ全郡川口村ニ至ル路線
- 一 北魚沼郡赫生村地内ニ於テ國道八號線ニ接スル路線
- 一 刈羽郡柏崎町(國道五號線ヨリ分岐)ヨリ全郡秋津村大字與板ヲ經テ岡野町村ニ至ル路線
- 一 東頸城郡役所ヨリ全郡安塚村大字下方ヲ經テ中保倉村大字虫川地内縣道三等線ニ接スル路線
- 一 中頸城郡役所ヨリ全郡高城村大字岡島町市ノ橋町ヲ經テ高田町大字上職八町地内國道五號線ニ接スル路線
- 一 中頸城郡高田町ヨリ全郡里五十公野村大字川浦ヲ經テ東頸城郡大島村大字大島ニ至ル路線
- 一 中頸城郡柿崎村ヨリ全郡大出口村大字代石中吉川村大字原ノ町上吉川村大字道ノ下ヲ經テ東頸城郡下保倉村大字横川ニ至ル路線
- 一 中頸城郡柿崎村(國道五號線ヨリ分岐)ヨリ全郡旭村大字米倉新田板倉村大字針ヲ經テ新井村ニ至ル路線
- 一 中頸城郡直江津町大字直江津(國道五號線ヨリ分岐)ヨリ東頸城郡下保倉村大字有島大島村大字大島松平村大字松代伊澤村大字大伏中魚沼郡眞田村大字眞田十日町村大字十日町南魚沼郡欠ノ上村ヲ經テ六日町村大字六日町ニ至ル路線
- 一 中頸城郡新井村地内(國道五號線ヨリ分岐)ヨリ全郡鳥坂村大字除戸瑞穂村大字猿橋長澤村

ヲ經テ長野縣水内郡ニ通スル路線

一西頸城郡須澤村大字須澤(國道廿一號線ヨリ分岐)ヨリ全部今井村大字大谷内小瀧村大字小瀧山ノ坊ヲ經テ長野縣安曇郡ニ通スル路線

一岩船郡役所ヨリ村上町地内縣道三等線ニ接スル路線

一岩船郡中保内村大字切田地内(縣道一等線ヨリ分岐)ヨリ全部平林村大字平林村上町猿澤村大字猿澤野野村大字鹽野町黒川俣村大字北中村八幡村大字勝木大川谷村大字府屋ヲ經テ山形縣西田川郡ニ通スル路線

一岩船郡中保内村大字坂町地内(縣道三等線ヨリ分岐)ヨリ全部金屋村大字金屋ヲ經テ北蒲原郡乙村大字桃崎濱地内縣道三等線ニ接スル路線

一佐渡三郡役所ヨリ相川町地内縣道三等線ニ接スル路線

一佐渡國加茂郡夷町ヨリ全部吉井村大字吉井ヲ經テ雜太郡川原田町ニ至ル路線

一佐渡國羽茂郡赤泊村ヨリ雜太郡新田川原田町ヲ經テ全部相川町ニ至ル路線

一佐渡國羽茂郡小木町ヨリ全部小布勢村大字西三川ヲ經テ雜太郡新町ニ至ル路線

●明治廿四年(十二月)縣令甲第八十四號

明治廿四年(三月)縣令甲第廿一號達縣道線中左之通改正ス

縣道一等之部

第三項(新潟市ヨリ中畧東蒲原郡津川町ヲ經テ福島縣河沼郡ニ通スル路線)改正

一 中蒲原郡沼垂町大字沼垂(縣道一等線ヨリ分岐)ヨリ全部龜田町大字龜田横越村北蒲原郡

京ヶ瀬村大字京ヶ瀬新田堀越村大字中瀧新分田村大字寺社安田村大字保田東蒲原郡下條村大字小石取津川町ヲ經テ福島縣河沼郡ニ通スル路線

縣道三等之部

第十九項(三島郡寺泊町ヨリ全部善高村大字大河津ニ至ル路線)改正

一 三島郡寺泊町(國道五號線ヨリ分岐)ヨリ全部善高村大字大河津南蒲原郡信條村大字中條

新田今町見付町古志郡枋尾町北魚沼郡小出町村ヲ經テ南魚沼郡浦佐村ニ至ル路線

但北魚沼郡青島村地内ニ於テ國道八號線ニ合ス

第廿三項(古志郡北谷村大字名木野ヨリ全部枋尾町大字枋尾町村ニ至ル路線)刪除

第三十一項(刈羽郡柏崎町ヨリ中畧全部岡野町村ニ至ル路線)改正

一 刈羽郡柏崎町(國道五號線ヨリ分岐)ヨリ全部秋津村大字與板岡野町村ヲ經テ東頸城郡松

平村大字松代ニ至ル路線

第三十九項(西頸城郡須澤村大字須澤ヨリ中畧全部山ノ坊ヲ經テ長野縣安曇郡ニ至ル路線)刪

除

末項へ追加

一 三島郡日吉村大字島越ヨリ全部宮本村大字宮本ニ至ル路線

一 西頸城郡糸魚川(國道廿一號線ヨリ分岐)ヨリ全部大野村下根知村大字根小屋ヲ經テ長野

縣安曇郡ニ通スル路線

●明治廿四年(三月)縣令甲第二十三號

第五類 河川堤防、道路、橋梁

明治廿三年(五月)縣令甲第四十一號土木工事請負規則別冊之通り改正ス
但本則施行以前既ニ請負ヲ命シタルモノハ舊規則ニ依ル

土木工事請負規則

- 第一條 本廳直轄土木工事ノ請負ハ總テ公告シテ競争入札ニ付スヘシ
但左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス請負人ヲ特選シ又ハ直チニ施行スルコトアルヘシ
 - 一 特別ノ工法ニシテ學術的ヲ要スル工事
 - 一 至急ヲ要スル工事ニシテ競争ニ付スル暇ナキハ
 - 一 競争入札人三名ニ滿サルハ
 - 一 第十四條ノ場合ニ於テ入札ヲ全廢シタルハ
 - 一 増工事ニシテ前請負工事ト混同スルハ
 - 一 百圓未滿ノ工事
- 第二條 工事請負ヲ分チ左ノ二種トス
 - 一 甲種堤防道路改築其他著大ナル工事
 - 一 乙種堤防道路修繕等甲種以外ノ工事
- 第三條 左ニ記載スル各項ニ該當スルモノニアラサレハ甲種請負競争ニ加ハルコトヲ得ス
 - 一 三年以上土木工事ニ從事シタルヲ證明シ尙實地問題ニ對シ適當ナル答辯ヲ爲シタルモノ
- 一 前項ニ該當スルモノヲシテ工事ヲ擔當セシムルモノ

一本縣下ニ住居シ直接國稅年額貳拾五圓以上納ムル身元保證人ヲ立テ得ルモノ

第四條 本縣下ニ住居シ直接國稅年額五圓以上納ムル身元保證人ヲ立テ得ルモノニ非レハ乙種ノ請負競争ニ加ハルコトヲ得ス

第五條 甲種ノ請負競争ニ加ハラント欲スルモノハ第三條第一項ニ該當スル證明書及納稅ニ關スル市町村長ノ證明書(第二號書式)ヲ添ヘ身元保證人タルヘキモノ及工事擔當人アルハ其擔當人共連署ノ上前以テ本廳ノ承認ヲ受ケ置クヘシ
但本條承認ノ効力ハ一ケ年度限リトス

第六條 乙種ノ請負競争ニ加ハラント欲スルモノハ身元保證人タルヘキモノト連署シ納稅ニ關スル市町村長ノ證明書(第二號書式)ヲ入札前ニ差出スヘシ
但甲種請負ノ資格アルモノハ本文ノ限リニ非ス

第七條 入札法ヲ以テ工事ヲ請負ハシムルトキハ少クモ三日以上揭示又ハ新聞紙等ヘ公告スヘシ

- 但公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ
- 一 競争入札ニ付スル起業地及工事ノ種類
 - 一 現場案内ノ日時場所
 - 一 仕様書縦覽ノ場所
 - 一 競争入札ヲ執行スル日時場所
 - 一 工事日數

一 入札保證金

第八條 競争入札ハ目論見書ノ節目毎ニ金額ヲ掲ケ合計金ヲ付シ記名捺印シ築品準備見込書(第三號書式)ヲ添ヘ差出スヘシ

第九條 入札ハ左ノ場合ニ於テハ其効ナキモノトス

- 一 入札人又ハ其代理人(本人ノ委任狀ヲ携帶シタルモノ)開札ノ場所ニ出席セサル片
- 一 入札保證金ヲ出サズル片
- 一 目論見書ニ築品準備見込書添付セサル片
- 一 甲種工事ニシテ現場ヲ實見シタル證明書ナキモノ

第十條 開札ハ公示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十一條 開札時限后入札ヲ辭シ又ハ入札ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 入札ハ合計金額最低ノモノヲ以テ落札者ト定ム尤モ其合計金額内譯ニ於テ單價時價ニ應シ準得サルモノハ之ヲ引直サシムヘシ

但左ノ場合ニ於テハ落札ノ効ナキモノトス

- 一 文字ヲ改竄シ又ハ貼紙ヲ爲シ之ニ捺印セサルモノ
- 一 字体不明其他見積リ落札等アル片

第十三條 落札ト爲ルヘキ同價ノ入札アルトキハ同價ノ入札者ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシメ尙ホ同價ノ入札ナルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第十四條 入札合計價格不相當ナルカ若クハ下低者其落札ヲ辭スルトキハ順次下低者三番札

全年縣令甲第
三十一號ヲ以
第一項ヲ改正
ス全文次ニ掲
シ

全年縣令甲第
七十二號ヲ以
テ十五條ヲ改
正全文次ニ掲
シ

迄ヲ採リ三番札又其落札ヲ辭スルトキハ再入札ヲ爲シ又ハ全廢スルコトアルヘシ

第十五條 保証金ハ現金又ハ銀行預リ券ニ限リ左ニ掲グル入札請負ノ二種トス

- 一 入札保証金ハ其時々公告ニ記載シタル金額
- 一 請負保証金ハ落札代價百分ノ二十ニ該當スル金額

第十六條 入札保証金ハ三番札迄止メ置キ落札者定マリタル后チ之ヲ還付ス其落札者ニ在テハ請負保証金ト之ヲ引替又請負保証金ハ工事竣功検査済ノ后チ之ヲ返還スヘシ

第十七條 落札人ハ請負ヲ命シタル日ヨリ一週内ニ請負保証金相添請書(第一號書式)差出スヘシ若シ期限經過スル片ハ請負ヲ取消シ入札保證金ハ本廳ノ收得トスヘシ

第十八條 擔當人ナキ請負人若クハ擔當人ハ常ニ工場ヲ離ルヘカラズ若シ事故アリ工場ヲ離レ又ハ二ヶ所以上ノ工事ヲ請負フタル片ハ各擔當人ヲ置クヘシ

但乙種請負人ニ在テハ係官ノ承諾ヲ得テ相當ノ代理人ヲ立ツヘシ

第十九條 工事着手ノ日限及其順序ハ本廳ノ指揮ニ從ヒ竣功ニ至ラハ出來形検査済ノ証ヲ受クヘシ

第二十條 工事ニ要スル木石其他ノ物品ハ總テ検査ヲ受ケサレハ使用スルコトヲ許サス

第二十一條 工事既済部分ニ對シ工費ヲ請求スルトキハ検査ノ上月一回限リ出來形金額十分ノ八以内下付シ精算金ハ出來形検査済ノ后チ下渡スヘシ

第二十二條 成功日限ノ延期ヲ乞フモノアルトキハ一日ニ付請負金高千分ノ一ニ對スル金額上納セシメ許可スルコトアルヘシト雖モ延期日數ハ通シテ成功期限日數ノ五分ノ一ニ超ユ

第五類 河川堤防、道路、橋梁

ルコトヲ許サス

前項ノ場合ニ於テ上納金額ハ本廳ノ收得トス若シ其延期日限以内ニ成功シタルトキハ竣功翌日ヨリ日數ニ應シ既納金額ハ還付ス

天災地變ニヨリ延期ナ與フヘキ實アル者又ハ本廳ノ都合ニ依リ延期スルキハ納金ヲ要セス但本廳ヨリ延期シタルキハ之ニ對スル損害アルモ其要償ノ責ハ負ハサルヘシ

第二十三條 開札后入札ヲ辭シ若クハ請負人其請負ヲ辭スルキハ入札保証金若クハ請負保証金ハ本廳ノ收得トスヘシ

第二十四條 工事着手后請負ヲ辭スルモノハ其出來形ニ應シタル工費十分ノ八以外ハ拂ハサルヘシ

第二十五條 前條ノ場合ニ於テ仕様外ノ工事ハ日限ヲ定メ引直サシムヘシ此場合ニ於テハ下渡スヘキ工費アルモ引直シ工事竣功迄ハ下渡ササルヘシ若シ日限内ニ引直ササルトキハ該金額ヲ以テ本廳ニ於テ引直シ剩餘金アルトキハ之ヲ下戻スヘシ

第二十六條 請負人本則ニ背キ又ハ本廳ノ指揮ニ應セス若クハ故ナク工事ヲ延滞シ請負期限内ニ竣功スヘカラスト認ムルキハ直チニ請負ヲ取消シ其保証金ハ本廳ノ收得トスヘシ

第二十七條 請負工事ヲ轉賣シタルモノト認ムルキハ其請負ヲ取消スコトアルヘシ此場合ニ於テハ保証金ハ本廳ノ收得トシ第二十四條第二十五條ヲ適用ス

但本條ノ場合ニ於テハ第二十四條第二十五條ヲ適用ス

第二十八條 本則第二十四條ノ請負ヲ辭シタルモノハ一ケ年間第二十六條第二十七條ノ請負

取消ヲナシタルモノハ三ケ年間本廳工事ノ競争入札ニ加ハルヲ得ス

第二十九條 工事竣功検査ノ後ト雖モ外面ヨリ檢了シ能ハサル水中又ハ土中等ノ工事ニシテ一ケ年内ニ仕様書ニ違ヒタルヲ發見シタル片ハ三ケ年間本廳工事ノ競争入札ニ加ハルヲ得ス尙ホ其工事ハ仕様書ノ通之ヲ引直サシムヘシ

第三十條 第二十一條第二十四條第二十六條第二十七條第三十一條第三十三條ノ場合ニ於テハ検査員ヲ派遣シ之ヲ検査ノ上其出來形歩合ハ本廳ニ於テ之ヲ定ムヘシ

但第二十一條ヲ除ク外ハ特ニ検査員ヲ二名以上トス

第三十一條 本廳不得止場合ニ於テハ請負ヲ取消スコトアルヘシ尤其出來形ニ應シ工費ヲ下渡スヘキハ勿論現ニ工場ニ備ヘタル検査済ノ築品ハ請負單價ヲ以テ買入ルヘシト雖モ準備ニ對スル損害アルモ其要償ノ責ハ負ハサルヘシ

第三十二條 本廳ニ於テ一時工事ヲ中止シタルキハ請負人ノ請求ニ依リ中止中保證金ハ下渡スト雖モ損害要償ノ責ハ負ハサルヘシ

第三十三條 二ケ所以上ノ工事ヲ請負クルモノニシテ本則第二十八條ノ處分ヲ受ケタルキハ其處分外ニ係ル本廳工事ノ請負ハ同時ニ取消シ之ニ對スル出來形工費及保證金ハ共ニ下渡スヘシ

第三十四條 請負人死亡シタルキハ身元保證人ナシテ(甲種ナルキハ擔當人ヲ立テ)工事ヲ繼續セシム此場合ニ於テ工費ハ總テ保證人ニ下渡スヘシ若シ其工事ヲ繼續セサルトキハ第二十四條ヲ適用シ請負保證金ハ還付スヘシ

第五類 河川堤防、道路、橋梁

第三十五條 請負人所在不分明ナルトキハ本則第二十六條ニ依リ處分スヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ本人請負ニ係ル條件ハ總テ身元保證人ニ於テ處辨スヘシ

第一號書式

工事請負受書



郡町村何々工事

請負 高

一金

此保證金

前記金額ヲ以テ何々工事請負被命クルニ付都テ請負規則ヲ遵守シ來ル何月何日ヨリ起工シ何月何日ヲ期シ別冊仕様書之通無相違竣功可仕若シ規則ニ背キタルトキハ直チニ御處分相成候共聊異議無之候依テ身元保證人進署請書差出候也

族籍住所

年月日

身元保證人

姓

名

年

印

全

請負人

姓

名

年

印

縣知事宛

第二號書式

證明書

右之者甲種(或ハ乙種)工事請負競争ニ加ハリ落札ノ上ハ拙者保證人ニ相立候條直接國稅年額二十五圓(乙種ハ五圓)以上納ムル事ヲ證明相成度候也

何郡市町村

何

ノ

某

年月日

入札人

何

ノ

某

年

齡

全

保證人

何

ノ

某

年

齡

市町村長宛

右保證人何ノ某直接國稅年額二十五圓(或ハ五圓)以上納ムル者ニ相違無之ヲ以テ證明ス

何市町村長

姓

名

印

第三號書式

築品準備見込書

何郡何村何々工事

一 用材

何郡何村ヨリ購入

一 砂利

何村大字何小字何々ヨリ運搬或ハ購入

第五類 河川堤防、道路、橋梁

一土

全上

粗菜其他目論見帳記載ノ築品前例ニ依リ不殘記載スヘシ
右者築品準備見込書差出候處相違無之候也

何那何村大字
入札人 何ノ某

●明治廿四年(五月)縣令甲第三十一號

本年三月縣令甲第廿三號土木工事請負規則第十二條但書第一項左ノ通改正ス

一 合計金其他調査上必要ナル文字ヲ改竄シ又ハ貼紙ヲ爲シ之ニ捺印セサルモノ

●明治二十四年(十月)縣令甲第七十二號

本年三月縣令甲第二十三號土木工事請負規則第十五條第二十二條第一項及第一號書式第四號書式左記之通改正追加ス

第十五條 保証金ハ入札請負ノ二種トシ左ノ制限ニ據リ定ムルモノトス

一 入札保証金ハ公告ニ指定シタル金額(現金ニ限ル)ヲ競争入札ニ添付シ差出スヘシ

一 請負保証金ハ落札代價百分ノ十ニ該當スル現金若クハ公債証書(時價二割以内ヲ以テ計算ス)ヲ上納スヘシ

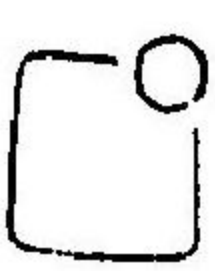
但他人ノ公債証書ヲ上納スルハ(記名証書ナル片ハ賣買ノ委任狀添付ス)第四號書式ニ依リ承諾証書ヲ差出スヘシ

第二十二條 成功日限ノ延期ヲ乞フモノアル片ハ一日ニ付請負金高千分ノ一ニ對スル金額上

納セシメ許可スルコアルヘシ

第壹號書式

工事請負請書



郡町村何々工事
請負 高

一金 此保証金

前記金額ヲ以テ何々工事請負被命タルニ付都テ請負規則ヲ遵守シ來ル何月何日ヨリ起工シ何月何日ヲ期シ別冊仕様書之通無相違竣功可仕若シ規則ニ背キタルトキハ直チニ御處分相成候共聊異議無之候依テ身元保證人連署請書(並ニ保証金額承諾証書添付)差出候也

年月日

身元保證人 姓 名 年 印 齡

全

請負人 姓 名 年 印 齡

縣知事宛

第四號書式

第五類 河川堤防、道路、橋梁

保証金額承諾證

一金

工事請負保證金

此抵當トシテ左ノ物件ヲ供ス
公債證書額面

何々公債	額面壹枚	何印番號
但 何々公債	額面壹枚	何印番號

右者今般何郡何村何々工事請負某へ命セラレタルニ付拙者所有ノ前記公債證書本人ニ代リ差出候處確實也然ル上ハ本人工事ヲ辞シ又ハ規則ニ背キ請負取消ヲ命セラレ前記請負保證金ヲ納メサルキハ御差圖次第自分ヨリ該金額ヲ辨償可任若シ其節差支候ハ、抵償ニ供シタル前記公債證書御賣却ノ上御取立相成候トモ異議無之依テ承諾證書差出候也

年月日

族籍住所

姓

名

印

年

齡

縣知事宛

郡市役所

町村役場

●明治廿四年(四月)訓令甲第十六號

河川堤防ニ關スル出願順序自今左ノ通り相心得ヘシ

一 通常修繕目論見表差出期限ノ義毎年三月三十一日限リトス

一 臨時修理ヲ要スル際ハ危破ノ狀況詳細届出ツヘシ

一 通常(臨時)(目論見精算)表其他燭管修繕等治水ニ係ル普通ノ件ハ直チニ受持派遣所へ差出スヘシ

但舊三等川ニ係ル者ハ所轄郡市役所へ差出スヘシ

●明治廿四年(四月)縣令甲第二十五號

國縣道ニ關スル橋梁樋管溝渠費等支出規則左之通相定ム

國縣道ニ關スル橋梁樋管溝渠費支出規則

第一條 國縣道ニ架スル橋梁ハ橋錢ノ免許アルモノヲ除クノ外總テ地方税ノ負擔トス

第二條 國縣道ニ關スル樋管ハ道路ノ除害ニ屬スルモノヲ地方税ノ負擔トシ用惡水路ニ屬スルモノヲ市町村ノ負擔トス

第三條 國縣道ニ沿フタル溝渠及ヒ用惡水路ニ關スル修繕ハ道路ニ沿フタル一面ヲ地方税ノ負擔トシ其他ノ一面ヲ市町村ノ負擔トス

第四條 國縣道ヲ改築變更シ若クハ道幅取擴ノ爲メ要スル事業ハ用惡水路ニ屬スルト雖モ地方税ノ負擔トス

第五條 用惡水路ニ屬スル事業ノ爲メ國縣道ニ橋梁ヲ架設シ又ハ修繕ヲ要スル場合ハ市町村ノ負擔トス

第六條 第四條及第五條ノ規定ハ各起業ノ際ニ限ルモノトシ之ヲ修造スルハ第一條及第二條ノ例ニ依ル

第七條 國縣道ノ溝渠ニ關スル事業ニシテ地方税ト市町村ト區別シ難キトキハ地方税ノ負擔

第五類 河川堤防、道路、橋梁

トス

第八條 市町村ニ屬スル土木事業ニシテ國縣道ニ關係スルモノハ總テ目論見帳及圖面ヲ添ヘ本廳へ出願許可ヲ受クヘシ

●明治廿四年(五月)縣令甲第三十三號
人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津道路等電報配達人ヨリ貸錢請求不相成旨明治十五年十二月甲第二百廿八號及全廿二年一月縣令甲第一號ヲ以テ相達置候處尙其筋ヨリ訓令ノ次第有之候條自今左ノ雛形ノ印鑑携帶ノ者モ貸錢請求相成ラス
二寸五分

曲尺二寸

第號
何國
何地電信取扱所配達人
何之誰

○明治年月日
何國何地電信取扱所

●明治廿四年(六月)訓令甲第廿四號
郡役所、市役所、町村役場
地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使用ハ自今其費用負擔スル市町村ニ於テ處分スヘシ但本文ノ場合ニ於テハ本廳ノ認可ヲ請フヘシ
前項堤塘道路並木敷使用料及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木其他ノ收益ハ其費用ヲ

負擔スル市町村ノ收入ニ屬スヘシ
費用ノ主擔定マラサルカ又年々負擔ヲ異ニスル堤塘道路並木敷用惡水路土居敷等ニ關スル事項ハ本廳ニ於テ處分シ其收益ニ屬スルモノハ本廳ニ於テ之ヲ徵收シ費用ヲ負擔スル市町村ニ配付スヘキモノトス
地盤ノ市町村有ニ屬スル堤塘ノ使用及堤塘ヨリ生スル收益等ハ市町村ノ管理ニ歸セシムヘシ
●明治廿四年(九月)訓令甲第四十一號
郡市役所 町村役場
本年六月十二日本廳甲第廿四號訓令末段へ左ノ一項ヲ追加ス
街路取締規則ニ明文アルモノハ前各項ニ含有セス

○船 舶 付海員雇入雇止

●明治廿四年(一月)縣令甲第四號
内外國艦船ニシテ本縣沿岸ニ於テ危難ニ罹リタル者アルトキハ郡市役所町村役場警察署等ヨリ電報ヲ以テ海軍省及海軍區ノ鎮守府(橫須賀)ニ報告スヘシ又軍艦其附近ニ在ルトキハ直ニ其軍艦ニ報告スヘシ
船舶會社若クハ船主其所有ノ船舶危難ニ罹リタルトキハ該會社若クハ船主ヨリ電報ヲ以テ海軍省及海軍區ノ鎮守府(橫須賀)ニ報告シ又軍艦其附近ニ在ルトキハ直ニ軍艦ニ報告スヘシ
前兩項トモ海軍艦船ノ救護ヲ要スルコト及ハスト思考スルトキハ報告セサルモ妨ケナキコトノ心得ヘシ

第五類 船舶付海員雇入雇止

但本條ニ關スル費用ハ其儲蓄金ヨリ支出スヘシ

第五條 知事ハ毎半期儲蓄金明細表ヲ製シ之ヲ管内ニ公告ス

第三章 支給

第六條 非常ノ凶荒又ハ不慮ノ災害ニ罹リ自ラ生存スル能ハサル窮民ハ男一人一日玄米三合(麥ハ六合雜穀ハ九合但七十歳以上十五歳以下ハ女ノ割合ヲ以テ給ス)女一人一日玄米二合(麥ハ四合雜穀ハ六合)ノ積ヲ以テ十五日以内速ニ救助スヘシ若シ日數十五日以上ニ及フモ猶ホ生存ノ目途立チ難キ者ハ更ニ十五日以内給與スヘシ

第七條 水火風震等ノ難ニ遭ヒ家屋蕩燼又ハ流失シ自ラ小屋掛ヲ營ム能ハサル窮民ハ其罹災ノ狀況ニ依リ左ノ三等ニ區分シ小屋掛料ヲ給與スヘシ
但借家住居及ヒ同居ノ者ハ此限ニ非ス

- 一 等 金 拾 圓
- 二 等 金 七 圓
- 三 等 金 五 圓

第八條 前條ノ災害ニ罹リ農具ヲ失ヒタル窮民ハ其狀況ニ應シ農具料一戸拾五圓以内ヲ給與スヘシ

第九條 非常ノ凶荒或ハ不慮ノ災害ニ罹リ種穀ヲ失ヒタル窮民ハ其狀況ニ應シテ左ノ割合ヲ以テ給與スヘシ
但其金額ハ一戸五圓以内ナルヘシ

田 一反ニ付 種粉七升以内

畑 一反ニ付 種粉八升以内

第十條 流行病ニ罹リ目下飢餓ニ迫ル者アル時ハ第六條ノ例ニ依リテ給與スヘシ

第十一條 非常ノ凶荒又ハ不慮ノ災害ニ罹リ土地家屋ヲ賣却スルニ非サレハ地租ヲ納ムル事能ハサル窮民アル時ハ其請願ニ依リ實地踏見ノ上其狀況ニ應シ地租ノ全額或ハ其幾分ヲ貸與スヘシ

第十二條 地租ノ貸與ヲ請願スル者ハ地租ヲ納ムル能ハサル事由ヲ詳記シ到達日數ヲ除キ地租納期(初日)二十日以前ニ於テスヘシ
但地租納期ニ際シ罹災ノ者ハ此限ニ非ス

第十三條 地租ノ貸與ヲ受ケタル者ハ左ニ定ムル期限ニ依リテ返納セシムヘシ
地租七分以上貸與 (貸付ノ月ヨリ毎十二ヶ月目) 七ヶ年賦
全 五分以上貸與 全 五ヶ年賦
全 五分未満貸與 全 三ヶ年賦

第十四條 貸與期限内再度ノ災ニ罹ルモノハ第十一條ニヨリ又其地租ヲ貸與ス但此場合ニ於テハ舊貸與金ノ返納殘額ハ免除スヘシ

第十五條 貸與年限内ニ於テ天災ニ罹リ荒地トナリタル時ハ其地所ニ係ル返納殘額ハ免除スヘシ

第十六條 貸與年限内ニ該地所(或ハ幾分ヲ分割シ)ヲ賣却スル時ハ其年限ニ拘ハラズ其地所

ニ係ル貸與金額ハ登記簿ノ日ヲ以テ一時ニ返納スヘシ
第十七條 給與及貸與スヘキ宛民ハ總テ市町村長ニ於テ其狀ヲ具シ郡ハ郡長ノ審査ヲ經テ知
事ニ稟請スヘシ

第十八條 前條給與及貸與ノ金額ハ銀行へ預ケ置クモノヲ以テ支出スヘシ其金額ヲ以テ支弁
シ能ハサルノ場合ニ於テハ公債証券ヲ金ニ替ヘ其支給ニ應スル者トス

○第六類

○鑛山

●明治廿四年(四月)訓令甲第十四號

郡市役所 町村役場

明治廿三年(七月)農商務省令第七號第四條第二項ニ依リ試掘借區等ニ關スル出願届出アルト
キハ市町村役場ハ其受理ノ日ヨリ十五日以内ニ本知事ニ具申スヘシ
但特別ノ調査ヲ要スヘキモノハ此限リニアラス

●明治廿四年(五月)告示第五十四號

諸鑛山試掘願書ニ添屬スヘキ圖面ニ就テハ從來一定ノ書式無之爲メ往々差支ヲ生シ候コ付自
今鑛山試掘出願ノモノハ地景見取圖ヲ製シ試掘地字界ヲ置キ試掘境界線ニハ間數ヲ記入シ基
點ハ圖上ニ正石大木或ハ家屋橋梁等不動物体ヲ明記シ南北線ヲ引キ且其點ト境界トヲ結付ク
ルモノニハ方位間數共記入ノ上各願人記名調印シ其他ハ總テ借區圖ノ通り調製スヘシ

●明治廿四年(七月)告示第九十六號

諸鑛山試掘願ニ添屬スヘキ圖面調製方ニ付テハ本年五月告示第五十四號ヲ以テ指示候處該圖
面ニハ尙ホ縮尺ノ割合ヲモ記載スヘシ

●明治廿四年(六月)縣令甲第四十二號

諸鑛山試掘借區抗業明細表開報ノ件日本抗法第十九款ニ據リ其抗業人ハ開報期(前半期七月
後半期一月)ヲ誤ラス地元町村役場ニ差出シ町村役場ニ於テハ調査取纏メノ上前半期ノ分ハ
八月十日後半期ノ分ハ翌年二月十日限リ郡役所ニ回送シ郡役所ニ於テハ詳查之上前後兩期共
其月限リ全郡取纏メ本廳へ送致スヘシ

●明治廿四年(七月)訓令甲第三十六號

郡市役所 町村役場

諸鑛山試掘延期願届書經由ノ爲メ受理シタル片ハ當初試掘許可以來抗業著手ノ模様及延期出
願ノ事由等判然取調具申スヘシ

○第七類

○土地評價

●明治廿四年(八月)訓令乙第五十七號

郡役所

明治廿三年本廳訓令第五十四號官有地々價及貸渡料等評價ノ義ニ付テハ官有土地水面ノ使用
料又ハ賣渡代價其他等民間之料額價格ニ比シ動モスレハ低下ニ過シルノ嫌アリ自今其額ヲ評

定セシムルニ當リ務メテ至當ノ價格ヲ得セシメノヲ期スヘク特コ甲地ト乙地ト價格懸隔シ
爲メニ公平ナラサルカ如キ感情ヲ生セシムルヲナキ様厚ク注意スヘシ

○社寺院境内地

●明治廿四年(六月)訓令甲第廿七號

郡役所、市役所、町村役場

官有地社寺院境内ヲ他人ニ使用セシムルハ其社寺ヨリ地形詳圖添本廳ノ認可ヲ受ケ三ヶ月以
内ノ期限ヲ以テ社寺院限リ使用ナサシムヘシ

但祭典等ニ際シ一時使用スルハ其社寺院限リ承諾スルヲ得

官有地社寺院境内ノ竹木ヲ伐採シ及枯損木障碍木處分ニ關シ社寺ヨリ認可ヲ請フハ郡市長ハ
従前ノ例ニ依リ其社寺ノ風致ヲ保存スルコトニ注意監督スヘシ

社寺院境内ノ使用料並竹木其他ノ收益ハ該社寺ノ收入ニ屬スヘシ其收入財産ハ明治十四年乙第
六十五號達ニ依リ整理セシムヘシ

前各項ニ關スル事項ハ各社寺ニ豫メ示シ置クヘシ

○地圖調製方

●明治廿四年(九月)訓令乙第六十四號

直稅分署

明治廿年縣令甲第百廿三號町村地圖調製方ニ關シ彙ニ屢々令達及ヒ置候處尙今後之取扱方左
ニ相示候條右ニ據リ取扱フヘシ

第一項 未ダ調製濟ニ至ラサル町村ニ向ツテハ各其實況ヲ異ニスルヲ以テ毎町村一律ニ督勵

出來難クニ付其村其町ノ實況ニ應シ適宜忘ラス勸誘スルノ方針ヲ採リ町村長等分署へ出頭
スルカ又ハ分署員ニ於テ他用ノ爲メ其町村へ出張シタルハ地圖ノ今日ニ必要ナル趣旨等
ヲ說示シ經費ノ許ス限リハ可成速ニ調製候様勸誘スヘシ但丁寧謹慎ヲ主トシ感情ヲ損セサ
ル様注意スヘシ

第二項 廿年縣令甲第百廿三號但書ニヨリ更ニ調製ヲ要セサルモノ、範圍ハ客年四月收訓第
五七號ヲ以テ相示シ置候處右ハ要スルニ實地ト對照上差支無之モノハ更ニ實測ヲ要セサル
ニ付之レ等ハ舊繪圖ニ掛紙ヲ爲シ調製後今日迄ノ異動ヲ更正ノ上呈上スルコト於テハ差支無
之候條斯カル町村ハ先以テ村扣圖ニ掛紙ヲ以テ更正爲サシメ之ヲ調査シ不都合ナシト認メ
タル上爰ノ官納地圖ヲ下戻スヘシ

但本文ノ分ハ字圖ニ假用スル義ニシテイ號町村圖ハ新町村區域ニヨリ更ニ調製ヲ要スル
モノトス

第三項 地圖調製濟ニ至リ納付シ來ルモノハ其全村ナルト否トテ問ハス官有地ニ接續ノ箇所
或ハ平常爭論等アル箇所ニシテ特ニ確ムル必要アルモノハ適宜調査シ別ニ不都合ナク且多
少圖式等ニ副ハサル廉アルモ實用ニ差支ナシト認ムルモノハ其儘受理スヘシ

但町村ト製圖者トノ間ニ於テ檢査濟ノ上調製費ヲ授受スルノ約アル趣ヲ以テ檢査方ヲ請
求スルモノアルハ既ニ受理セシモノナレハ此上實地檢査ハ爲サ、ル旨指示スヘシ

第四項 既ニ受理セシ地圖ハ縣令甲第百廿三號更正手續ニヨリ處分濟之時々更正スヘシ

○山林原野

●明治廿四年(二月)告示第六號
 官林產物中田圃肥料及自家燃料等ニ必要缺クヘカラサル下草落葉小柴等從來慣行ニ因リ特賣ヲ請求スルモノハ自今年々三月三十一日限リ小林區署及派出所へ願書差出方長野大林區署ヨリ通知越モ有之ニ付該期日無違滯願書差出スヘシ

●明治廿四年(二月)訓令乙第七號

郡役所

明治廿三年九月訓令乙第四十五號官有地及該地ニ生殖スル物件賣買貸借手續第十九條左ノ通改正ス

但第二號書式中契約ノ二字刪除ス

第十九條 契約保証金ハ明治廿三年(三月)大藏省令第八號保管金取扱規程ニ依リ保管証書ヲ以テ納付セシメ第五號書式ニ倣ヒ預書ヲ交付シ契約盡了ノト其預書ト引換還付スヘシ
 第五號書式

第 號

一金何程

証

何所金庫

保管ノ事由

第何號保管証書

右正ニ預置候也

年月日

何郡長官姓名印

何 某 殿

郡 長 印

第 號

住 所

一金何程

納 人

姓

名

但何々契約保証金何所金庫第何號保管証書

年 月 日

●明治廿四年(四月)告示第四十一號

官林ニ關スル諸願何等ハ自今長野大林區署長林務官永田正吉宛ヲ以テ差出スヘシ

●明治廿四年(十一月)告示第四百四十號

長野大林區署小林區管轄區域在ノ通變更相成候條自今官林ニ關スル諸願屆等ハ該小林區署ヲ經由大林區署へ差出スヘシ

小林區々域變更表

小林區名

國

管

郡

轄

町

區

城

村

長野縣 飯 山

全

越 後

東 頸 城

一 圓

中 頸 城

三 鄉

豐 原

板 倉

根 越

水 上

箕 冠

寺 野

菅 原

泉

瑞 穂

六月町		直江津											
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	越後	全	全	
全	中魚沼	北魚沼	越後南魚沼	原通	津有	直江津	川谷	大湊	中頸城	西頸城	中魚沼	全	
橋	中野	一圓	一圓	中郷	新道	谷濱	黒川	南川	米山	一圓	<small>秋成ノ内 中津川</small> 赤崎	平丸	
真田	十日町			下板倉	柿崎	和泉	高城	頸城	上米		寺田	長澤	
河内	大井			參賀	飯田	高士	高田	明治	鉢崎		上郷	大鹿	
川治	千手			大倉	桑取	里平	大和	旭	七箇		谷内	豐葦	
今泉	三好			國明	關山	上杉	郷下	川下	犀濱		宮野	境	
新座	吉田			矢代	妙高	美守	高志	黒川	犀湯		原	水原	
中條	下組			大崎	杉ノ	諏訪	國府	中吉川	西郷			池	
東下	鏡島				鳥坂	保倉	斐太	大出	湯町				
眞人	岩澤				關川	有田	春日	川上	八千				
仙田	上野							水	北				

全 全 六箇馬場 貝野 田澤 三箇 外丸 秋成ノ内
中津川 倉俣 中深 見

●明治廿四年(十一月)告示第四百一十一號
長野大林區署新潟小林區署ノ位置ヲ中津原郡村松町ニ移シ本月十日ヨリ村松小林區署ト改稱
相成候條此旨心得ヘシ

●明治廿四年(九月)縣令甲第六十四號
●明治廿一年三月縣令甲第三十六號山野火入取締規則第二條中ノ五日ヲ二日ト改メ第三條ノ但
書左ノ通改正ス
但本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキモノト見認ムル片ハ此限ニアラス

○第八類

○租 稅

○地 租

●明治廿四年(三月)訓令乙第十八號

直稅分署長

明治廿四年(一月)訓令丙第十一號へ左ノ一項ヲ追加ス
一土地臺帳所有者姓名誤謬訂正願ニ對シ指令ノ手續ヲ爲ス事

●明治廿四年(七月)縣令甲第四十八號

明治廿三年(四月)縣令甲第三十六號地租條例及地租條例施行細則ニ關スル心得書及全樣式中左之通改正刪除シ第九條ヲ追加ス

但明治廿年(五月)縣令甲第八十一號土地分合筆取振手續ハ廢止ス

心得書第一條中 收稅部出張所ノ六字ヲ市役所町村役場ヲ經由直稅分署ノ十四字ニ改ム

全第二條第十三第十四中 願トアルヲ届ト改ム

全第四條第三中 及官沒地ノ四字ヲ刪除ス

全第五條中 工事着手ノ下ヘ又ハ買上ノ四字ヲ加フ

全第六條中 出願ノ二字ヲ届出ノ二字ニ改ム

全第八條 刪除ス

全第九條 市町村長ハ土地分合筆届書ヲ受領シタルトキハ其反別地價分配方ノ當否ヲ調査シ若シ不適當ト視認ムルトキハ實地ニ臨檢ノ上其旨ヲ說示シ承服セサルモノハ意見書ヲ付シ直稅分署ヘ差出スヘシ

全第一號樣式凡例初項開墾年期ノ下ヘ及開墾廢止ノ五字ヲ加ヘ尙末尾ヘ「一社寺持ハ惣代人町村持又ハ一部落持ハ其管理人ニ於テ何社(何寺)惣代人又ハ何村持管理人トシ記名調印スヘシ以下全シ」ノ一項ヲ加フ

全第三號樣式表題土地分筆及土地合筆ノ下願トアルヲ届ト改ム

全第四號樣式官有地成記減例中朱書ノ分ハ總テ刪除シ道路反別五畝歩トアル野ノ字地番元

地目欄(何々何番)田ノ五字(墨書)ヲ加フ

全樣式凡例初項開拓地ノ下ヘ變換地ノ三字ヲ全項末尾年期ノ下ヘ(無年期開墾地ハ開墾着手ノ年變換地ハ變換届出ノ年ヲ付記スヘシ)割註ヲ加ヘ全末項一ノ下官有地成ノ四字及

殘額ヲノ下官有地成及ノ五字ヲ刪除ス

●明治廿四年(八月)訓令甲第三十八號

市役所 町村役場

明治廿三年(十一月)訓令甲第七十二號變換地取扱心得書中左ノ通更正ス

第一項 元地目ノ傍ニ「下」朱字訂正シ元段別地價地租ヲ其變換セシ地目ニ組換フヘシトアルヲ「朱記」置クヘシト「下」更正ス

第二項 徵收ノ年度ニ於テ「下」疑ニ訂正セシ「ノ」六字刪除ス

●明治廿四年(八月)訓令乙第五十四號

直稅分署

地租條例第十條第二項ノ土地ハ變換ノ年ヨリ五ケ年目ノ秋季ニ於テ實地檢査ヲ爲スヘシ

●明治廿四年(八月)訓令乙第五十五號

直稅分署

明治廿四年(二月)本廳訓令丙第五十六號土地異動上申并証憑書類送達手續及全書式中左ノ通更正ス

手續第二條第三條第四條左ノ通更正ス

第二條 地目變換地價修正上申ハ修正地價ニヨリ徵租ノ年ニ於テ土地臺帳其他訂正ノ上其年

四月二十日限リ差出スヘシ

第三條 前二條ノ上申ニ對スル証憑書類(租稅調定ニ關スル証憑書類調理順序第三條ニアル書類及年期付與等ノ指令原議書ヲ指ス)ハ上申書ト共ニ本廳ヘ送附スヘシ

○船 車

●明治廿四年(八月)縣令甲第五十號
明治廿一年(十月)縣令甲第百號諸營業者廢業其他願屆書ノ件申船車ノ破解ノ下ヲ「及其賣買讓與」ノ六字ヲ刪除ス

○酒 類

●明治廿四年(一月)縣令甲第八號
客歲九月縣令甲第七十三號自家用料酒製造者届出書式第一號中何某ノ肩ニ「職業名」ノ三字ヲ追加ス

●明治廿四年(二月)縣令甲第十二號

明治二十三年(九月)縣令甲第七十五號酒造營業人心得書中第十四項左ノ通改正ス

第十四 桶甕容量調査簿ハ二帳ヲ製シ一ハ間稅官吏之ヲ携帶シ一ハ營業人ニ交付スルヲ以テ營業人ハ檢査ノ都度其ケ所ニ捺印スヘシ

●明治廿四年(九月)訓令乙第六十二號

各間稅分署在勤

收稅屬 氏

名

酒造營業人ノ納稅保証ニ關シ公正証書ノ調製ヲ公証人ニ囑托スルヲ委任ス

○煙 草

●明治廿四年(四月)縣令甲第二十八號

明治二十一年(六月)縣令甲第七十號煙草取締規則第五條及全年全月縣令甲第六十九號煙草營業者心得第九號書式左ノ通改正ス

煙草取締規則

第五條 煙草製造營業ヲ爲ス者ハ未製造煙草ノ買入及藏出ヲ爲ス毎ニ其種類數量ヲ間稅分署ニ届出檢査ヲ受クヘシ

煙草營業者心得

第九號書式煙草製造帳ノ内業煙草買入ノ部「封印ヲ受ケシ月日」トアルヲ「檢査ヲ受ケシ月日」ト改メ全部凡例二項「封印ヲ受ケシ月日」ノ欄ニハ買入タル業煙草ニ封印ヲ受ケシ月日ヲ記載シ「トアルヲ」檢査ヲ受ケシ月日ノ欄ニハ買入タル業煙草ノ檢査ヲ受ケシ月日ヲ記載シ「ト改メ

全臨時藏出帳臨時藏出及藏戻ノ部「開封月日」トアルヲ「檢査月日」ト改メ「開封事由」トアルヲ「檢査受事由」ト改メ「檢査受封印藏戻年月日」トアルヲ「檢査受藏戻年月日」ト改メ凡例二項「檢査受封印藏戻年月日」ノ欄ニハ「トアルヲ」檢査受藏戻年月日ノ欄ニハ「ト改メ

●明治廿四年(六月)縣令甲第三十九號

二十一年(六月)縣令甲第六十九號煙草營業者心得第二十五條左ノ通り改正ス

第二十五條 煙草營業者廢業スルトキハ營業ニ關スル鑑札ヲ間稅分署ニ還納シ製造人ハ其器械ノ番號及烙印ノ削除ヲ受クヘシ

○印紙

●明治廿四年(二月)縣令甲第十三號
印紙類賣捌人ハ印紙類買入帳ヲ調製シ印紙類買入レヲ爲ス毎ニ買入ノ年月日印紙ノ種類枚數ヲ記入シテ之ヲ携帶シ元賣捌人ノ認印ヲ受ケ置クヘシ
但明治十九年(六月)甲第三百三十三號印紙類賣捌人心得書ハ廢止ス

○所得稅

●明治廿四年(六月)訓令乙第四十一號
明治二十二年五月訓令丙第四百六十二號所得稅調查委員調査ニ關スル諸費支給規則第五條左ノ通り改正シ給額表中筆墨料ノ區ヲ刪除ス
第五條 開會中雇人料及筆紙墨郵便稅ハ實費ヲ以テ之ヲ交付ス
郡役所

○租稅收方

○歲入出

各郡役所

●明治廿四年(二月)訓令乙第八號
明治二十三年(八月)大藏省訓令第二百二十四號租稅調定ニ關スル証憑書類調理順序第四條所得稅ニ關スル証憑書類ノ內其所取扱ニ屬スル分ハ二十三年度分ヨリ會計年度經過後二ヶ月以內ニ本廳へ送付スヘシ
●明治廿四年(三月)訓令乙第十七號
直稅分署(新潟直稅分署ヲ除ク)
明治二十三年(八月)大藏省訓令第二百二十四號租稅調定ニ關スル証憑書類調理順序第五條所得稅ニ關スル証憑書類ノ內其所取扱ニ屬スル分ハ二十三年度分ヨリ會計年度經過後二ヶ月以內ニ本廳へ送付スヘシ
●明治廿四年(四月)訓令乙第廿七號
間稅分署長
租稅外歲入金ノ內沒收金調定ノ事務ヲ委任ス
●明治廿四年(四月)訓令乙第廿八號
直稅分署收入官吏
租稅外歲入金ノ內沒收金收入ノ事務ヲ廿二年大藏省訓令第六十六號ニ據リ取扱フヘシ
●明治廿四年(五月)訓令乙第三十四號
直稅分署收入官吏
租稅外歲入金直稅分署長若シハ間稅分署長ヨリ納入告知書發布セシモノハ二十二年大藏省

訓令第六十六號ニ據リ收入事務ヲ可取扱義ト心得ヘシ

但本訓令ニ抵觸スル從來ノ訓令等ハ自今廢止ス

●明治廿四年(六月)訓令乙第三十九號

明治二十二年應中訓令第一五八號舊式別紙様式ノ通更正ス

別紙様式

直稅分署 間稅分署

第 何 號 何 市 郡 何 町 村 長 何 某 又 ハ 一 已 人 氏 名

元帳
割印

一金 何 程

內

一金 何 程

大字 何ノ 誰
大字 何ノ 誰

右 明治 何 年 何 月 何 日 發 第 何 號 徵 稅 令 書 之 內 ○ 減 額 ス

明治 何 年 何 月 何 日

縣 廳 之 印

縣 知 事 氏 名

備考

- 一 減稅スヘキモノ一入ナル片ハ内書ヲ省キ○印ノ個所ニ(大字何ノ誰分)ノ文字ヲ挿入ス
- 一 減稅スヘキモノ類人ニシテ内書ニ記入シ能ハサル片ハ一人別仕譯書ヲ添付シ全上ノ個所ニ(別紙仕譯書ノ通)ノ文字ヲ挿入ス
- 一 減稅違スヘキモノ一已人ナル片ハ内書ヲ要セス

○國稅臺帳

●明治廿四年(六月)訓令乙第四十號

間稅分署

明治十八年十月丙第六十七號國稅臺帳様式中第一號ノ内小船臺帳様式及ヒ第二號第三號第十號様式別紙之通改正候條漸次更正スヘシ

第一號樣式中

第一號樣式中										解漁船海川小廻船		何町(村)		
鑑札番號	年月日	間敷	事	故	番大	戸字	姓	名	再渡	新規	再渡	新規	再渡	新規

第八類 國稅臺帳

第八類 國稅臺帳										解漁船海川小廻船		何町(村)		
鑑札番號	年月日	間敷	事	故	番大	戸字	姓	名	再渡	新規	再渡	新規	再渡	新規

●明治廿四年(八月)訓令乙第五十八號
 明治十八年(十月)丙第六十七號國稅彙帳樣式中第十四號左ノ通改正ス
 (用紙内山十三行紙)

間稅分署

六六

資 格
 期 限
 印 紙 種 類
 許 可 年 月 日

住 所

氏 名

住 所

氏 名

資 格
 期 限
 印 紙 種 類
 許 可 年 月 日

○國稅賦課現計書及報告表

●明治廿四年(十二月)訓令乙第七十二號

直 稅 分 署

本年(十月)大藏省訓令第七十五號ニ準據シ尙ホ左ノ手續ニ依リ毎年國稅賦課現計書及報告表ヲ調製シ明治二十四年度分ヨリ本廳へ送付スヘシ

但明治十九年(一月)丙第六號年賦延納金異動表明治二十年(四月)訓令乙第三百五十二號地租延納年賦金取調表明治二十三年(三月)訓令第四十三號國稅賦課計算書ハ廿四年度分ヨリ廢止ス

一 國稅賦課現計書及報告表ハ大藏省訓令第七十五號樣式ニ準據調製シ甲第一號國稅(地租)賦課現計書甲第三號地租前年比較増減表乙第二號免租地段別報告表ハ翌年三月十五日以内ニ甲第二號測定額現計書甲第四號地租延納年賦現計書甲第五號國稅(所得稅)賦課現計書ハ翌年四月十日以内ニ乙第一號所得稅決議高報告表ハ其年八月十日以内ニ其分署ヲ差立ヘシ
 但佐渡國ニ係ル現計書及報告表ハ郡別ニ調製シ國計ヲ付スヘシ

二 現計書送付後該書ノ記載誤リ或ハ組違へ等發見セシトキハ年度經過後四ヶ月以内ニ該現計書ノ訂正方ヲ申出ツヘシ

三甲第一號樣式中欄外田租ノ文字ヲ省キ標目中國郡市名トアルヲ地目トシ全欄中甲國甲市乙郡トアルヲ何(地目)租トシ末段ニ合計ヲ付スヘシ

甲第四二號樣式現計書甲第三號樣式増減表ハ地目限リノ式ニ倣ヘ末尾ニ合計ヲ付スヘシ

第八類 國稅賦課現計書及報告表

六七

五現計書及報告表標題廳名トアルハ分署名ニ末尾記名ハ分署長官氏名ヲ以テ縣知事宛ニスヘシ

但佐渡國ニ係ル現計書及報告表ハ標題ノ下ヘ一項ヲ設ケ郡名又ハ國名ヲ記載スヘシ

○稅則違犯沒收物處分

●明治廿四年(一月)訓令乙第二號

郡役所

稅則違犯ニ係ル沒收ノ物品間稅分署ヨリ引繼アリタルハ廿三年六月訓令乙第三十二號沒收物品取扱方達ニ據リ取扱フヘシ

○國稅滯納處分費辨納金調定

●明治廿四年(十一月)訓令乙第六十七號

直稅分署長

國稅滯納處分費辨納金調定事務ヲ委任ス

●明治廿四年(十一月)訓令乙第六十八號

直稅分署收入官吏

國稅滯納處分費辨納金調定ノ事務直稅分署長ヘ委任候條此旨心得ヘシ

●明治廿四年(十一月)訓令乙第七十號

直稅分署收入官吏

今般訓令乙第六十七號ヲ以テ國稅滯納處分費辨納金調定ノ事務ヲ直稅分署長ヘ委任候ニ付テハ自今左ノ書式ニ據リ細則表ヲ製シ毎月收入報告書ヘ添付差出スヘシ

第何號 一ヶ年通番號ヲ記スヘシ

明治何年度經常歲入國稅滯納處分費辨納細別表

一金何程	雜收入
內	
金何程	辨償金
內	
金何程	國稅滯納處分費辨納金
內譯	

調定濟月日	收入濟月日	金	員	納入住所氏名
何月何日	何月何日	何	程	何町(村) 何某
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、

右何年何月中國稅滯納處分費辨納金細別表書面之通候也

何直稅分署收入官吏

年月日

官氏名印

●明治廿四年(十二月)訓令乙第七十一號

直稅分署長

二十二年大藏省訓令第六十六號諸收入收納取扱順序第十三條檢定報告書書式左之通相定ム

第八類 稅則違犯沒收物處分、國稅滯納處分費辨納金調定

第何號(一ヶ年通シ番號)

明治何年度領收証檢定報告書

一金 何程

歲入科目

金庫へ拂込月日 檢定濟月日 一金

員 拂込人氏名

何 月 何 日 何 月 何 日

○圓

、 、 、 、 、

右何年何月中國稅滯納處分費辨納命領收証檢定報告書面之通候也

何 直 稅 分 署 長 印

年 月 日

○收 稅 雜

●明治廿四年(一月)訓令甲第三號

市役所 町村役場

市町村ニ於テ國稅ヲ徵收シ納期限マテニ金庫へ納付スヘキ筈ニ付テハ可成的早ク取纏メヲ要
スルニヨリ納期末日七日以前迄ニ市役所町村役場へ完納セサルモノアル片ハ左ノ書式ニ倣ヒ
所轄直稅分署長へ報告スヘシ

第何期何租稅若クハ明治何年(前後)半年分何稅納稅景況報告書

一金 何程

何 月 何 日 未 納 高

右 未 納 入 名

大字

氏名

大字

氏名

何々

某

何々

某

何々

某

何々

某

右報告候也

年 月 日

市 町 村 長

何 地 直 稅 分 署 長

●明治廿四年(四月)訓令乙第三十號

直 稅 分 署

明治二十二年十月一日廳中訓令第一六三號內國稅徵收費所屬各分署物品取扱順序第八條左ノ
通改正ス

第八條 物品取扱主任ハ出納簿ノ結果ニ依リ第一類品ハ毎年三月第二類品ハ九月三月末日ヲ

以テ物品出納計算表ヲ製シ分署長ノ檢印ヲ得テ翌月三日限り本署へ差出スヘシ

●明治廿四年(六月)訓令乙第四十三號

郡 長

內國稅徵收費ノ支弁ニ屬スル第一類物品書類ニ對シ特ニ現品ノ調査ヲ命候條精密照合ノ上其
結果ニ據リ証明書差出スヘシ

但証明書書式ハ二十三年八月十三日付收庚第四一一九號ヲ以テ示シタル雛形ニ據リ調製ノ
事

●明治廿四年(六月)訓令乙第四十四號

直 稅 分 署 長

內國稅徵收費ノ支弁ニ屬スル第一類物品出納簿ニ對シ特ニ現品ノ調査ヲ命候條精密照合ノ上

其結果ニ據リ証明書差出スヘシ
 但証明書書式ハ二十三年八月十三日付收庚第四一九號ヲ以テ示シタル雛形ニ據リ調製ノ事

●明治廿四年(二月)縣令甲第十一號
 明治二十三年(九月)縣令甲第七十八號市町村交附金下渡手續中左ノ通改正ス
 第一項第二項第三項及第二項乙號書式中收稅部出張所トアルヲ直稅分署ト第二項及第四項但書中收稅部トアルヲ直稅署ト第一項甲號書式ハ左ノ通改ム

明治何年度(自四月至三月)

市町村交附金請求書

一金何程
 內譯

國稅徵收額百分ノ四	國稅金徵收額	徵收稅目
金何程金何程	金何程	所得稅
		自家用料酒鑑札料
		煙草營業稅
		菓子製造稅

計	全營業稅
	賣藥營業稅
	船稅
	車稅
	銃獵免許稅
	牛馬賣買免許稅

右御渡有之度候也

年月日

新潟縣知事宛

何郡

市町村長 氏

名印

備考

徵收額百分ノ四ハ實際金庫ニ納入セシ國稅金徵收額ニ因リ四拾五入ヲ以テ算出スヘシ

●明治廿四年(七月)訓令乙第四十九號 郡役所、警察署、直稅分署、監獄支署
 租稅外諸收入取扱收入官吏及歳入歳出外現金山納官吏交迭シ後任者ニ事務引繼ヲ爲シタルト

第八類 收稅雜

依リ其事業又ハ費途ニ最モ近似ノ事業ニ充用シ若クハ寄付者ニ還付スルコトヲ得
 全上ノ金穀物件ニシテ未ダ使用スルニ至ラスシテ寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル
 場合ニ於テハ之レヲ寄付者ニ還付スヘシ
 第二 元金又ハ原物ヲ委託シ其收得ヲ寄付シタルモノ若クハ元金又ハ原物ヲ据置トナシ其收
 得ヲ使用スルノ方法ヲ以テ元金又ハ原物ヲ寄付シタルモノ其事業又ハ費途ノ廢絶シタル場
 合ニ於テハ其元金又ハ原物ハ之レヲ寄付者ニ還付シ其現存ノ收得又ハ之ヲ以テ支辨シタル
 物件ハ前項ニ依リ處分ス
 第三 寄付ノ金穀物件ニシテ其處分方ニ付特別ノ約束ヲ付セルモノハ各其約束ニ依ル

○第九類

○戸籍

●明治廿四年(七月)訓令甲第三十四號 市役所 町村役場
 明治十九年(十一月)訓令甲第四十五號登記目録書式雛形中管内異動目録ノ内「管内入籍之部
 (一三三)管内送籍之部(一三三)」ヲ「管内送入籍之部(一三三)」ト改ム
 ○逃亡失踪
 ●明治廿四年(十月)縣令甲第七十三號

明治十七年九月甲第百二十號布達逃亡失踪者届出ノ件廢止ス

○行旅死亡人取扱

●明治廿四年(一月)訓令甲第六號 郡市役所 町村役場
 明治十九年(四月)本縣達乙第五十七號行旅死亡人取扱手續第五條左ノ通り更正ス
 第五條 死亡人ノ遺金及遺物ハ明治十五年第四十九號布告行旅死亡人取扱規則第四條第五條
 ノ通ト雖モ若シ餘贏金アルハ保管満期ノ後所轄郡役所(市ハ直ニ)ヲ經テ本縣へ送付スヘシ
 ●明治廿四年(四月)訓令甲第十七號 郡市役所 町村役場
 明治十九年(四月)乙第五十七號達行旅死亡人取扱手續第九條並第七號書式中(尤該費ハ疑ニ
 郡役所豫備費ヲ以テ替練ヲ受ケタル儀ニ有之候)ノ廿七字括弧共刪除ス

○第十類

○衛生

○醫師

●明治廿四年(五月)訓令甲第廿二號 郡市役所 町村役場
 明治廿四年五月内務省令第三號ニ據リコッポ結核病治療液ヲ使用セント欲スル者ニシテ内務

第九類 戸籍、逃亡失踪、行旅死亡人取扱 第十類 衛生、醫師

大臣ノ認可ヲ請フトキハ其書面ニ左ノ事項ヲ記入セシムヘシ

一 院長若クハ醫師ノ履歴

一 病室ノ數其廣狹及該患者ヲ入ルヘキ豫定數

一 助手及看護病人ノ數其每人ニ受持クシムヘキ患者ノ豫定數但助手ハ履歴ノ概略ヲ添フヘシ

一 結核菌ヲ驗スルニ必要ナル顯微鏡ノ有無其他檢査用ノ器具

○衛生組合 付市町村衛生要領

●明治廿四年(五月)諭達第一號

衛生ノ事タル其關係スルトコロ最モ重大ナルヲ以テ監督上市町村自治ノ務メニ一任シ得ヘカ
ラサルモノアリ故ニ其目的方法ハ地方衛生會ニ諮詢シ追々令達及フヘシト雖トモ目下清潔法
ノ實施ヨリ其持續法ヲ講スルカ如キハ主トシテ隣保相助ケ常變其利害ヲ共ニスルノ精神ニア
ラサレハ其効ヲ奏スルヲ得サルニヨリ市町村内ニ衛生組合ナルモノヲ設ケ常ニ同心協力シテ
自治的衛生ノ發達ヲ圖ルハ最モ緊要ノトトス依テ豫メ各自ニ於テ此旨趣ヲ了シ衛生ノ實効ヲ
全フスル様計畫スヘシ

●明治廿四年(十一月)縣令甲第七十五號

傳染病ノ豫防清潔法ノ施行等ハ固ヨリ市町村自治ノ事業ニ屬シ隨テ各地ノ情況習慣ニ由リ自
ラ異同アリト雖トモ之レカ普及ヲ圖ルニハ隣保團結シ常ニ其利害ヲ共ニスルノ方法ヲ設ケル
ニアラサレハ其目的ヲ達スルコト能ハス仍リテ地方衛生會ノ諮詢ヲ經テ左ノ要領ヲ定ム

市町村衛生要領

第一條 市町村ハ公衆衛生ノ爲メ衛生組合並市町村醫ノ設置及清潔法施行ノ方法ヲ規定スル

モノトス

第二條 衛生組合ニ關スル例左ノ如シ

一 衛生組合ハ一市町村内ニ數組合ヲ設ケルコト

二 衛生組合ニハ組合長ヲ置クコト

三 衛生組合ハ傳染病ノ豫防清潔法ノ施行ヲ周到セシムルコト

第三條 市町村醫ニ關スル例左ノ如シ

一 主治醫ナキ病死入若クハ變死人等檢案ノコト

二 種痘並地方病、流行病、傳染病ノ豫防及消毒ノコト

三 貧困患者治療ノコト

第四條 清潔法施行ニ關スル例左ノ如シ

一 道路宅地家屋側溝芥溜及ヒ下水溜ハ常ニ之ヲ清潔ニスルコト

二 下水ハ毎年二回以上浚渫スルコト

三 厠固ノ溜壺及芥溜、下水溝渠、下水溜ノ破壊又ハ腐朽セルモノハ速ニ修理スルコト

四 飲料水ノ清淨ヲ圖リ井戸及水道ハ毎年二回以上掃除スルコト

井側及水道ノ破壊又ハ腐朽セルトキハ速ニ修理スルコト

第十類 衛生組合付市町村衛生要領

第五條 市町村條例ヲ以テ規定スルノ外單ニ市町村會ノ議決ヲ以テ其施行ニ關スル事項等ヲ定メ又ハ之ヲ改正廢止シタルトキハ其旨(町村ハ郡役所ヲ經由)本廳ニ具中スヘシ

○種痘

●明治廿四年(四月)訓令甲第十三號 郡市役所 町村役場 種痘ニ應用スヘキ痘漿ノ儀ハ極メテ純良ナルモノニアラサレハ暗ニ其病毒ヲ傳ヘ終身麻弱ノ原因トナルヘキニ付採漿ノ際ニ於テハ最健全ナル種痘兒ヲ選ミ明治十九年三月乙第三十七號達ニ依リ決シテ腺病性ノモノ梅毒皮膚病ナルモノ其他帶患ノ小兒ヨリ採漿セサル様種痘漿ハ勿論一般醫師ニ於テ深ク注意スヘキ旨示諭スヘシ

○傳染病豫防 付清潔法

●明治廿四年(十一月)縣令甲第七十九號 傳染病豫防細則左ノ通相定メ明治十九年十月縣令甲第三十八號ヲ廢止ス

傳染病豫防細則 第一章 總則

第一條 傳染病(虎列拉、腸室扶斯、赤痢、實布屋利亞、發疹室扶斯、痘瘡)ニ罹リ若クハ該病ノ疑ヒアル者ハ速ニ醫師ノ診斷ヲ請フヘシ
第二條 傳染病者治癒又ハ死亡シタルトキハ家人(家人ナキトキハ親戚若クハ隣保)ヨリ其旨

主治醫ニ報告スヘシ

第三條 醫師傳染病者ヲ診斷シ傳染病豫防規則第二條ニ依リ市町村長ヘ報告ヲナスコトハ其所患ノ病名、住所氏名年齢、職業、發病及診斷ノ日時並病因ヲ記スヘシ但本項ノ報告ハ便宜ニ依リ警察署又ハ分署若クハ巡查駐在所ニ報告スルモ妨ケナシ
第四條 市町村長ニ於テ前條及第五條但書ノ報告ニ接シタルトキハ速ニ病家ニ就キ豫防消毒ノ處置ヲ爲シ市長ハ(第五條但書ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ本廳ニノミ報告ス)警察署及本廳ニ報告シ町村長ハ(第五條但書ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ郡役所ニノミ報告ス)警察署又ハ分署若クハ巡查駐在所及郡役所ニ報告スヘシ
第五條 警察署又ハ分署若クハ巡查駐在所ニ於テ前條第四條郡役所ニ於テハ第四條ノ報告ニ接シタルトキハ速ニ病家ニ臨ミ豫防消毒ノ監督ヲ爲シ巡查駐在所ハ警察署又ハ分署ニ報告スヘシ但警察署以下ニ於テハ第三條ノ報告ニ接シタルトキハ其市町村長ニモ報告スヘシ
第六條 警察署分署又ハ郡役所ニ於テ前數條ノ報告ニ接シタルトキハ豫防消毒ノ監督ヲ周到ナラシメ郡役所ハ速ニ本廳ニ報告スヘシ
第七條 傳染病者治癒又ハ死亡シタルトキハ速ニ主治醫ヨリ其住所氏名及轉歸(治癒、死亡)月日ヲ記シ市町村長ニ報告スヘシ
第八條 市町村長ニ於テ前條ノ報告ニ接シタルトキハ第四條ニ準シ報告ヲナスヘシ
第九條 警察署分署及郡役所ニ於テ町村長ヨリ第八條ノ報告ニ接シタルトキハ尙豫防消毒ニ注意シ郡役所ハ速ニ本廳ニ報告スヘシ

第十類 種痘、傳染病豫防付清潔法

第十條 傳染病豫防消毒ノ爲メ清潔法ヲ規定シ特ニ之ヲ施行セシムルコトアルヘシ
 第十一條 傳染病豫防ノ爲メ河川水道若クハ井水ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ
 第十二條 衛生官吏若クハ警察官吏ニ於テ傳染病ニ疑ハシキ患者アリト認ムルトキハ醫師ヲシテ之ヲ診斷セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ患者若クハ其家人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
 第十三條 衛生官吏若クハ警察官吏ニ於テ消毒ノ必要ヲ認メ傳染病患者及傳染病ニ疑ハシキ患者ノ家屋及衣服臥具其他器具物品等ニ消毒法ノ施行ヲ命ジタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二章 病類

第一款 虎列拉

第十四條 虎列拉病者用ノ便器ニハ覆蓋ヲ有スル滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之レニ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ吐瀉物ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ其吐瀉物ハ一定ノ場所ニ於テ之ヲ燒却スヘシ
 第十五條 患者ノ上リタル圓圖ニハ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ澆クノ後ニアラサレハ使用スヘカラス
 第十六條 前條ノ圓圖ニシテ汚汁ノ滲透スルモノハ速ニ其部分ノ改造ヲ爲スヘシ
 第十七條 患者死亡シタルトキハ死體ヲ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ消毒ヲ行ヒ火葬スヘシ若シ埋葬セントスルトキハ特ニ定メタル墓地ニ限ル

第二款 腸室扶斯

第十八條 腸室扶斯病者アリタルトキハ第十四條第十五條第十六條ヲ適用スヘシ
 第十九條 患者死亡シタルトキハ死體ヲ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ消毒ヲ行フヘシ
 第三款 赤痢
 第二十條 赤痢病者アリタルトキハ第十四條第十五條第十六條ヲ適用シ患者死亡シタルトキハ第十九條ヲ適用スヘシ
 第四款 實布の里亞
 第二十一條 實布の里亞病者ノ痰唾鼻汁及之レヲ拭ヒタル紙片布片等ハ石炭酸水ヲ用ヒテ消毒シ覆蓋ヲ有スル容器ニ取纏メテ之ヲ燒却スヘシ又患者ノ含嗽シタル藥水モ石炭酸水ヲ加ヘ消毒シタル後人家遠隔ノ地ニ埋没若クハ燒却スヘシ
 患者ノ便器及其取扱ハ第十四條ヲ適用スヘシ
 第二十二條 患者アル家ノ兒童ニシテ小學校ニ通フ者アルトキハ其患者治癒死亡シ又ハ他家ニ避ケシメタルトキハ其日ヨリ三週間ヲ經ルニアラサレハ登校セシムヘカラス
 第二十三條 患者治癒ノ上消毒法ヲ行フニアラサレハ他ノ兒童ニ接セシムヘカラス
 第二十四條 患者死亡シタルトキハ第十九條ヲ適用スヘシ
 第五款 發疹室扶斯
 第二十五條 發疹室扶斯病者アリタルトキハ第十四條ヲ適用シ患者死亡シタルトキハ第十七條ヲ適用スヘシ
 第六款 痘瘡

第十類 傳染病豫防付清潔法

第二十六條 痘瘡病者アリタルトキハ第二十二條第二十三條ヲ適用スヘシ

第二十七條 患者ノ居室ニハ覆蓋ヲ有スル容器ヲ備ヘ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ痘漿ヲ拭ヒタル布片紙片又ハ落葉及室内ノ塵埃等ヲ該器中ニ取纏メ之ヲ焼却スヘシ

第二十八條 患者ノ便器及其取扱ハ第十四條ヲ適用シ患者死亡シタルトキハ第十七條ヲ適用スヘシ

第三章 檢疫、船舶検査、豫防委員

第二十九條 傳染病流行ノ勢猛烈ナルトキハ便宜ノ地ニ於テ特ニ檢疫所ヲ設ケ檢疫委員ヲ置キ豫防消毒ノ事ヲ擔任セシム其委員ノ組織ハ傳染病豫防規則第十四條ノ規定ニ依ル

第三十條 船舶ノ交通アル地方ニ於テ虎列拉流行スルトキハ管下要港ニ船舶検査所ヲ設ケ検査掛ヲ置キ船舶ノ検査及之ニ關ル豫防消毒ノ事ヲ擔任セシム其掛員ハ醫師衛生官吏及警察官吏ヲ以テ之レニ充ツ

第三十一條 隣縣ニ虎列拉流行スルトキハ管下要衝ノ地ニ檢疫掛ヲ置キ豫防消毒ノ事ヲ擔任セシム其掛員ノ組織ハ前條末文ニ依ル

第三十二條 第二十九條第三十條第三十一條實施始終ノ期日並場所ハ其都度之ヲ指示ス其實施ニ關スル經費ハ地方稅傳染病豫防費ヨリ支辨ス

第三十三條 市町村ハ他ノ地方ニ於テ傳染病流行シ傳播ノ虞アルカ又ハ其市町村ニ於テ流行スヘキ兆候アルトキハ便宜豫防委員ヲ設ケ豫防消毒ノ事ニ從ハシムヘシ

第四章 避病院、墓地、火葬場、焼却場

第三十四條 市町村ハ傳染病豫防ノ爲メ豫メ避病院ノ準備ヲ爲シ置クヘシ但醫師又ハ事務吏員等ハ開院ノ都度之ヲ設クルモノトス

第三十五條 避病院ハ便宜ニ依リ其協議ヲ以テ町村合併シテ之ヲ設置スルコトヲ得

第三十六條 虎列拉、發疹室扶斯、痘瘡病者ノ死體埋葬地ハ明治十八年四月本縣甲第七十一號布達墓地及埋葬取締細則第二條ニ適合セサル墓地内ニ之ヲ設クルコトヲ得ス

第三十七條 虎列拉病者ノ死體火葬場ハ既定ノ場所ニ於テ特ニ之ヲ指定シ若クハ新設ノ地ヲ指定スルコトアルヘシ

第三十八條 虎列拉病者ノ吐瀉物及汚穢物焼却場ハ人家及飲料水ニ接近セサル地ヲ選ビ之ヲ定ムヘシ但場合ニヨリ特ニ之ヲ指定スルコトアルヘシ

第五章 消毒

第三十九條 消毒ノ効力ヲ有スルモノ、種類左ノ如シ

一 火力

二 瀝熱附炎沸

三 藥劑

- 一 石炭酸水 (廿倍) 結晶石炭酸五分 水九十五分
- 二 昇汞水 (千倍) 昇汞一分 鹽酸五分 水九百九十四分
- 三 生石灰 (十倍) 生石灰一分 水九十分

第十類 傳染病豫防清潔法

四 格魯兒石灰水即十鹽化水二十倍 格魯兒石灰五分
 五 硫酸若クハ粗製硫酸 水九十五分
同量ノ水ニ溶
解シタルモノ

第四十條 消毒ノ施行ハ左ノ方法ニ依ルヘシ

- 一 患者
傳染病者治癒シタルトキハ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭淨シ直ニ浴ヲ取ラシムヘシ
- 二 死體
傳染病者ノ死體ハ其被服ニ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ撒布シテ棺内ニ斂ムヘシ
- 三 看病人其他病家ノ家人等
看病人其他病毒ニ汚染シタル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事シタル人夫等ハ手足ヲ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ消毒スヘシ但消毒スヘキ者ハ豫メ爪ヲ剪リ其間ニ污垢ナキ様注意シ置クヘシ
- 四 患者死體等運搬器
患者、死體等ヲ運搬シタル籠籠、釣臺、戸板、船、車等ハ使用ノ都度周ネシ昇汞水又ハ石炭酸水ヲ灌クヘシ
- 五 厠固、芥溜、下水等
虎列拉病者ノ吐瀉物、腸窒扶斯、赤痢病者ノ瀉下物ノ入りタル糞池、大糞池、肥料溜等ニ

- ハ少クモ糞便ノ量十分ノ一ノ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キテ能ク攪拌シ其周圍ノ地面ニモ周テ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ但此消毒法ヲ施行シタル糞池、肥料溜等ノ糞便ニシテ爾後新クニ患者ノ吐瀉物ヲ混入セサルトキハ一週間ノ後肥料ニ供スルモ妨ケナシ
- 虎列拉病者ノ吐瀉シタル十間ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ吐瀉物ト共ニ表面ノ土ヲ掘リ採リテ之ヲ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ
- 虎列拉病者ノ吐瀉物ヲ投棄シタル芥溜ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ撒布シタル後塵芥ヲ盡ク取除キテ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ
- 虎列拉病者ノ吐瀉物ヲ混入シタル溝ニハ生石灰、石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌テ能ク攪拌シタル後多量ノ水ヲ灌テ疏通セシムヘシ
- 六 衣服、器具、壘、敷物等

- 一 傳染病者ノ着用セル衣服及ヒ患者ノ用ニ供シタル臥具、蚊帳、飲食器、藥用器、玩具、其他患者ノ居室内ニ在リタル諸器具ノ類
- 二 看病人其他病毒ニ汚染セル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事セル人夫等ノ着用セル衣服及ヒ手巾、足袋、靴、草履等
- 三 患者ノ居室内ニ用ヒタル壘、蓆、敷物等ニシテ消毒ヲ必要ト認メタルモノ
- 右ノ内衣服、臥具、蚊帳等總テ織物、綿ノ類ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ
- 一 瀝熱 消毒スヘキ物品ニ應シ攝氏百度以上ノ熱瀝ヲ三十分乃至一時間以上周テ通セシム

二 煮沸 熱湯中ニ三十分
時間以上煮沸ス

三 石炭酸水浸漬 石炭酸水中ニ十二時間以上浸漬
シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス

四 昇汞水浸漬 昇汞水中ニ十二時間以上浸漬シ
タル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス

陶器、金屬製器ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ

石炭酸水拭淨 石炭酸水ヲ以テ拭淨シタル
後更ニ淨水ヲ以テ拭淨ス

濕熱、煮沸、石炭酸水浸漬、昇汞水浸漬但昇汞水ハ金屬製器ニ用フヘカラス

木製器、漆器ニハ石炭酸水ヲ用ヒテ消毒スヘシ

革製品ニハ石炭酸水ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

疊、席、絨織、段通ノ類ハ石炭酸水ヲ撒布シ然ル後日光大氣ニ曝シ乾燥セシムヘシ但汚
染甚シキモノハ燒却スヘシ

七 患者ノ居室

傳染病者ノ居室其他消毒ヲ必要ト認メタル室ハ先ツ室内ノ疊、敷物ヲ揚ケ(此疊、敷物
ノ消毒ハ前項ニ據ルヘシ)室内各部床及床下ヲ掃除シテ其塵芥ヲ燒却シ(床及床下ニ吐
瀉物滲漏セルトキハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ十分ニ撒注スヘシ)掃除後昇汞水又
ハ石炭酸水ヲ以テ室内各部ヲ叮嚀ニ拭淨スヘシ
右ノ消毒法ヲ了レル後ハ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄家人

八 船舶

ノ起臥ヲ爲サシメサルヲ可トス

但雨天ノ日ニ於テハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

傳染病者アリタル船舶ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但其船舶ハ消毒法ヲ行フニ先チ人家
及ヒ他ノ船舶ニ隔クリタル所ニ廻航セシムヘシ

- 一 患者アリタル船室ハ先ツ室内ノ臥具、戸張、敷物等ヲ取除キ第六項ニ依リテ消毒シ室
内各部ヲ掃除シ次ニ昇汞水又ハ石炭酸水ヲ周子ク室内ニ撒布シテ後水ヲ以テ叮嚀ニ
洗淨シ爲シ得ヘキタケ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄船客
ヲ入ルヘカラス但時宜ニ依リテハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ
- 二 患者アリタル室ノ外ト雖トモ病汚染ノ疑アル場所及ヒ不潔ノ場所ハ水ヲ以テ洗淨
スヘシ

虎列拉ニ於テハ前二項ノ他尙ホ左ノ方法ヲ行フヘシ

- 一 患者ノ上リタル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ撒布シテ後水ヲ以テ十分ニ洗滌スヘシ
- 二 吐瀉物滲漏ノ虞アルトキハ消毒藥ヲ灌キ船底ニ滯留セル汚水ヲ排除シタル後水ヲ以
テ之ヲ洗滌スヘシ
- 三 船中ノ飲料水ハ新鮮ノ良水ト交換シ其際充分ニ其貯器ヲ洗滌スヘシ

第六章 罰則

第四十一條 本則第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第

二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ニ違背シタル者ハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス但刑法及其他ノ規則ニ正條アルモノハ其本法ニ從フ

●明治廿四年(十一月)縣令甲第七十六號

一 胞衣及産穢物ハ人家及飲料水ヲ距ル十間以内ノ地ニ埋納スヘカラス
一 公共又ハ營業ノ爲メ胞衣及産穢物埋納地並燒却場ヲ設ケントスルトキハ前項ノ制限ニ依リ衛生上障害ナキ地ヲ選ヒ地種坪數ヲ記シ其地景圖ヲ添ヘ郡市役所ヲ經テ本廳ノ許可ヲ請クヘシ

一 從前許可ヲ請ケタルモノハ第二項ノ限ニアラス

第一項ニ違背シタルモノハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

●明治廿四年(十一月)縣令甲第七十七號

明治二十年六月縣令甲第九十五號及明治二十二年十一月縣令甲第百五十八號街路取締規則實施ノ市町村ニ於テハ街路外ト雖モ塵芥及下水ヲ浚ヒ揚ケタル汚泥其他汚穢物ハ一定ノ場所ニアラサレハ之ヲ投棄スヘカラス但肥料ニ供スル爲メ無害ノ地ニ運搬スルモノハ此限ニアラス前項ノ市町村ニ於テハ國縣道人家及飲料水ト遠隔セル地ヲ選ヒ塵芥汚泥及汚穢物投棄場ヲ設クヘシ但設定ノ上ハ其旨所轄警察署又ハ分署ヘ報告スヘシ

●明治廿四年(十一月)縣令甲第七十八號

屎尿塵芥魚鳥腸骨及下水ヲ浚ヒ揚ケタル汚泥其他惡臭ヲ放ツヘキ廢敗物ヲ積載セル船ヲ新潟市ノ人家及公道接近ノ河溝ニ繫留スヘカラス但四月ヨリ十月迄日没ヨリ翌日午前九時迄十一月ヨリ翌年三月迄日没ヨリ翌日午前十時迄及河支ノ爲メ一時繫留スルハ此限ニアラス

●明治廿四年(十一月)縣令甲第八十號

明治廿一年三月縣令甲第二十七號清潔法取締規則ヲ廢止ス

○藥業

●明治廿四年(二月)縣令甲第十四號

明治廿三年(二月)縣令甲第十七號藥種商并製藥者取締細則第十一條第十二條左ノ通改正ス

第十一條 製藥者ハ調製セントスル藥品名ヲ像メ届置クヘシ

製藥者ハ毎年製造セシ藥品ノ種類量目ヲ統計シ翌年一月三十日限リ差出スヘシ

第十二條 藥劑師ニシテ藥種商及製藥者ノ業ヲ開廢スルトキハ其旨届出ヘシ

但開業スル場合ニ於テハ第五條第六條第八條(但書ヲ除ク)第九條第十條第十一條第十三條ノ規定ニ從フヘシ

●明治廿四年(十二月)縣令甲第八十一號

明治十五年三月布達甲第六十二號賣藥手續第六號書式賣藥鑑札書換願ノ下括弧内ノ文字及ヒ本文鑑札書換ノ下括弧内ノ文字ハ總テ刪除ス

●明治廿四年(十二月)縣令甲第八十二號

賣藥營業人ハ其使用シタル賣藥印紙ノ代價ヲ毎年二期ニ分チ取調前半年分(自一月至六月)ハ七月五日後半年分(自七月至十二月)ハ翌年一月五日限リ所轄間稅分署へ届出ヘシ

○鑛泉浴場

●明治廿四年(十一月)縣令甲第七十四號

明治二十二年(四月)縣令甲第三十六號鑛泉浴場取締規則中左之通改正ス

第二條 鑛泉浴場ヲ開設セントスル者ハ左ノ各項ヲ詳記シ願出許可ヲ受クヘシ但地所官有ニ

係ルモノハ拜借願出ヘシ他人ノ所有ニ係ルモノハ地主連署スヘシ

一 原泉湧出地ノ郡市町村字番號地種反別

二 發見ノ事由及其年月

三 原泉ノ溫度

四 原泉湧出一日間ノ概量

五 原泉分拆ヲ爲シタルモノハ其成績書

六 浴室浴槽ノ坪數構造ノ圖面

七 原泉湧出地及浴場ノ圖面

前項願出ノ際ハ其願書ニ鑛泉凡二升ヲ添差出スヘシ但其容器ハ硝子製又ハ陶製ノモノヲ用ヘ且其容器ハ鑛泉ヲ以テ洗滌探酌シ栓ハ硝子若クハ「コルク」ヲ以テ密塞シ尙其上ニ「ハラヒン」又ハ封蠟ヲ塗ルヘシ

○第十一類

○俸 給

●明治廿四年(五月)訓令甲第廿一號

那市役所 町村役場

明治廿年(二月)訓令甲第四十一號小學校長訓導俸給規則中左ノ通改正ス

第十一條 當該小學校ニ於テ勤績滿五年以上ニシテ廢官ノ者ハ退官現時ノ俸給三ヶ月分ヲ支給ス

但官ノ都合ヨリ諭旨免官ノ者ト雖トモ其功績ニヨリ本文ニ準シ支給スルコトアルヘシ

○雜 給

●明治廿四年(四月)訓令乙第廿一號

內務部、警察部、監獄署、郡役所

地方稅支辨ニ係ル辦當料并文具料支給方ハ本年三月三十一日限リ廢止ス

新潟縣尋常師範學校、新潟測候所

但宿直又ハ徹夜勤務者ニハ料(宿直ハ二度、徹夜ハ三度)官吏ハ一度金三錢五厘小者ハ金貳錢五厘ヲ給與シ又特別用ノ文具ハ官廳ニ備ヘテ使用セシムルコトヲ得

●明治廿四年(四月)訓令乙第三十一號

內務部、警察部、監獄署、郡役所

地方費支辨ニ係ル宿直及徹夜ノ者食料支給方本年五月一日ヨリ改正ス

新潟測候所、檢驅梅院

但警察署巡查水夫小使留置番ノ食料ハ從前ノ賄料ニ因ル

- 一 宿直ノ者ニハ一直ニ付官吏雇員ハ金五錢小使ハ金四錢ヲ支給ス
- 二 徹夜ノ者ニハ一夜ニ付官吏雇員ハ金七錢五厘給仕小使ハ金六錢ヲ支給ス
- 三 食料ハ每一ヶ月分ヲ取纏メ翌月ニ至リ支給ス

●明治廿四年(四月)訓令乙第三十二號

内務部、警察部、直稅署、間稅署
監獄署、郡役所、新潟縣尋常師範學校
新潟測候所

特別用文具規程左ノ通相定ム

特別用文具備付規程

第一條 左ノ文具ハ事務上必要ト認ムルトキハ共有トシテ備置隨時使用セシムルコトヲ得

第一類 保存品

- 一 文 鎖 製圖用特種ノモノ
- 一 コンパス 全上
- 一 烏 口 全上
- 一 硯 石 標本等大文字認メ用
- 一 定 木 雲形定木三角定木長定木等
- 一 尺 度 比尺測尺卷尺等

第二類 消耗品

一 筆 製圖用特種ノモノ又ハ標本等大文字認メ用其他作文習字添削用ノ類

一 鉛 筆 製圖用特種ノモノ又ハ書學教授用

一 ペン先軸共 全上

一 墨(朱墨、白墨) 全上標本等大文字認メ用作文習字添削用ノ類

一 インキ 全上及復寫版用

一 繪ノ具 全上及書學教授用

第二條 前條ノ文具ヲ備付ントスルトキハ物品取扱主任ニ交付シ該主任ヲシテ使用ノ手續ヲ爲サシムヘシ

○旅 費

●明治廿四年(四月)訓令乙第廿六號

直稅分署 間稅分署

直稅分署間稅分署所在地ニ接續ナル左ノ町村若クハ大字ハ分署所在地市町村ニ準シ土地及間稅ノ檢査員月額旅費ヲ支給セシム

●明治廿四年(九月)訓令乙第六十三號

郡 役 所

郡書記旅費ハ内務大臣ノ認可ヲ得甲號表ノ通減額シ郡役所備員旅費ハ乙號表ノ通相定メ明治二十四年九月十六日ヨリ施行ス

甲號表

瀛車賃	一哩	瀛船賃	一海里	車馬賃	一里	日當	一日
每	=	每	=	每	=	每	=

第十一類 旅費

金	四	錢	金	五	錢	金	六	錢	金	五	拾	錢
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

乙號表	派車賃	每哩	派船賃	每海里	車馬賃	每里	日當	每
-----	-----	----	-----	-----	-----	----	----	---

●明治廿四年(十月)訓令乙第六十五號 間稅分署
 間稅分署長其分署部内間稅檢査監督ノ爲メ巡回スルトキハ明治廿四年十一月一日以降月額旅費金貳拾壹圓ヲ支給ス但巡回日數一ヶ月ニ滿タルモノハ月額三十分一ノ割合ヲ以テ其日數ニ應シ支給スヘシ且分署所在地及準分署所在地市町村ノ巡回ハ旅費ヲ支給セス

○出納

●明治廿四年(二月)訓令乙第十一號
 明治二十三年(四月)訓令乙第廿六號左ノ通改正ス

現金前渡取扱規程
 第一條 徵兵檢査ニ係ル諸費ハ其期日(往復時日ヲ見込)以前請求スヘシ
 第二條 現金ノ保管ハ明治二十二年(十月)大藏省令第十三號出納官吏現金取扱規則第一條ニ因リ所在地ノ金庫ニ委託スヘシ

全年訓令乙第
 六十九號ヲ以
 テ第七條ヲ改
 正ス全文次ニ
 記載ス

第三條 前條保管ノ支拂ヲ請求セントスルキハ規則第五條引出切符(二十二年十二月大藏省訓令第七十號書式)ヲ以テスヘシ
 第四條 支拂計算書ハ帳簿ノ結果ニ據リ二十二年十一月會計檢査院通達支出証明規程(十一月ノ官報記載)第七條第三號書式ニ依リ調製スヘシ
 第五條 前條計算書ハ証憑書類ヲ添へ毎月其任拂ノ了リタル日ヨリ五日以内ニ該廳ヲ發シ下檢査官(知事)へ提出スヘシ
 第六條 支拂殘金ノ返納アル片ハ速ニ報告スヘシ
 第七條 前條ノ報告ニヨリ返納告知書ヲ受ケレハ規則第八條ニヨリ引出切符ヲ副へ本廳へ經由其指定シタル金庫ニ拂込ム可シ
 第八條 帳簿式ハ明治二十二年(八月)大藏省令第十一號第十八號書式ニ據リ整理ス可シ
 ●明治廿四年(十一月)訓令乙第六十九號
 本年二月訓令乙第十一號現金前渡取扱規程中左ノ通改正ス
 第七條 前條ノ報告ニ依リ返納告知書ヲ受ケタルトキハ二十三年大藏省訓令第三百三十四號第二條ノ爲換納金領收証書ヲ添へ其指定シタル金庫へ納付スヘシ
 ●明治廿四年(四月)訓令乙第二十號
 地方費支出証明規程左ノ通和定メ二十四年度以降施行ス
 地方費支出証明規程
 第一條 支出証明ノ爲メ提出スヘキモノハ正當受取人ノ領收証書トス

但出張先ニ於テ支弁セシ金額ニハ其支拂人ニ宛タル領收証書ヲ添付スヘシ

第二條 俸給其他給與ニ屬スル支拂ノ証明ハ任勞黜陟其他飲勤等ノ事故ニヨリ給額ニ異動ヲ生シタルモノアルハ其事由及年月日ヲ領收証書ニ附記スヘシ

第三條 旅費領收証書ニハ其用務及旅行ノ日數年月日往復里程宿泊場所等ヲ詳記セル明細書ヲ添付ス可シ

但領收証書ニ本條ノ事故ヲ明記セルモノハ此限ニアラス

第四條 物品購買ニ關スル領收証書ニハ每品ノ個數斤量及單價ヲ掲記シ數個ニ付價格ヲ定メタルモノハ其數個ニ對スル價格ヲ示スヘシ

第五條 前條ニ因リ難キ事項ハ適實ノ方法ヲ以テ各其計算ノ基ク所ヲ示シ事項複雜ニ涉ルモノハ明細書ヲ添付スヘシ

第六條 郵便切手ノ如キ正當受取人ノ領收証書ヲ得難キ場合ニ於テハ事由ヲ詳記セル主任官吏ノ任拂証明書ヲ以テスヘシ

第七條 証憑書類ノ編纂ハ各目ニ區分シ其金員及科目枚數ヲ表記ス可シ

第八條 前月迄ノ支拂コシテ戻入金アルトキハ上納証書ヲ各目正算拂ノ証書中へ編綴シ其金額ハ外書ヲ以テ表記スヘシ

第九條 領收証書ニハ支拂命令ノ番號ヲ付記スヘシ

第十條 精算額中領收証書未到達ニ係ルモノハ其件名金額ヲ詳記セル明細書ヲ添付シ爾後証書到達ニ從ヒ送付ス可シ

第十一條 支出報告書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

●明治廿四年(五月)訓令乙第三十七號

郡役所 (檢梅)(驅梅)院

明治二十三年(十月)訓令乙第五十號金錢出納例規第五條ニ依リ檢梅院驅梅院ヨリ一ケ年度豫算ヲ四分シ請求ノ金額ハ郡役所へ下渡スニ付檢梅院驅梅院ハ實費支拂ノ都度其金額ヲ郡役所へ請求スヘシ

但明治二十二年(四月)訓令丙第三百二十七號檢梅院及驅梅院職制并諸則中金錢物品出納規程全年(四月)訓令丙第三百七十五號全二十三年(四月)訓令丙第百六十一號ハ廢止ス

郡役所

●明治廿四年(五月)訓令乙第三十八號
其役所收入官吏ノ取扱ニ係ル稅外諸收入毎年度若クハ交代ノ節二十三年十一月會計檢査院達第一號稅外諸收入証明規程ニ依リ提出スル收入計算書ハ自今收入簿ト科目金額等照合シ相違ナキハ左記雛形ニ準シ保證書差出スヘシ

保證書

明治何年度(自何月何日至何月何日)(交代等ノ事故ニ由リ一年度ヲ通セサルキ如斯記入ノ)

一 稅外收入計算書

何通

一 全 現金出納計算書 (現金取扱ヒシキ)

何通

但何郡役所收入官吏何郡書記何之誰取扱明治何年何月何日提出ノ分

右稅外收入計算書(現金出納計算書)へ記載スル各科目ノ金額ハ收入簿(現金出納簿)へ對照シ各符合ヲ認ム依テ之ヲ保證候也

年月日

何郡長 氏 名 印

●明治廿四年(六月)訓令乙第四十六號

内務部、警察部、監獄署
郡役所、(檢)(驅)棧院

明治二十二年訓令乙第五十一號第二十三條中備品現在簿トアルヲ刪除シ及ヒ明治二十三年訓令乙第五十號第十一條中翌月五日トアルヲ翌月十日ト改ム

郡市役所 町村役場

●明治廿四年(七月)訓令甲第三十三號
客歲法律第八十八號第八條ニ據リ縣出納吏ノ事務郡ニアツテハ其郡長市ニアツテハ市長ヲシテ取扱ハシム

直稅分署 間稅分署

●明治廿四年(七月)訓令乙第五十號
本年七月大藏省訓令第五十六號ニ依リ保管物出納命令及取扱手續左ノ通相定ム

保管物出納命令及取扱手續

第一條 保管物品ハ最モ嚴重ノ取締ヲ要スルニ付堅牢ナル箱へ藏置スヘシ

第二條 保管物會計官吏保管物納入ノ命令ヲ受クルヒハ其命令書ニ現品ヲ照査シテ之ヲ納入シ式ノ如ク帳簿ニ登記シタル後直チニ領收証ヲ抵當差出人ニ下附スヘシ

第三條 保管物會計官吏保管物拂出ノ命令ヲ受クルヒハ式ノ如ク帳簿ニ登記シタル後納入ノ際下附シアル領收証余白へ抵當差出人ヲシテ領收ノ旨ヲ附記セシメ其領收証ト引換ニ現品ヲ抵當差出人ニ下附スヘシ

第四條 物品會計規則第十五條ニ規定アル保管物計算書及証憑書類ハ年度經過後二ヶ月以内

ニ本署へ差出スヘシ

第五條 保管物品ノ出納命令ハ第壹號書式ニ出納帳簿ハ第二號書式ニ領收証書ハ第三號書式ニ計算書ハ第四號書式ニ依リ調製スヘシ

第壹號書式

第何號
受納スヘシ

年月日

間稅分署長

姓

名

印

一何々公債証書何千圓

内譯

何千圓

何枚

但何號 何號

何百圓

但何號

右何々ノ爲メ上納候也

何々

年月日

何

某

印

知事宛

一用紙ハ半紙對命令ハ朱書スヘシ

第十一類 出納

第何號
拂出スヘシ

年月日

何々公債証書御下附願

内譯

何千圓

但何號

何百圓

但何號

何號

右ハ何年何月何々トシテ上納致置候分今般納稅濟(或ハ廢業)ニ付御下附相成度候也

年月日

知事宛

一用紙ハ半紙對命令ニ朱書スヘシ

問稅分署長 姓 名 印

割 印

第二號書式

保管物品出納簿

印紙ノ部

會計官 更捺印	受入月日	受納命令番號	公債証書別額面金高	証券番號	會計官 更捺印	支拂命令番號	拂出月日	所有主姓名	取扱主 任捺印
	七月一日	一	金祿公債	五百圓		一	八月一日	何	某
	全	全	無記名整	千	圓	一八五三	全	全	人
			以下全シ						

凡例

一証券額面一枚毎ニ記帳スヘシ

一支拂命令番號並ニ拂出月日ハ朱書スヘシ

一割印ハ領收証ト割印スヘシ

一用紙ハ内山紙十三行罫ヲ用ユ

第三號書式

領收証

一何々公債証書額面何千圓

內譯

何千圓

何枚

但何號 何號

何百圓

何枚

但何號 何號

右ハ何々ノ爲メ抵當及保證物正ニ領收候也

年月日

問稅分署長

姓

名

印

何々

何 某 宛

何々

何

某

印

年月日

知事殿

一川紙ハ半紙算

右ハ何々代金上納濟ニ付前書ノ公債証書惣額何千圓何枚御下附相成正ニ領收候也

明治何年度保管物品出納計算書面之通相違無之候也

明治何年何月何日

保管物會計官吏氏名印

會計檢査院長宛

第十一類
出納

種 別	受 之 部		
	越 高	本年度受入	計
貳千圓 整理公債証書	200	100	300
百 圓 シ シ	10	0	10
三百圓 金祿公債証書	50	200	250
百 圓 シ シ	20	50	70
何 圓 何 ヲ			
何 圓 何 ヲ			
價格合計			

拂之部	現 在 之 部		備 考
	下 渡 高	枚 數	
			圓 金 圓
200	100	200,000	00 0
10	0	0	
150	100	30,000	00 0
20	50	5,000	00 0
		235,000	00 0

越高 = 記セシ分ハ抵當
保証物保管規程實施以
前 = 係ル分

明治何年度

保管物品出納計算書

應名

凡例

- 一 用紙ハ機二號用紙ヲ用ユル
- 一 保管物會計官吏交代其他ノ事故ニヨリ一年度ヲ通セサルモノアルハ何年度トアルヲ何月ヨリ何月迄トスヘシ
- 一 廳名ハ新潟縣何々分署トスヘシ

第十二類

神社、寺院

●明治廿四年(五月)訓令甲第廿三號

郡役所、市役所、町村役場

本年四月農商務省令第五號ヲ以テ社寺土地官林委託規則發布ニ付該規則ニ依リ官林ノ委託ヲ受ケタル神社ハ政府ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘキ筋ニ有之然ルニ神官ノ所爲ニシテ神社ノ爲メ作スモノト又神社ノ爲メ作スニアラス全ク神官自身ニ屬スルモノトノ區別アリ其神官自身ニ屬スル所爲ノ爲メ神社ニ損害ヲ與ヘタルハ神社ハ其神官ニ對シ賠償ヲ要求スル等之カ救濟權ヲ有スルハ勿論ニ候處神官ハ神社ノ事務ヲ行フモノニ付其所爲ニ就キ彼是責任ノ區分難相立場合アルノミナラス其目的神社ノ爲ニスルニ在ルモ神官ノ專斷ニ依リ神社ノ損害ヲ惹起ス様ノ儀有之ニ於テハ神社ノ盛衰ニ影響シ不都合ニ候條市町村長ハ各神社ニ於テ該規則ニ依リ行フ所爲ニ付適宜神官限リ執行シ得ヘキ件豫メ氏子信徒等ノ協議ヲ要スヘキ件及神官ノ負フヘキ責務トシ規定セシメ郡市役所へ届出サスヘシ

●明治廿四年(六月)訓令甲第廿五號

郡市役所 町村役場

明治十四年(八月)乙第六十五號達中共有ノ二字ヲ社寺用ト改メ末段へ左ノ一項ヲ増補ス
 總代人ハ滿三年毎ニ改選市町村役場へ届出シメ期限中犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ臨時改選セシムヘシ

但臨時改選ノ外ハ前總代再三當選スルモ妨ケナシ

●明治廿四年(六月)訓令甲第廿六號

郡市役所 町村役場

本年(六月)訓令甲第廿五號ヲ以テ明治十四年乙第六十五號達改正ニ付テハ社寺總代人ノ儀此際一般改選セシムヘシ

●明治廿四年(十二月)訓令甲第五十四號

郡役所、市役所、町村役場

社寺總代人ノ儀ニ付テハ明治十四年(八月)乙第六十五號及ヒ本年(六月)訓令甲第二十五號訓達ノ次第モ有之處該總代人ニ關シ尙左之通心得ヘシ
社寺總代人ノ員數ハ三名以上ノ成規ナリト雖モ徒ニ多數ノ總代人ヲ設置シ之カ爲メ事務ヲ滯セシムル等ノ弊害アリト認ムルトキハ其社寺ノ狀況ニ從ヒ氏子檀信徒ノ多寡ヲ計リ三名以上ニ於テ適宜總代人ノ員數ヲ指定スルコトヲ得
社寺總代人ハ其社寺ノ願屈等ニ連署シ神官住職ト常ニ心ヲ協セ該社寺ノ永續保護ニ盡力スヘキハ勿論ナレトモ社寺ノ實務ハ神官住職ノ職任ナルニ依リ總代人ハ神官住職ニ干涉シ社寺ノ實務ヲ妨ケ社寺收入財産ヲ妄リニ他ニ使用スル等ノ所爲アラシムヘカラス

○第十三類

○警察官証票

●明治廿四年(一月)縣令甲第三號

明治十七年(一月)縣令甲第十三號布達及同二十年(八月)縣令甲第百十四號警察官吏証票ニ關スル件廢ス

○巡查

●明治廿四年(五月)告示第五十號

巡查配置請願心得左ノ通相定ム

巡查配置請願心得

- 第一條 一町村又ハ數町村聯合若クハ一人又ハ數人聯合シテ巡查ノ配置ヲ請願セントスル者ハ其請願ノ主旨期限及場所等詳記シ所轄警察署ヲ經由シ本廳ニ願出ヘシ
 - 第二條 巡查配置期限ハ一ケ年以上ニアラカレハ之ヲ許サス
 - 第三條 巡查ノ勤務方法ハ人員ノ多少ニ依リ異動アルヘシ
 - 第四條 巡查一名ニ對スル經費概算ハ一ケ年金百三拾壹圓拾壹錢六厘トス
 - 第五條 巡查配置ノ許可ヲ受ケ其見張ヲ要スルトキハ見張所ヲ設置スヘシ
- 巡查配置ノ爲メ要スル旅費及ヒ備品消耗品並ニ見張所設置ノ費用ハ渾テ請願主ノ負擔トス

全年告示第六十八號ヲ以テ第四條中概算ノ二字ヲ削除ス

全年告示第六十八號ヲ以テ第六條三項ヲ削除ス

旅費及ヒ備品消耗品ノ品目員數並ニ見張所ノ構造ハ所轄警察署ノ指揮ヲ受クヘシ

第六條 經費ハ半年度分ヲ二月八月ニ於テ所轄警察署ニ前納スヘシ若此納期前新タニ許可ヲ受ケタル場合ハ納期ニ至ル迄ノ分ハ直ニ納付スヘシ

配置ヲ許可セシ月ハ十五日前後ヲ區分シ半額若クハ全額ヲ納ムヘシ

經費ハ年度末又ハ配置滿期後ニ於テ精算シ過不足アルトキハ返付又ハ追徴スヘシ

第七條 請願巡査職務上ノ死傷救助等ハ同給助例ノ等差ニ依リ本廳ノ指揮ニ從ヒ其金額ヲ納ムヘシ

第八條 請願滿期後仍ホ繼續配置ヲ請フモノハ期限内ニ所轄警察署ヲ經由シ本廳ヘ願出ヘシ

●明治廿四年(五月)告示第六十八號

本年(五月)告示第五十號巡査配置請願心得第四條中概算ノ二字及同第六條第三項ヲ削除ス

●明治廿四年(九月)訓令甲第四十二號 那役所、市役所、町村役場

明治二十年二月訓令甲第二十四號巡査看守給助例施行順序第三條及第六號書式別紙之通改正ス

第三條 年金ハ半年度(九月三月)ニ半額宛テ下附スルモノトス

但受給者ハ第六號書式金額請求書ニ所在市町村長ノ與印ヲ受ケ差出ニヘシ

第六號 何給助金額請求書

年額金何圓

巡査ノ下又ハ看守ノ四字ハ全年訓令甲第五十一號ヲ以テ追加ス

一金何圓也

但明治何年度(上下)半期分

右御渡相成度候也

年 月 日

何(府縣)何(那市)何(町村)何番戶族籍

元(巡査)(看守) 何 某印

或ハ故巡査看守何某寡婦孤兒 何 某印

新潟縣知事何某殿

右ハ現今當(市町村)内本籍(或ハ寄留籍)居住ノ者ニ相違無之候也

何(市町村)長 何 某印

●明治廿四年(十一月)訓令甲第四十八號 市役所 町村役場

本縣在籍ノ者ニシテ他廳府縣巡査又ハ看守志願ノ節身分証明ヲ請求スルトキハ自今左ノ書式ニ依リ附與スヘシ

但此訓令ニ抵觸スル從前ノ令達ハ廢止ス

身 元 証 明 書

氏 名

原 籍 何府縣何國何郡市何區町村何番地又ハ何某方同居

寄 留 全 上

生年月日	何年何月日生
身分	華士族又ハ平民戸主或ハ何某何男兄弟等
家資分散又ハ身分限リ	有無ノ但シ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルモノハ復權ヲ得タルヤ否又從前身代限リ
兵	國民軍或ハ現役歸休豫備後備等
役	但シ徵集猶豫延期免除等ニ係ルモノハ其ノ理由ヲ記スヘシ
右證明候也	
年月日	
新潟縣何都市何區町村長氏名印	
市役所 町村役場	
<p>●明治廿四年(十二月)訓令甲第五十一號 明治廿四年十一月訓令甲第四十八號中巡查ノ次「又ハ看守」ノ四字ヲ追加ス</p> <p>●明治廿四年(十二月)告示第四百四十九號 本縣巡查ヲ志願セントスル者ハ左ノ心得ニ依ルヘシ 但本年九月縣令甲第五十六號巡查志願書書式ハ廢止ス</p> <p>巡查志願者心得</p> <p>第一條 巡查ヲ志願セントスル者ハ年齡二十三年以上四十年未滿ニシテ徵兵ニ適當セス且身幹五尺一寸以上ノモノタルヘシ</p> <p>第二條 巡查志願者ハ願書ニ履歷書及ヒ本籍地市町村長ノ身分證明書ヲ添ヒ警察部又ハ最寄警察署若シハ分署ヘ差出スヘシ</p>	

第三條 前條ノ志願書ヲ差出シタル者ハ其翌月ノ十五日午前九時警察部ニ出頭シテ試驗手續ヲ承合スヘシ

第四條 指定ノ日時ニ出頭セサルモノハ當期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得スト雖モ後期ノ試驗ヲ受クルハ妨ケナシ

第五條 巡查志願書履歷書及ヒ身分證明書ノ書式左ノ如シ

巡查志願書式(用紙半紙白紙)

巡查志願書

何府(縣)士族(平民) 氏 名

私儀本縣巡查志願ニ付採用試驗相受度候間履歷書及身分證明書相添此段奉願候也

右志願人 氏 名 印

年月日 新潟縣知事氏名殿

履歷書式(用紙同上)

履歷書

何府(縣)士族(平民) 氏 名

一何年何月何日何府縣何都市何町村何學校又ハ何塾ニ於テ何學修業何年何月日卒業

一何年何月日徵兵ニ應シ近衛又ハ何兵第何聯隊何大隊何中隊編入申付ラル	
何年何月日	何官廳
一何兵何等卒申付	
何年何月日	全
一何分隊長申付	
何年何月日	全
一現役滿期ニ付退營申付ラル	
何年何月日	全
一任何々學校訓導	
何年何月日	全
一依願免本官	
何年何月日	全
一任何縣何官	
何年何月日	全
一何々々命ス	
月俸何圓	
何年何月日	全
一免何官(何々々免ス又ハ解雇)	
	全

何年何月日	全
一何々々付賞又ハ罰	
以下倣之	
右之通相違無之候也	
年 月 日	巡查志願人 氏 名 印
身分証明書式(用紙同上)	
身分証明書	巡查志願人 氏 名 印
一本籍	何府縣何國何(郡市)何(町村)大字何々何番(地戸)何某方同居
一寄留	全 上
一 生年月日	何年何月日生
一 身分	華士族又ハ平民戸主或ハ何某何男兄弟等
一 兵役	國民軍或ハ飯休豫備後備等 <small>但徵集猶豫延期免除等ニ係ル</small>
右証明候也	
年 月 日	何府(縣)何(郡市)何(町村)長 氏 名 印
○無 盡 講	
●明治廿四年(十二月)縣令甲第八十五號	

富若クハ宮類似ノ所業ハ法律及ヒ當縣ノ命令ニ於テ禁セリ然ルニ其違犯タルト否トノ區域ヲ弁セシテ無盡講ヲ企結スルモノアリテハ不都合ニ付爾來諸種ノ無盡講ヲ企結セントスル者ハ其名義ノ如何ニ拘ハラズ總テ所轄警察署若クハ分署へ届出ヘシ但既結ノ無盡講ニシテ尙ホ現在セルモノハ明治二十五年一月三十一日限リ本文ニ準シ届出ヘシ

○諸興行取締

●明治廿四年(十月)縣令甲第七十號

明治二十年八月縣令甲第百十八號遊藝者取締規則左ノ通改正シ來ル十一月一日ヨリ實施ス

遊藝者取締規則

第一條 本則ニ於テ遊藝者ト稱スルハ猿樂角力全行司俳優手踊輕業獅子舞人形遣鳥獸遣曲獨樂手品寫繪軍談祭文讀落語淨瑠璃(義太夫節常盤津清元節ノ類云フ)唄(長唄端唄ノ類云フ)藝妓詰問等其他遊藝ヲ以テ營業スル者ヲ總稱ス

第二條 遊藝營業ヲナサントスル者ハ所轄警察署分署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ廢業者ハ五日以内ニ免許鑑札ヲ返納ス可シ

第三條 轉居改氏名又ハ免許鑑札ヲ亡失シ若クハ毀損シタルトハ其事由ヲ届出更ラニ免許鑑札ヲ受ク可シ

第四條 營業中ハ免許鑑札ヲ携帶ス可シ

第五條 營業者ハ殘酷醜狠其他總ヘテ風俗ヲ害スル所作講談ヲナスヘカラス
第六條 第二條第一項及第四條第五條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

附則

従前許可ヲ受ケタル者ト雖モ本則實施ノ日ヨリ三十日以内ニ更ラニ免許鑑札ヲ受ク可シ

○諸營業取締

●明治廿四年(一月)縣令甲第六號

明治十七年(一月)本縣甲第十六號布達古物商取締規則全年(四月)甲第四十八號布達質屋取締規則全年(九月)縣令甲第十七號火藥取締規則左ノ通改正ス

明治十五年(五月)甲第百二十九號布達印刷職取締規則全十八年(十一月)甲第百九十九號布達銃砲取締規則全十九年(十二月)縣令甲第八十號湯屋營業取締規則全二十年(五月)縣令甲第八十二號人力車取締規則全年(八月)縣令甲第百十八號遊藝者取締規則全年(十一月)縣令甲第百五十五號劇場人寄席觀物場諸興行取締規則全二十一年(四月)縣令甲第四十七號宿屋取締規則全二十二年(二月)縣令甲第十五號料理屋飲食店取締規則中左ノ通加除變更ス

明治二十年(四月)縣令甲第七十一號乘合馬車取締規則全二十一年(六月)縣令甲第五十九號宿屋取締規則第六條ニ關スル件全二十二年(三月)縣令甲第二十七號人牛馬車駕籠櫓等稼業賃錢定額ノ件ヲ廢シ旅客貨物ノ運搬并雪踏人足等營業者賃錢届出認可ノ件左ノ通相定ム

第十三類 諸興行取締、諸營業取締

第一條中又ハ分署ノ四字ハ全年縣令甲第五十八號ヲ以テ挿入ス

古物商取締細則

- 第一條 古物商營業ヲ爲サントスルモノハ其營業ノ種類ヲ記シ組合頭取ノ連署ヲ以テ所轄警察署又ハ分署へ願出免許ヲ受クヘシ
- 第二條 廢業者ハ五日以内ニ免許證ヲ返納スヘシ
- 第三條 營業免許外ノ物品ヲ賣買セントスルトキハ第一條ノ手續ニ從ヒ更ニ願出ヘシ
- 第四條 古物商ハ一町村若クハ適宜組合ヲ設ケ頭取一名副頭取二名ヲ定メ所轄警察署又ハ分署へ願出ヘシ
- 第五條 免許證ハ貸與スルコトヲ許サス
- 第六條 古物商行商ヲ爲シ若クハ家族雇人等ヲシテ行商セシムルトキハ所轄警察署又ハ分署へ願出行商免許證ヲ受ケ行商中必ス之ヲ携帶スヘシ
- 第七條 轉居改氏名又ハ免許證ヲ失ヒ若クハ誤毀シタルトキハ其事由ヲ届出更ニ免許證ヲ受クヘシ
- 第八條 頭取ハ組合名簿二冊ヲ製シ住所氏名年齢及ヒ營業ノ種類ヲ記載シ實印ヲ取り一ハ所轄警察署又ハ分署へ納メ一ハ手許へ留メ置クヘシ
但帳簿上異動ヲ生スルトキハ其都度届出ヘシ
- 第九條 頭取ハ取締ニ關スル諸達書及ヒ品觸等アルトキハ速ニ組内ニ回達シ證印ヲ取置クヘシ
- 第十條 古物商ハ左記書式ニ倣ヒ物品賣買及讓受讓渡ニ關スル帳簿ヲ製シ置ク可シ但調製ノ

全號ニテ第八條ヲ改正ス全文ハ次ニ掲載ス

都度紙數ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ク可シ
第十一條 本則第三條第六條第八條第九條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十七條第八項ノ違
警罪ニ處セラルヘシ

書式

物品(買入讓受)明細帳

何府縣何郡何町何市何村 何府縣何郡何町何市何村 大字何々何番地 不分明ナルトキハ屋號又ハ符牒等ヲ記スヘシ

賣主 何 買主 某

(證人ヲ要スルトキハ)

何府縣何郡何町何市何村 何府縣何郡何町何市何村 大字何々何番地 何 某

(警察官若クハ巡查ノ認可ヲ得タルトキハ之ヲ付記スヘシ)

明治年月日
一元價金何圓也

内

一金側片硝子懷中時計(器械何々國製番號何號紐何鎖何)
一何色何編男又ハ女綿入裏何
以下倣之

何品

物品(賣渡譲渡)明細帳

(買主讓受主ヲ詳カニスルコトヲ得タルトキハ左ノ如ク記載スヘシ)

何府縣何郡何町何村何大字何々何番地 何府縣何郡何町何村何大字何々何番地 何府縣何郡何町何村何大字何々何番地

買主 讓受主 何 某

明治年月日 一元價金何圓也

買入讓受ノ記載例ニ同シ

質屋取締細則

- 第一條 質營業ヲ爲サントスルモノハ組合頭取ノ連署ヲ以テ所轄警察署又ハ分署へ願出免許ヲ受クシ
- 第二條 廢業者ハ五日以内ニ免許證ヲ返納スヘシ
- 第三條 質營業者ハ適宜組合ヲ設ケ頭取一名副頭取一二名ヲ定メ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ
- 第四條 免許證ハ貸與スルコトヲ許サス
- 第五條 轉居改氏名又ハ免許證ヲ失ヒ若シハ誤毀シタルトキハ其事由ヲ届出更ニ免許證ヲ受

第二條中又ハ分署ノ四字ハ全年縣令甲第百五十七號ヲ以テ挿入ス

全上ニテ第六條改正ス全條ハ次ニ掲載ス

全年縣令甲第百六十三號ヲ以テ第一條ヲ改正ス全條ハ次ニ掲載ス

シヘシ

- 第六條 頭取ハ組合名簿二冊ヲ製シ住所氏名年齢ヲ記載シ實印ヲ取リ一ハ所轄警察署又ハ分署へ納メ一ハ手許へ留置クヘシ
但帳簿上異同ヲ生スルトキハ其都度届出ヘシ
 - 第七條 頭取ハ取締ニ關スル諸達書及品觸等アルトキハ速ニ組合ニ回達シ證印ヲ取置クシ
 - 第八條 質物臺帳及流質物賣拂帳ニハ質置主及買主ノ住所氏名並ニ其品柄(衣類ハ編柄男女小兒ノ區別他物品ハ其格好模様等)ヲ詳記スヘシ
 - 第九條 質物臺帳ニハ質使ヲ質置主ト記載スルコトヲ得ス
 - 第十條 質屋取締條例第二條第六條第八條第十一條第十二條ハ所轄警察署分署へモ其手續ヲ爲スコトヲ得
 - 第十一條 本則第六條第七條第九條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十七條第八項ノ違警罪ニ處セラルヘシ
- 火藥取締細則
- 第一條 火藥類ノ賣買烟火摺附木投玉導火繩類ノ製造又ハ烟火投玉請賣ノ營業ヲ爲サントスル者ハ隣佑二名以上連署シ本廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ其住所製造所ヲ變更シ又ハ支店出張所等ヲ設クルトキ亦全シ
 - 第二條 族籍氏名ノ變更免許鑑札紛失毀損等ノ場合ハ其事由ヲ記シ本廳ニ出願更ニ免許鑑札ヲ受ケ廢業スルトキハ五日以内ニ免許鑑札ヲ添へ本廳へ届出ヘシ

第十三類 諸營業取締

第三條 火藥庫ヲ建設セントスルトキハ構造方法書及人家公道田畑等ノ距離位置等ノ圖面ヲ添へ本廳ニ願出許可ヲ受クヘシ其貯藏倉庫又ハ抗業土工其他職業上多量ノ火藥ヲ要スル爲メ假貯藏所ヲ設ケントスル者亦全シ

第四條 火藥賣買表(證書アレハ之ヲ添へ)ハ左記書式ニ依リ警察署又ハ分署ニ差出スヘシ

第五條 烟火投玉摺附木導火繩類ヲ貯藏スルハ營業者ト否トヲ問ハス危害ノ虞ナキ場所ヲ撰ニ火氣ノ豫防ヲ爲スヘシ

第六條 烟火投玉導火繩等ヲ運搬スルトキハ危害ノ虞ナキ様相當ノ器物ニ入レ外部ニ品名ヲ表記スヘシ其五貫目以上ニシテ自カラ運搬スル場合ヲ除クノ外總テ護送人ヲ附ス可シ但船積スルトキハ明治六年(八月)第二百九十二號布告危害品船積法ニ據ルヘキハ勿論トス

第七條 製造ハ日出前日没後又ハ其許可ノ場所外ニ於テスルコトヲ得ス且製造所ヘハ濫リニ他人ヲ入ラシムヘカラス

第八條 黃燐ヲ以テ摺附木ヲ製造スルモノハ尙ホ左ノ諸項ヲ遵守ス可シ
製造所ハ石又ハ煉化ヲ以テ之ヲ築造スヘシ但周圍ノ家屋六十間以上ノ距離アル場所ニ於テハ木造建築家ヲ用ユルモ妨ケナシ
調製室製品貯藏室及ヒ原料室ハ各之ヲ區劃シ又乾燥室ハ之ヲ別棟ト爲シ瓦斯ヲシテ他室ニ飛散セシメサル様戶外ニ導クノ裝置ヲ爲スヘシ
工場内ハ常ニ窓戸ヲ開放シ空氣ノ流通ヲ良クスヘシ

全年縣令甲第
廿四號中火藥
十四條ノ下又
類賣買ノ四字
ハ運搬ノ四字
チ加フ
十五條中本則
第一條ノ下第
一項ノ三字ハ
全年縣令甲第
六十三號ヲ以
テ挿入ス

齒牙及ヒ齒線ニ疾患アル者ヲシテ黃燐若クハ其合劑ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得ス
何人ヲ問ハス工場内ニ於テ飲食ヲ爲サシムルコトヲ得ス
合劑中ニハ合劑ノ量百分ニ付黃燐十分以上ヲ含マシムヘカラス

第九條 營業者ハ店頭又ハ製造所ニ各其標札(縱四尺横八寸以上ノモノ)ヲ掲ケ火藥貯藏所假貯藏所等ハ火藥庫ニ準シ標本(五尺以上ニシテ四寸角以上ノモノ)ヲ建ツヘシ

第十條 營業ニ非スシテ臨時祭典又ハ祝日等ノ爲メ烟火ヲ製造セントスルモノハ製造所ノ位置人家公道田畑等ノ距離圖面及ヒ烟火ノ種類等ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 烟火ノ打揚ヲ爲サントスル者ハ打揚場ノ位置人家公道田畑ノ距離圖面烟火ノ種類並ニ買入讓受先等ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ノ許可ヲ受クヘシ
打揚ヲ爲サ、ルモノト雖モ仕掛花火等ハ前項ニ準ス但花火線香風花火等ハ此限ニアラス

第十二條 烟火打揚ノ場所ヘハ參觀人ヲ近寄ラシムヘカラス但危害ノ虞アリト認ムルトキハ臨時打揚ヲ差止ルコトアルヘシ

第十三條 摺附木導火繩投玉等製造營業ノ免許ヲ受ケシ者火藥ヲ買入レントスルトキハ尙ホ其許可證ヲ受クヘキモノトス

第十四條 火藥類賣買又ハ運搬ノ許可證ハ所轄警察署分署ニ於テモ之ヲ下附ス

第十五條 本則第一條第一項第二條第三條ノ願届ハ所轄警察署分署ヲ經由スヘシ

第十六條 本則第一條第五條乃至第七條第八條第二項第三項第七項第十條第十一條ニ違背シ

タル者第十二條ニ違背シ命ニ從ハサル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
但刑法ニ正條アルモノハ其本法ニ從フ
書式

明治何年 何月中 火藥賣買表

買入ノ部			賣渡ノ部		
種類	數量	住所氏名	種類	數量	住所氏名用途
火藥	何程	何月ヨリ越高	火藥	何程	何郡市何町村大字何々何某何々用
ダイナマイト	、	、	同	、	、
雷管	、	、	ダイナマイト	、	、
何々	、	、	同	、	、
火藥	、	何官廳	雷管	、	、
ダイナマイト	、	何郡市何町村何ノ誰	同	、	、
雷管	、	、	何々	、	、

何々	、	、	同	、	、
總計	何	程	總計	何	程

右ノ通ニ有之別紙許可證何通相添此段御届申上候也

何郡市何町村大字何々

火藥類賣買免許商人

年月日

新潟縣知事氏名殿

何之

誰印

一印判職取締規則

第二條第三條第六條左ノ通改ム

第二條 前條營業ヲ爲サントスルモノハ組合頭取ノ連署ヲ以テ所轄警察署又ハ分署へ願出取締鑑札ヲ受クヘシ

第三條 廢業者ハ五日以内ニ鑑札ヲ返納スヘシ

第六條 轉居改氏名又ハ鑑札ヲ失ヒ若クハ誤毀シタルトキハ其事由ヲ届出更ニ鑑札ヲ受クヘシ

第十條ヲ刪除シ第十一條ヲ第十條トシ左ノ通改ム

第十條 本則第二條第九條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十七條第八項ノ違警罪ニ處セ

第十三類 諸營業取締

ラルヘシ

一銃砲取締規則

第八條中記載シノ下ニ本廳又ハ所轄警察署ヘノ十字ヲ插入ス

第十二條中區戸長ノ奥印ヲ得トアル八字ヲ刪除ス

一湯屋營業取締規則

第一條中區ハ區長郡ハ戸長ノ奥印ヲ得テトアル十四字ヲ組合頭取ノ連署ヲ以テノ十字ニ改メ但書ヲ刪除ス

第四條左ノ通改ム

第四條 廢業改氏名又ハ湯質ノ變換ヲ爲シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第十七條ヲ刪除シ第十八條ヲ第十七條トシ左ノ通改ム

第十七條 本則第一條乃至第三條第六條乃至第十二條ニ違背シタル者又ハ第十四條ニ違背シ掲示又ハ届出ヲ爲サル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

一人力車取締規則

第十三條第十四條第十五條第十六條第十八條第十九條第三十二條第五十七條第五十八條ヲ刪除シ順次繰上ケ第八章則第五十一條左ノ通改ム

第五十一條 本則第二條第四條第七條第十一條第十六條第十九條第二十一條第二十二條

第二十三條第二十四條第二十九條第三十一條第三十二條第三十三條第三十六條第四十

三條ニ違背シタル者第十三條第十七條第二十八條ニ違背シ命ニ從ハサル者第十八條第

三十條ニ違背シ制止ヲ肯セサル者第二十六條第二十七條ニ違背シ人ニ妨害ヲ被ラシメ

タル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓廿五錢以下ノ科料ニ處ス

但刑法ニ正條アルモノハ其本法ニ從フ

第九條左ノ場合ニ於テハノ下ニ五日以内ニノ五字ヲ插入ス

第十二條中第十七條トアルヲ第十三條ト改ム

第二章題目中輓子ノ資格トアルヲ輓子ノ服裝ト改ム

一遊藝者取締規則

第二條第四條左ノ通改ム

第二條 遊藝營業ヲ爲サントスルモノハ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受ケ廢業轉居改氏名ノトキハ五日以内ニ届出ヘシ

第四條 本則第二條初項第三條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

一劇場人寄席觀物場諸興行取締規則

第一條中區ハ區長郡ハ戸長ノ奥印ヲ受ケトアル十四字ヲ刪除ス

第六條第二項ヲ刪除ス

第七條左ノ通改ム

第十三類 諸營業取締

第七條 遊藝者ニアラサルモノハ藝ヲ爲サシムヘカラス

但木戸錢ヲ要セサル諸興行ハ此限ニアラス

一宿屋取締規則

第三條第十六條第十七條第二十六條ヲ刪除シ順次繰上ケ第五條及第六章罰則第三十四條左ノ通改ム

第五條 同船宿荷物宿ニシテ荷主宰領船頭水夫等ヲ宿泊セシムルトキハ第二十二條ニ準シ届出且同船宿又ハ荷物宿ト記シタル看板ヲ掲クヘシ

第三十四條 本則第二條初項第六條乃至第十三條第十八條第二十一條第二十二條第二十三條第二十六條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十七條第八項ノ違警罪ニ處セラルヘシ

第二條中認可ヲ受クトアル五字ヲ刪除ス

第三條中三日トアルヲ五日ト改ム

第二十四條中第十八條乃至第二十二條トアルヲ第十五條乃至第十九條ト改ム
第二十八條中第二十一條トアルヲ第十八條第二十四條トアルヲ第二十一條第二十五條トアルヲ第二十二條ト改ム

一料理屋飲食店取締規則

第二條第十條ヲ刪除シ順次繰上ケ第九條左ノ通改ム

第九條 本則第一條第三條第四條第六條第七條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

第二條中其旨ノ二字ヲ五日以内ニ五字ニ改ム

第八條中三日トアルヲ五日ト改ム

旅客貨物ノ運搬并雪踏人足等營業者賃錢届出認可ノ件

一人牛馬車(人力車ヲ除ク)駕籠轎ヲ以テ旅客又ハ貨物ヲ運搬シ或ハ雪踏人足等ヲ營業スル者ハ最寄同業者ニ於テ各其賃錢ヲ協議シ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ其之ヲ増減セントスルトキ亦同シ

一前項認可ヲ受ケスシテ營業シ又ハ認可以外ノ賃錢ヲ取ル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

●明治廿四年(九月)縣令甲第五十七號

明治廿四年一月縣令甲第六號賃屋取締規則第一條中警察ノ下ヘ「又ハ分署」ノ四字ヲ插入シ第六條左ノ通改正ス

第六條 頭取ハ組合名簿ヲ製シ住所氏名年齢ヲ記載シ實印ヲ取置クヘシ

但名簿上異動ヲ生シタルトハ加除訂正スヘシ

●明治廿四年(九月)縣令甲第五十八號

明治廿四年一月縣令甲第六號古物商取締規則第一條中警察署ノ下ヘ「又ハ分署」ノ四字ヲ插入シ第八條左ノ通改正ス

第八條 頭取ハ組合名簿ヲ製シ住所氏名年齢ヲ記載シ實印ヲ取リ置クヘシ
但名簿上異動ヲ生シタルトハ加除訂正スヘシ

第十三類 諸營業取締

●明治廿四年(九月)縣令甲第六十二號

明治廿一年四月縣令甲第四十七號宿屋取締規則第三十條第三十一條左ノ通り改正ス

第三十條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ所轄警察署分署ノ認可ヲ受クヘシ其改正ヲ要シタルキ亦同シ

第三十一條 組合中左ノ資格ヲ有スル者ヨリ正副取締各一人ヲ公選シ所轄警察署分署ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 年齡廿五年以上ノ男子ニシテ事務所用ノ家屋ヲ有スル者
- 二 營業上ニ關スル諸規則ヲ解讀シ筆算ニ通スル者

○人力車取締

●明治廿四年(九月)縣令甲第六十一號

明治廿五年五月縣令甲第八十二號人力車取締規則第三十九條第四十六條第四十七條左ノ通改正ス

第三十九條 公設駐車場ハ所轄警察署ニ於テ之ヲ定メ標示スヘシ

第四十六條 組合ニハ取締一人ヲ設クヘシ取締人ハ組合營業者中ヨリ公選シ所轄警察署分署ノ認可ヲ受クヘシ

第四十七條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ所轄警察署分署ノ認可ヲ受クヘシ其改正ヲ要シタルトキ亦同シ

○銃砲、火藥取締

●明治廿四年(四月)縣令甲第廿四號

明治廿四年(一月)縣令甲第六號火藥取締細則第十四條中火藥類賣買ノ下ニ又ハ運搬ノ四字ヲ插入ス

●明治廿四年(九月)縣令甲第六十三號

明治廿四年一月縣令甲第六號火藥取締細則第十五條中本則第一條ノ下ハ第一項ノ三字ヲ追加シ第一條左ノ通改正ス

第一條 火藥類ノ賣買烟火摺付木投玉導火繩類ノ製造ヲ爲サントスル者ハ隣佑二名以上連署シ本廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ其住所氏名製造所ヲ變更シ又ハ支店出張所等ヲ設ケルトキ亦同シ

烟火投玉請賣ノ營業ヲ爲サントスルモノハ前項ノ手續ニ從ヒ所轄警察署分署ニ願出免許鑑札ヲ受ケ其住所氏名變更シタルトキ亦同シ

○瀝罐及氣機取締

●明治廿四年(十月)縣令甲第七十一號

瀝罐及氣機取締規則左ノ通相定メ來ル廿五年一月一日ヨリ施行ス
瀝罐及氣機取締規則

第十三類 人力車取締、銃砲、火藥取締、瀝罐及氣機取締

第一條 汽鍋及汽機ヲ使用スル者ハ總テ此規則ヲ遵守スヘシ

第二條 汽鍋及汽機ヲ据付其工場若クハ其他ノ使用場ヲ設ントスル者ハ左ノ事項及構造方法書相添所轄警察署ヲ經由シ本廳ニ願出允許ヲ受ク可シ

汽鍋汽機其他ノ構造ヲ變換セントスル片ハ前項ノ手續ニ據ルヘシ

汽 鍋

- 一 汽鍋ノ種類及寸法 (多管又ハ通筒ノ類何個長何程幅又ハ經何程)
- 一 鐵板ノ材料 (並鉄又ハBBB又ハ鋼鉄製ノ類厚サ何程)
- 一 接合ノ種類 單列又ハ複列ノ類
- 一 鉸釘ノ經及距離 (經何程距離何程)
- 一 常用汽壓 (平方吋上毎ニ何磅)
- 一 燭火面積 何平方呎
- 一 爐ノ經數長 何呎
- 一 火床面積 何平方呎
- 一 烟管經數 (經何吋數何本)
- 一 安全弁ノ種類及經 (何々何個何吋)
- 一 燃料ノ種類 石炭又ハ何々
- 一 燃料ノ消費高 (一時何程一ケ年何)

汽 機

一 汽機ノ種類

單動併動ノ類

一 汽筒ノ經

何吋

一行長

何吋

一回轉數

(一分間何回)

一 公稱馬力又ハ實馬力

第三條 前條允許ヲ得テ工事落成シタル片ハ本廳ニ届出檢査ヲ乞ヒ其証ヲ受クヘシ

第四條 本廳ニ於テハ臨時檢査官吏ヲ派出シ汽鍋及汽機ノ要部ヲ檢査シ必要アル片ハ鐵板ニ孔ヲ穿テ其厚サ又ハ水壓試驗ヲ爲スコトアルヘシ

第五條 汽鍋汽機ノ毀損其他危險ノ虞アリト認ムル片ハ其ノ使用ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

第六條 檢査官吏派出ノ通知ヲ受ケタル片ハ豫メ受驗ノ準備ヲ爲シ檢査ノ節ハ持主機關手ハ立會テ爲スヘシ

第七條 暴風ノ際ハ汽鍋汽機ノ使用ヲ停止スヘシ

第八條 汽鍋及汽機ヲ使用スル工場ハ人家鉄道電信線火藥庫等ヲ距ルコト六拾間以上ノ場所ニアラサレハ之ヲ允許セス

但既設ニ係ハルモノ又ハ危害ノ虞ナキモノハ特ニ允許スルコトアルヘシ

第九條 持主ハ汽鍋汽機及烟突ハ常ニ充分掃除スヘシ

第十條 第三條ノ檢査ヲ受ケス又ハ第四條ノ檢査ヲ拒ミ若クハ第六條ノ準備ヲ怠ル者ハ汽鍋

○養 蠶

●明治廿四年(十月)縣令甲第六十六號
本年原種用蠶種檢查之儀農商務大臣へ經伺之上各蠶絲業組合事務所ニ委任候條該所ノ檢查ヲ受シヘシ

○漁業採藻

●明治廿四年(一月)縣令甲第五號
明治十九年(五月)甲第九十七號漁業組合準則第八條左ノ通更正ス
第八條 組合ニ於テ役員ヲ選舉シ又ハ解職者アル片ハ本縣へ届出ツヘシ
●明治廿四年(八月)縣令甲第五十一號
信濃川阿賀川胎内川荒川(岩船郡)三面川ノ河口ニ接スル近海ニ於テ建網瓢網其他廣大ノ常置漁網ヲ使用シ鮮魚ヲ捕漁スル者ハ左ノ制限ヲ遵守スヘシ
但本制限ノ外尙ホ本縣漁業取締規則ヲ遵守スヘシ
一 河口ヨリ三里以内ノ沿岸ニ對スル近海ニ於テ設置シ捕漁スルヲ禁ス
二 甲網ト乙網トノ間ハ二十町以上ノ距離ヲ有スルヲ要ス
三 垣網ノ長百町以上ニ延長スヘカラス
四 日没ヨリ日出マテ使用スルヲ禁ス

第十四類 養蠶、漁業、採藻、博覽會

五 鮮魚ハ十一月十五日ヨリ翌年一月迄鮮魚ハ三月十五日ヨリ五月迄之ヲ禁止ス
六 鮮魚ノ目的ニアラスト雖モ之ニ類スル漁網ヲ同季節間ニ使用スル者ハ本制限ヲ遵守スヘシ

本令各項ノ制限ニ違反シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●明治廿四年(十一月)告示第百三十九號
和歌山縣ニ於テ水産保護ノ爲メ左ノ通り縣令發布ニ付當縣下漁業者ニシテ該地方へ出漁ノ者ハ其旨心得ヘシ

和歌山縣令第三十二號 明治廿四年九月廿一日發布
明治廿年(七月)當縣令第七十九號漁業組合準則ニ基キ設置シタル漁業組合ノ漁場ニ於テ漁業(水産動物採捕ヲ併稱ス)ヲ爲サント欲スル者ハ縣ノ内外人ヲ問ハス該組合ニ加入シ規約ニ遵フヘシ違フモノハ貳拾錢以上三圓以下ノ罰金又ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處ス

○博覽會

●明治廿四年(十月)告示第百三十四號
北米合衆國シカゴ府ニ開設スルコロンプス世界博覽會ニ出品セント欲スルモノハ本年(六月)農商務省告示第五號及本年(十月)臨時博覽會事務局告示第一號ノ要旨ニ依リ明治廿五年一月十五日迄ニ左ノ書式ニ從ヒ出願スヘシ

(書式)

コロンブス世界博覽會出品願
北米合衆國シカゴ府ニ於テ開設相成候コロンブス世界博覽會ニ別紙出品概目録之通り出品致
度候間御許可相成度此段相願候也

年月日

新潟縣知事誰殿

何(郡市)何町村大字何

何

某 印

出品概目録

第何部	第何類	出品者氏名 <small>(氏名ニハ片假名ニ テ傍訓ヲ附ノヘシ)</small>	物名	数量	荷造	噸數	概	價

右之通

年月日

新潟縣何國何郡何町村職業(但寄留人ハ)
寄留地

何

某 印

備考 會社組合若クハ數人共同出品スルモノモ本文ニ準スヘシ

●明治廿四年(十二月)告示第百四十七號
本年十一月(十日)臨時博覽會事務局告示第二號コロンブス世界博覽會出品規則第二條普通商
品數量ノ標準左ノ通相定ム

普通商品數量ノ標準

- 第一 穀類(米ノ如キハ玄白トモ)ハ每品四斗以上
- 第二 澱粉類ハ每品五拾斤以上
- 第三 貯藏ノ飲食品ニシテ罐詰瓶詰モノハ每品六ダース以上
- 第四 茶ハ每品五拾斤以上
- 第五 葉煙草刻煙草ハ每品五拾斤以上紙卷葉卷煙草ハ每品千本以上其箱入ノモノハ貳拾箱以
上
- 第六 化學製品及藥劑ノ如キハ小瓶人ノモノハ每品六ダース以上樽目ヲ以テ算スルモノハ壹
斗以上斤目ナラハ五拾斤以上
但本文ノ品ニシテ高價ナルモノハ出品トシテ表明シ得ヘキ分量ニ減スルモ妨ナシ
- 第七 乾魚乾介苔藻類ハ每品五拾斤以上
- 第八 室内器具ノ類ハ一物一品ノモノハ各拾點以上其對モノハ五對以上組物ハ五組以上又壹
組ニシテ數多キ品即チ椅子卓類ハ貳組以上
- 第九 陶磁漆器等ニシテ飲食器ニ屬スルモノニテダースヲ以テ算スルモノハ每品六ダース以
上又組物揃物ニテ其壹組壹揃中ノ數多キモノハ貳組貳揃以上數少キモノハ五組五揃以

上又花瓶置物ノ類ニシテ其嵩ノ大ナルモノハ貳對以上小ナルモノハ五對以上全ク壹個ヲ以テ算スル物品ハ每品拾點以上

第十 革靴化粧箱杖傘及革製品ノ如キハ每品拾點以上

第十一 繭ハ每品五斗以上

第十二 生糸ハ每品貳拾五斤捻糸練糸ハ各拾斤以上

第十三 織緯料製紙料ハ常ニ販賣ニ出ス所ノ拾把以上

第十四 製紙類ハ六束以上但摺リノ荷造ヲ示スモノハ貳摺以上

第十五 織物ニシテ普通ノ反物ハ每品六反以上匹モノハ六匹以上卷モノハ六卷以上手巾ノ類ハ每品六ダース以上

但一品ニ付金貳拾五圓以上ノモノハ此限ニアラス

第十六 編物組物ハ每品拾貳點以上其ダースヲ以テ算スルモノハ每品六ダース以上

第十七 同部類中ノ物品即チ花瓶食器等ヲ併セテ此點數ニ達スルモノハ壹人ノ出品トスルモ

妨ナシ

第十八 審査ニ際シ消耗スル物品ニシテ本出品ノ内ヲ以テ之ニ充テ一定ノ數量ニ不足チ生シ

賣買上不都合ノモノハ審査用トシ別ニ同一ノ物品ヲ適宜添出スヘシ

右ハ出品部類目錄ニ就キ概要ヲ示スモノナルニ依リ茲ニ記載セサルモノハ之ニ準スヘキモノトス

○第十五類

○裁判所

●明治廿四年(二月)告示第十二號

今般司法省告示第十五號ヲ以テ新潟地方裁判所管内區裁判所出張所裁判開廷場所管轄區域及開廷期日改定相成候ニ付各廳每期開廷ノ日左記ノ通相定メ本年第一期ヨリ開廷スル旨新潟地方裁判所ヨリ通牒アリタリ

區裁判所	出張所	開廷場所		
		第 一 期	第 二 期	第 三 期
新 潟	村 松	三月十日ヨリ 十日間	六月廿日ヨリ 十日間	十月十日ヨリ 十日間
	新 津	三月一日ヨリ 十日間	七月一日ヨリ 十日間	十月十日ヨリ 十日間
三 條	卷	三月一日ヨリ 十日間	七月一日ヨリ 十日間	十月十日ヨリ 十日間
	水 原	三月廿日ヨリ 十日間	六月廿日ヨリ 十日間	十月十日ヨリ 十日間
新 發 田	津 川	四月一日ヨリ 十日間	七月一日ヨリ 十日間	十月十日ヨリ 十日間
	枋 尾	三月廿日ヨリ 十日間	六月廿日ヨリ 十日間	十月十日ヨリ 十日間

長岡	與板	二月六日ヨリ	十日間	六月廿日ヨリ	十日間	七月廿日ヨリ	十日間
小出町		四月一日ヨリ	十日間	七月一日ヨリ	十日間	十二月一日ヨリ	十日間
六日町		四月一日ヨリ	十日間	七月一日ヨリ	十日間	十二月一日ヨリ	十日間
湊		三月廿日ヨリ	十日間	六月廿日ヨリ	十日間	十二月廿日ヨリ	十日間
相川	小水	四月一日ヨリ	十日間	七月一日ヨリ	十日間	十二月一日ヨリ	十日間

○登記

●明治廿四年(八月)諭達第三號
 登記ヲ請求スルモノハ其物件ヲ精密ニ調査シ登記法第七條ニ記載アル各項目ハ少シモ誤謬ナキヲ確認シテ之ヲ請求スヘキハ素ヨリ當然ナリ然ルニ客年八月法律第七十八號ヲ以テ登記法第四十條ヲ改メ町村長ノ証明ヲ要スルノ手續ヲ削除セラレ且請求者カ其物件ヲ調査スル自ラ粗漏ニ流レ候ヨリ登記ノ後其地番字地目反別甚敷ハ所有主等ノ相違往々發見シ當事者ニ於テ訂正及變更ヲ請求スル等無數ノ手数ヲ要スルコトアルノミナラス中ニハ當事者ニ於テ權利ニ關シ不測ノ災害ヲ受クルモノ有之由就テハ登記簿ニ未タ登記セサル地所ニ付登記ヲ請フモノハ市役所町村役場ニ至リ登記願書ト土地臺帳又ハ名寄帳ト照合ヲ求メ毎筆ニ捺印ヲ得ルカ又ハ直稅分署ヨリ土地臺帳ノ謄本ヲ請ヒ之ヲ願書ニ添ヘ登記所ニ差出スカノ兩途ニ出テ必ラス

完全ノ登記ヲ受ケ權利ヲ堅確ニシ且徒勞徒費ナキ様深ク注意スヘシ
 但既ニ登記済之地所ノ内ニモ冒認賣買ニ係リシモノ有之趣ニ付買受質取等ノ節ハ債權者ニ於テ能ク其所有者ヲ精査シ危害ニ陥ラサル様注意スヘシ
 ●明治廿四年(八月)訓令甲第四十號
 市役所 町村役場

登記請求方ノ件ニ付今般諭達第三號ヲ發シ候ニ付テハ登記請求者ヨリ其役所役場へ照査方申出候節ハ事務差繰リ之ニ應シ土地臺帳又ハ名寄帳ト照合ノ上毎筆捺印ヲ與ヘ誤謬ノ爲メ人民ナシテ權利ヲ損害シ且徒勞徒費ナカラシムル様懇切ニ取扱フヘシ

○第十六類

○學制

○尋常中學校

●明治廿四年(五月)縣令甲第三十六號
 尋常中學ノ學位ニ準スヘキ公立學校職員ノ俸額ヲ定ムルコト左ノ如シ
 學校長 月俸百圓以下三拾圓以上
 教諭 月俸百圓以下廿五圓以上
 助教諭 月俸廿四圓以下拾貳圓以上

書記 月俸貳拾圓以下拾圓以上

○尋常師範學校

●明治廿四年(七月)縣令甲第四十六號
 明治廿年(八月)縣令甲第百十六號師範學科卒業證書若クハ教員免許狀有效延期ノ件中四年間ヲ五年間ト改正ス

●明治廿四年(七月)縣令甲第四十七號
 從前授與シタル師範學科卒業證書若クハ教員免許狀ノ有效延期證書再ヒ滿期ナルモ猶小學校教員クラント欲スル者ハ更ニ一年間有效延期ノ證書授與可致候條志願ノ者ハ明治廿年(八月)縣令甲第百十六號ノ手續ニコソ出願スヘシ

○農學校

●明治廿四年(三月)縣令甲第廿二號
 新潟縣農學校ノ儀本年三月三十一日限リ廢止ス

○小學校

●明治廿四年(一月)訓令甲第五號
 郡市役所 町村役場

●明治廿一年(三月)訓令甲第廿九號小學校經費中流用スヘカラサル件廢止ス

●明治廿四年(一月)縣令甲第二號

明治廿二年(五月)縣令甲第五十七號北浦原郡外二郡小學校設置區域等科位置ノ件中古志郡第四十四學區欄內尋常科本校ヲ簡易科本校ニ尋常科分場ヲ簡易科分場ニ改正ス

●明治廿四年(一月)縣令甲第九號
 明治廿二年(五月)縣令甲第五十四號東浦原郡外四郡小學校設置區域等科位置ノ件中雜太加茂羽茂郡第十八學區欄內尋常科分場大字三宮ノ九字ヲ刪除ス

●明治廿四年(四月)縣令甲第廿九號
 明治廿二年(五月)縣令甲第五十四號東浦原郡外四郡小學校設置區域等科位置ノ件中岩船郡第二十三學區ノ等科ヲ尋常科ニ改正ス

●明治廿四年(五月)縣令甲第三十號
 北浦原郡外二郡小學校設置區域等科位置中西浦原郡第三十二學區欄內ヲ左ノ通改正ス

第三十二 米納津村

尋常科本校	大字	米納津
尋常科分場	大字	富永

●明治廿四年(五月)縣令甲第三十五號

北浦原郡外二郡小學校設置區域位置中西浦原郡第六學區欄內ヲ左記之通改正ス

第六 堀越村

尋常科本校	大字	堀越
尋常科分場	大字	里

●明治廿四年(五月)縣令甲第三十七號

明治廿二年(五月)縣令甲第六十八號中蒲原郡外二郡小學校(高等科ヲ除ク)設置區域及等科位置中蒲原郡第十七學區欄内ノ簡易科ヲ尋常科ト改正ス

●明治廿四年(六月)縣令甲第三十八號

新潟市北魚沼郡小學校(高等科ヲ除ク)設置區域等科位置中北魚沼郡第十一學區ヲ左ノ通改正ス

第十 一 川 井 村 尋 常 科 大字 川 井

●明治廿四年(七月)縣令甲第四十四號

明治廿二年(五月)縣令甲第五十四號小學校設置區域ノ作中(雜太加茂羽茂)郡第四十四學區欄内ヲ左ノ通改正ス

學區名稱	設置區域	等	科	位	置
第四十四 川 井 村		簡易科本校	大字	宿	根 木
		簡易科分場	大字	田	野 浦
		簡易科分場	大字	澤	崎

●明治廿四年(七月)縣令甲第四十五號

明治二十二年(五月)縣令甲第六十八號中蒲原郡外二郡小學校(高等科ヲ除ク)設置區域及等科位置中蒲原郡第十一學區欄内尋常科分場ノ位置大字上條ヲ加茂ト改正ス

●明治廿四年(八月)縣令甲第四十九號

明治二十二年(六月)縣令甲第七十一號東頸城郡小學校設置區域等科位置中第三十學區欄内大字東松ノ木ヲ大字下日比子ト改正ス

●明治廿四年(八月)縣令甲第五十二號

明治二十二年(五月)縣令甲第六十八號中蒲原郡外二郡小學校(高等科ヲ除ク)設置區域及等科位置中蒲原郡第三十四學區欄内簡易科ヲ尋常科ト改正ス

●明治廿四年(十月)縣令甲第六十五號

明治二十二年(五月)縣令甲第六十八號中蒲原郡外二郡小學校(高等科ヲ除ク)設置區域及等科位置中蒲原郡第四學區欄内ノ簡易科ヲ尋常科ト改正ス

●明治廿四年(十月)縣令甲第六十八號

明治廿三年(十月)法律第八十九號地方學事通則及同年(十月)勅令第二百十五號小學校令中左ノ條項ヲ明治二十五年二月一日ヨリ施行ス

小學校令

第一章 各條

第二章 第十七條乃至第十九條

第四章 第二十五條乃至第三十四條第三十六條第三十七條第三十九條

第五章 第四十三條第四十五條第五十條
第七章 第七十條乃至第九十二條

●明治廿四年(十月)縣令甲第六十九號

明治二十四年(四月)文部省令第二號小學校設備規則ニ基キ小學校設備規則ヲ定ムル左ノ如シ

小學校設備規則

第一章 校地

- 第一條 校地ハ日當リ好ク開闢ナル土地ヲ撰ヒ左ノ第一ヨリ第七マテノ場所ヲ避ケ第八ヨリ第十一マテノ場所ハ可成之ヲ避ケンコトヲ要ス
- 一 道德上嫌疑スヘキ場所
 - 二 喧鬧ニシテ授業ニ妨ケアル場所
 - 三 卑濕ナル場所
 - 四 潜水等アリテ常ニ惡臭其他ノ有害ナル蒸發氣アル場所
 - 五 墓地ヨリ低キ場所
 - 六 危險ニシテ不慮ノ憂アル場所
 - 七 工業場等ニ接近シ常ニ煤烟及有害瓦斯ノ吹入ル場所
 - 八 水ノ停滯セル池沼等ニ接近セル場所
 - 九 墓地ニ接近セル場所
 - 十 道路ヨリ隔タリ若クハ山ノ中腹等ニシテ通學ニ不便ナル場所

- 十一 塵芥其他不潔物ニ近接セル場所
- 右ノ外衛生ニ害アリ教授ニ不便ナルモノハ可成之ヲ避ケ衛生上ノ利害分明ナラサルモノハ醫師ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ
- 第二條 室外体操場ハ少クモ生徒三人ニ付一坪以上ヲ要ス
 - 第三條 農業練習場ハ生徒一人ニ付大凡四坪ヲ要ス

第二章 校舍

- 第四條 校舍ノ構造ハ可成平屋ナルヲ要ス
- 第五條 校舍ニハ教室体操室教員室生徒扣所生徒手洗所湯呑所履物棚ヲ設クヘシ
但生徒扣所ト体操室トヲ兼テシメ湯呑所履物棚ヲ設置セサルハ市町村ノ便宜トス
- 第六條 校舎中清淨ニシテ塵埃ナラサル場所ヲ擇ヒ
天皇陛下及 皇后陛下ノ御影又ハ教育ニ關スル 勅語謄本ノ奉置所ヲ一定シ置クヘシ
- 第七條 尋常小學校舎ノ廣狹ハ學期三年ノ學校ニアリテハ其市町村學校組合若クハ其區ノ學齡兒童總數十分ノ三學期四年ノ學校ニ在リテハ同様其十分ノ四ヲ入學セシムルニ足ルヘキモノトス
- 第八條 裁縫手工又ハ工科等ヲ設クル小學校ニ於テハ實地練習若クハ其科ヲ教授スルニ適當ナル特別ノ教室ヲ設クベシ
- 第九條 校舎ノ周圍ニハ可成幅三間以上ノ空地ヲ存シ其周邊ニハ樹木ヲ植ユルヲ要ス
- 第十條 便所ハ校舎外ニ設ク男女ヲ區別スヘシ

第十六類 小學校

第十一條 教室採光ノ窓ハ西南或ハ東南ニ面シ光線ハ生徒排列ノ左方ヨリ入ルヲ良トス
但地勢ニヨリ本文ニ依リ難キモノハ便宜構造スヘシ

第三章 校具

第十二條 校具ハ學校ノ等位學級ノ編制又ハ教科若クハ教科目ノ種類ニ應シ之ヲ備フヘキモノトシ其種類ヲ別テ甲乙ノ二種トス

第一項 甲種ノ校具ハ教科用圖書教員參考書庶物指效用具博物標本理化學器械体操器具農具工具裁縫具樂器其他教授ニ必須ナル物品トス

第二項 乙種ノ校具ハ國旗机腰掛時計寒暖計文具日用品等ノ類ニシテ甲種ノ校具ニ屬セサルモノトス

第四章 構造

第十三條 校舍校具ノ構造ハ左ノ各項ニ據ルヲ要ス

第一項 教室ハ每室一人ノ訓導ニテ教授スル生徒ヲ容ルノ廣サトシ其構造ハ長方形ニシテ横ト縦トハ大凡四ト五若クハ三ト四トノ割合トシ生徒四十名若クハ五十名ヲ容ルノ適度トス合級教授ノ法ヲ用フルモノハ尙之ヲ廣クシ生徒六十名マテハ一教室ニ容ルノコトヲ得ヘシ又尋常小學校ニ於テ授業生ヲ助手トシ教授スルモノハ生徒八十名マテハ一教室ニ容ルノコトヲ得ヘシ

第二項 教室内天井ノ高サハ九尺以上トシ壁ハ淡綠色又ハ灰白色トシ床ヨリ上三尺ハ板ニテ張ルヘシ

第三項 教室ノ窓ハ日本風ノ建築ナレハ床ヲ距ル三尺五寸上ヨリ縱四尺ノ通シ窓トナシ玻璃戸又ハ紙障子ヲ用ヒ雨除ケヲ附シ西洋風ノ建築ナレハ床ヲ距ル三尺上ヨリ外法共三尺五寸ニ七尺ノ窓ヲ設ケ一間半ニ一個ヲ附スル割合トシ天井ノ高低光線ノ多少ニヨリ適宜伸縮増減スヘシ

但黑板ヲ置ク方ニハ窓ヲ附スヘカラス又光線ノ烈シク入ルトキハ可成窓掛ヲ用フヘシ

第四項 教室ニハ可成長サ一間幅四尺ノ教壇及適宜ナル踏臺ヲ設クヘシ

第五項 教室ニハ側面ノ上下ニ各通氣孔二個ヲ附スヘシ其構造ハ壁ヲ穿テ縱二寸五分横六寸ノ格子柵ヲ插ミ上方ハ蝶番ヲ以テ室外ニ開クヘキ蓋ヲ附シ下方ハ室内ニ開クヘキ同様ノ蓋ヲ附シ風雪等ノ時ハ掛金ニテ蓋ヲ閉ツル様裝置スヘシ

第六項 体操室及生徒扣所ハ床ヨリ上四尺ハ板ヲ張ルヘシ天井ヲ附スルモノハ教室ニ比シ窓及通氣孔ノ數ヲ増加センコトヲ要ス

第七項 生徒用ノ腰掛ハ一人用トシ其高サハ生徒腰ヲ安シ足蹠ヲ床ニ置キ膝ヲ水平ニアラシメ背支ハ大凡廿度ノ傾斜トナスヲ適當トス
生徒用ノ机ハ一人用トシ物入ヲ附シ其高サハ床ト腰掛面トノ高サヲ生徒身長六分一ノ長サニ加ヘタルモノヲ以テ適當トス其面ハ大凡横二尺縱一尺四寸ニシテ大凡十二度ノ斜面向トナシ前方ニ大凡縱三寸ノ平面ト習字帖等ヲ置ク所ヲ設ケ其右方ニ平面ノ一部ヲ設ケ硯ヲ置ク所トシ其外側ニ細長形ノ溝ヲ鑿リ毛筆又ハ鉛筆等ヲ置ク所トス
生徒用机腰掛ハ可成一人用ノ物ヲ用フルヲ宜シトス土地ノ情况ニヨリテハ二人用トナス

モ妨ケナシ

第八項 便所ノ地盤ハ漆喰「タ」キ或ハ「セメント」等ヲ以テ造リ其上ニ受器ヲ据ヘ置カ又ハ陶製ノ受器ヲ埋メ其周邊ヲ漆喰「タ」キ或ハ「セメント」ヲ以テ漏斗形ニ造ルモ可ナリ但男生徒ニハ本文ノ構造ニ準シ別ニ小便所ヲ設ケ屋上ニ臭氣抜キヲ附シ屋外ニ受器ヲ置キ汚物ヲ流出セシムヘシ

第九項 階梯ノ幅ハ四尺以上踏板ノ幅ハ七寸以上每段ノ距離ハ六寸以下トシ裏板ヲ張り手摺ヲ附スヘシ

第五章 帳簿

第十四條 小學校ニ於テハ左ノ帳簿ヲ設ケ常ニ其學校ニ備フヘシ

- 一 生徒學籍簿 保存無期限
- 二 生徒出席簿 同 一ケ年
- 三 各級年末調査表 同 八ケ年
- 四 學校年末統計表 同 無期限
- 五 得點簿 同 八ケ年
- 六 學校沿革史 同 無期限
- 七 圖書目錄 同 無期限
- 八 器械器具目錄 同 無期限
- 九 職員出勤簿(私立學校ヲ除ク) 同 三ケ年

第六章 附則

第十五條 私立小學校ヲ設置セントスルニ當リ其資力此規定ニ據リ難キ事情アルモノハ其事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

但第六條第十二條第十四條ハ之ヲ省察スルコトヲ得ス

第十六條 既設ノ市町村立小學校ニ於テハ第一條第四條第九條第十一條第十三條ノ第七項ハ新調若クハ建築ノ時ニ限リ此規定ニヨリ改正スヘシ

第十七條 既設ノ市町村立小學校ニ於テハ第十三條中ノ條項ニシテ(第七項ヲ除ク)改正シ得ヘキモノハ可成之ヲ改正シ其多額ノ費用ヲ要シ着手スルコト能ハサルモノハ校舍建築等ノ際此規定ニ依ルヘシ

第十八條 既設ノ市町村立小學校ニ於テハ第十六條第十七條ニ掲クル事項ヲ除ク外ハ此規定ニ依リ明治廿五年度中ニ改正スヘシ

但第二條第三條ハ特別ノ事情アリテ備フルコトヲ得サルモノハ小學校令第十七條第二項ニ依ルヘシ

●明治廿四年(十二月)縣令甲第八十六號

本年十月縣令甲第六十九號小學校設備規則中第五條但書設置セサルハ「下」市「ノ」一字ヲ加フ

●明治廿四年(十月)訓令甲第四十四號 郡役所、市役所、町村役場
本年(十月)縣令甲第六十八號小學校令中ノ條項施行ノ儀ハ左ノ各項ニヨリ處理スヘシ
一尋常小學校々數位位置ヲ定メ若クハ町村學校組合ヲ設ケ若クハ教育事務ヲ委託セシムル等ノ

全年訓令甲第
五十三號ヲ以
テ第二項許可
ヲ受ケシムヘ
シトアルヲ指
揮シテフヘシ
ト改ム

件ハ小學校令ノ順序ニ依リ郡長ハ意見ヲ定メ本年十二月十五日ヲ期シ本廳へ進達スヘシ
一高等小學校々數並ニ設置區域ニ關スル組合ハ可成明治廿五年一月迄ニ許可ヲ受ケシムヘシ
一尋常小學校高等小學校ノ設置區域ハ小學校令第八條ニ依リ其修業年限ヲ豫定シ計畫スヘシ
但高等小學校ニ於テハ小學校令第六條ニ依リ學科ノ種類ヲ豫定シ置クモ妨ケナシ
一小學校教則ハ更ニ制定スルニ至ルマテ現行ノ教則ニ依ルヘシ
一前數項ニ依リ學校ノ分割合併ヲ要スルモノハ町村長ハ其生徒並ニ財產等ノ處分ヲ議定セシ
メ郡役所ヲ經由シ豫メ之ヲ本廳ニ具申シ學校廢止ノ日ニ至リテ之ヲ實行スヘシ
一明治二十五年ノ經費豫算ハ小學校令實施ニ關スル諸般ノ設備ト共ニ二十五年二月中ニ議
定セシムヘシ
一前數項ニヨリ諸般ノ設備決定ノ上ハ二十五年三月中左ノ事項ヲ開申スヘシ
學校位置
何町村大字番地
學校名稱
坪數及所有ノ別
校舍及敷地
但設備規則ニ掲グル事項ヲ記載セル圖面ヲ添付スルコト
生徒數ノ見込
基本財產金額
公債証書株券現金土地建物ニ類別スルコト
校具
設備規則ニヨリ種類ヲ別テ其部數及個數ヲ掲グルコト
經費豫算
各科ヲ區別スヘシ

一明治二十四年(三月)勅令第十九號ニ依リ繼續維持スヘキ學校ヲ除キ其他ノ學校長並ニ教員
ハ更ニ任用ノ儀二十五年三月中上申スヘシ
一學務委員ハ二十五年二月限り(條例ヲ要スルモノ及小學校教員ヨリ出ツルモノヲ除ク)之ヲ置
キ各自ノ身分年齡ヲ具シ届出ツヘシ
一以上諸般ノ設備ヲ完了シ可成明治二十五年四月一日ヲ期シ引續ヲナスヘシ
●明治廿四年(十二月)訓令甲第五十三號
本年十月訓令甲第四十四號小學校令中ノ條項施行手續中第二項許可ヲ受ケシムヘシトアルヲ
指揮シテフヘシト改ム
郡市役所 町村役場
●明治廿四年(十月)訓令甲第四十五號
本年(十月)縣令甲第六十八號小學校令中ノ條項施行相成候ニ付テハ小學校ノ設置ニ關スル調
査ハ左ノ要項ニ據ルヘシ

小學校設置 要項

第一條 小學校ハ設備規則ニヨリ校舍校地校具体操場農業練習場等ヲ整備スルハ勿論文部大
臣ノ規定ニヨリ生徒數ニ相當スル教員ヲ置クモ經費支出上差支ナキヲ要ス
但教員授業生ノ員數俸給ノ最低額ハ別表ノ如シ
第二條 尋常小學校生徒通學ノ最遠距離ハ一里内外タルヘシ
第三條 尋常小學校ノ校數及位置ヲ定メ若クハ教育事務ヲ委託セシムルニハ各市町村ニ就キ
左ノ事項ヲ調査添申スヘシ

但町村若クハ町村學校組合ヲ數區ニ分畫スル片ハ總テ本文ニ準スヘシ

- 一 學齡兒童總數
- 二 學齡兒童中就學ノ義務ヲ終リタル者ノ員數
- 三 學齡兒童中小學校令第三十一條第二項ニヨリ義務ヲ免スヘキ者ノ員數
- 四 學校ノ位置 何市町村大字何
- 五 生徒通學ノ最遠距離
- 六 修業年限ノ見込
- 七 地租額
- 八 戸數
- 九 學校基本財産ノ種類金額及利子額
- 十 授業料徴收スヘキ每一人一ヶ月ノ見込金額及其人員
以上ノ各項(三四六ヲ除ク)ハ教育事務委託ニ屬スル分チ區別シ且其授受ノ金額ヲ記載スルモノトス
- 十一 本年度市町村費歳入歳出豫算總額及内譯共
- 十二 郡ノ補助ヲ要スヘキ金額
- 第十四條 小學校令第三十一條ニヨリ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシメントスル片ハ第三條ニ準シ詳細其理由ヲ添申スヘシ
- 第十五條 高等小學校ノ設置ハ其町村若クハ町村學校組合ニ就キ左ノ事項及第三條第四ヨリ第

十迄ヲ調査添申スヘシ

但高等小學校組合ニ付指揮ヲ受クントスル場合ニ於テハ本文ニ準シ概略ノ見込ヲ添申スヘシ

- 一 尋常小學校前學年ノ卒業生徒數
- 二 入學スヘキ生徒數
- 三 經費收入ノ内譯金額(可成細別スルヲ要ス)
- 第六條 尋常小學校諸般ノ設備整備セサレハ高等小學校ノ教科ト尋常小學校ノ教科ヲ一校ニ併セ置クヲ許サス
- 第七條 高等小學校ノ設立ハ可成多數ノ町村ヲ組合ハシメ將來ニ於テモ經費ノ負擔ニ堪ヘサルノ要ナカラシムルヲ要ス
- 第八條 可成男女ハ各學級ヲ分チ教授スルヲ要ス
- 第九條 高等小學校ニシテ修業ニケ年ノ分ハ生徒四十名修業三ケ年ノ分ハ五十名修業四ケ年ノ分ハ六十名以上ニアラサレハ設置セサルモノトス
- 第十條 第三條乃至第五條ニ關スル條項ハ町村長ニ於テ調査ノ上部長ニ進達スヘシ

尋常小學校

訓導授業生月給人員ハ一例ヲ掲クルモノナリ

修業	學齡兒童數	訓導月給及人員	授業生月給及人員	俸給一ケ年總額
業	百二十名未滿	六圓	一名	七拾貳圓

第十六類 小學校

- 一 三百六十名以上ハ成規ニ據リ人員ヲ増シ俸給ヲ増加スルヲ要ス又女生徒ナク組織減スルルハ其組織ニ應ジ最下給ノ教員ヲ減スルコトヲ得
- 一 裁縫及農業等ヲ置クトキハ本表金額ノ外別ニ其俸給ヲ要ス
- 一 補習科ヲ設クルルハ本表ニ準シ俸給ノ増加ヲ要ス

●明治廿四年(十月)訓令甲第四十六號

郡役所 町村役場

明治二十三年(十月)法律第八十九號地方學事通則及勅令第二百十五號小學校令中ノ條項來明治二十五年二月一日ヨリ實施相成候ニ付テハ高等小學校ノ設置廢止ハ最モ慎重ヲ加ヘ其設置ニ係ルモノハ將來ニ對シテ其維持ノ鞏固ナラント期シ彼ノ一時ノ競爭ニ乘シテ個々分立シ濫リニ併置ヲ事トシ緊要ナル尋常小學校ノ設備ヲ怠ルカ如キ弊無之模様ヲ示導致スヘク且ツ現在設置シアル校舍ハ成ルヘク之ヲ存用シ適宜ノ設置區域ヲ定メシメ繼續候様精々注意スヘシ

●明治廿四年(十二月)訓令甲第五十五號

郡役所、市役所、町村役場

來ル明治廿五年二月一日ヨリ小學校令一部實施ニ就キテハ小學校ヲ新設シ若クハ位置ヲ變更スヘキモノアルヘク然ルニ右ハ總テ小學校設備規則ニ依リ設備スヘキ義ト心得其設置變更等ニ關シ躊躇スル者有之哉ニ相聞キ候得共小學校設備規則第一條校地ノ選擇第四條校舍ノ構造第九條校舍周圍ノ空地及ヒ第十一條教室ノ窓戶第十三條校舍內並校具ノ構造等ニ關シテハ新調若クハ新築等ノ場合ニ臨ミ之レニ據リ築造スヘキ義ニシテ日下新調新築ノ都合ニ至ラサルモノハ便宜社寺若クハ民屋等ヲ僦借シ教授スルハ固ヨリ差支無之此場合ニ於テハ勿論教授上

妨ケナキ様處理スヘキ義ト心得ヘシ此旨訓令ス

○學事雜

●明治廿四年(六月)告示第七十五號

學術上ノ事項ニ就キ實地取調等ノ爲メ地方廳若クハ當業者ヨリ帝國大學其他文部省直轄學校教官ノ派遣ヲ請求シ其教官相當ノ旅費ヲ負擔スルトキハ授業上差支ナキ場合ニ限リ請求ニ應スヘキ旨文部省ヨリ通知アリタリ

○第十七類

○兵制

○徵兵

●明治廿四年(二月)訓令乙第五號

郡役所 市役所

徵兵令第十條ニヨリ現役ヲ志願スル者ノ出願期日ハ全條例第六十條ニ十二月一日前トアルヲ以テ該期日迄ニ出願スルハ志願者ノ隨意ニ候得共軍隊ニ於テハ概テ九月ニ於テ其年入營後定員ニ超過スル人員ヲ見込之ニ歸休ヲ命スル爲メ閣裁ヲ經ルモノナレハ其以後出願スル者ハ隊長ニ於テ閣裁ヲ經タル人員ノ動カスヘカラサルニ依リ不得止許可セサル場合モ可有之趣第二

師團長ヨリ協議有之候條爾今第二師團各隊ニ服役セントスル志願者ハ可成九月初旬迄ニ出願候様人民ヘ示達方取計ヘシ

但シ入營許可ノ上事故ヲ生シ入營シ難キ節ハ其期日前届出シムヘシ

●明治廿四年(十一月)訓令乙第六十六號

郡市役所

明治二十三年(四月)訓令乙第二十三號陸軍一年志願兵願書差出期日二月盡日ヲ二十日ト改正ス

●明治廿四年(十一月)諭達第四號

徵兵適齡者ハ必スシモ本籍所管ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セサルモ其徵募區外ノ寄留地ヨリ徵集ニ應スルヲ得ルハ徵兵令第二十六條ニ明文有之然ルニ概近各徵兵署ニ於テ失踪處分ヲ爲セシモノ、事實ヲ審査スルニ其實徵兵忌避等ノ故ニアラズシテ旅行又ハ出稼先ヨリ轉々居ヲ移シ其所在ヲ自家ニ通知セサルヨリ爲メ父兄ハ檢査ノ日時ヲ通知シ得サルト或ハ其通知ヲ得ルモ適細民ニ在テハ旅費欠乏等ノ爲メ指定ノ日時ニ歸家シ能ハサル等ニ基因スルモノ多シトス畢竟徵兵令第二十六條全事務條例第六十三條ノ便法アルヲ知了セサルニ原由スルモノコ之レアルヘシ依テ自今父兄モ能ク其旨趣ヲ了得シ篤ク子弟ニ諭シ徵兵令違反者トナラサル様注意スヘシ
右諭達ス

○豫備、後備兵

●明治廿四年(三月)告示第廿七號

明治廿四年度近衛充員ノ際召集スヘキ下士兵卒集合地及參着期日左ノ通定メラル

一 集合地 中頸城郡直江津尋常小學校

一 參着期日 師團發令ノ日ヨリ下士ハ第六日兵卒ハ第七日ノ午后トス

一 前項ノ期日迄ニ集合地ニ參着シ得サルモノハ後着員トス

○教導團

●明治廿四年(二月)縣令甲第十六號

明治廿四年(二月)陸軍省令第一號ヲ以テ陸軍教導團生徒召募規則改正相成候ニ付志願ノ者ハ郡市長ノ與書ヲ經テ毎年四月二十日迄ニ願書ヲ本廳ヘ差出スヘシ

但郡市長ハ規則第五條里程調書ヲ製シ本文期日迄ニ本廳ヘ送付スヘシ

●明治廿四年(五月)縣令甲第三十四號

明治廿四年二月縣令甲第十六號教導團生徒召募願出ノ件中但書削除ス

○陸軍諸則

●明治廿四年(七月)訓令乙第五十一號

明治十九年(七月)丙第七十五號達軍事上須要取調方ノ件廢止ス

郡役所 市役所

全年縣令甲第三十四號ヲ以テ但書ヲ削除ス

●明治廿四年(十一月)訓令甲第四十七號

那役所、市役所、町村役場

本年(十月廿四日)陸軍省告示第十號士官候補生幼年學校生徒志願者取扱手續中身上明細表調製方定メラレ候條明治二十年、八月八日)本縣訓令甲第廿九號士官候補生幼年學校生徒志願者身上財產等証明書調製規程ハ廢止ス

●明治廿四年(十一月)告示第四百十三號

陸軍軍樂生徒入學檢査格例並志願者心得左ノ通相定メラレ候條志願ノ者ハ明治廿五年一月十日迄願書ヲ本廳へ差出スヘシ

明治二十五年陸軍軍樂生徒入學檢査格例

第一條 軍樂生徒入學檢査ヲ分テ五則トス

第一則 年齢滿十六年以上十九年未滿タルヘシ

但シ年齢ヲ算スルニハ明治二十五年一月ヲ以テス

第二則 体格強健齒列齊整ニシテ身長五尺以上若クハ五尺ニ達スヘキ見込ミアル者

第三則 日本略史若クハ兵要日本地理小誌等ノ通讀

第四則 通俗往復文

但シ作文ニテ作字ノ巧拙ヲ檢査ス

第五則 四則雜問及ヒ單比例

第二條 檢査場ニ會スル者ハ一切ノ書籍草按等ヲ携帶スルヲ許サス但要用ノ筆墨硯ハ持參スヘシ

陸軍軍樂生徒入學志願者心得

第一條 軍樂生徒ハ軍樂舍條例第九條乃至第十一條ニ據リ華士族平民中志願ノ者ニシテ檢査優等ノ者ヨリ順次ニ定員ヲ撰拔シ尙ホ凡ソ一ヶ月間通學セシメ實際試驗ノ上之ヲ採用ス但シ左ニ記スル者ハ志願スルヲ得ス

一 身代限りノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

二 輕罪以上ノ刑ニ處セラレ或ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケシ者

三 妻アル者

第二條 軍樂生徒ハ入隊ノ日ヨリ常備兵籍ニ編入シ陸軍軍樂部下士、兵卒、補充條例第五條ニ依リ服役セシム故ニ陸軍軍樂舍條例第十二條乃至第十五條ニ據リ其期限中ハ必ス陸軍ニ從事シ決シテ他志ナキノ誓約ヲナサシメ生徒修業中ハ歸省休暇ヲ許サス

第三條 軍樂生徒ハ被服食料諸器械等一切之ヲ官給シ且ツ若干ノ手當金ヲ給ス

第四條 軍樂生徒ハ軍樂ニ要用ナル學術ヲ教授シ卒業ノ上ハ樂生ニ任シ漸次樂手補、樂手、樂次長及樂長ニ歷進セシムルモトス(但シ樂手補以上ハ外宿ヲ許ス樂生ハ樂生ヲ命シテヨリ一個年間精勤シ勤務勉勵品行方正技術熟達ノ者ハ之ニ全シ)

第五條 志願者ハ第一號第二號書式ニ照準シ願書履歷書ヲ府縣廳(寄留者モ亦全シ)へ差出スヘシ但出願期日ハ來ル廿五年一月廿日限タルヘシ

第六條 東京外ノ志願者ハ出京シ一月廿日迄ニ其宿所ヲ戶山學校へ届出ツヘシ其檢査ハ總テ陸軍戶山學校ニ於テ之ヲ行フモノトス

第七條 檢査ノ爲メ往復旅費並ニ滞在日當等ハ一切支給セス但シ採用入學ノ者ニ限リ郷里ヨリ東京迄ノ旅費ヲ給ス(東京寄留者ハ此限リニアラス)

第一號書式

軍樂生徒入學願 用紙ハ美濃紙

某 儀

陸軍出身志願ニ付今般軍樂生徒トシテ入學仕度候間御檢査ノ上御採用被下度入學ノ上ハ固ヨリ御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕且又本人身上ノ儀ハ何事ニ依ラス身元引受人ニ於テ引受可仕依テ履歷書相添引受人連署此段奉願候也

府(縣)何族(平民)職業

戸主名何男(兄)(弟)等(附籍)

何國郡(市)町(村)産

姓

名 印

何國郡(市)町(村)何番地住

年號月日生

何國郡(市)町(村)何番地全戸(單身)寄留

年號何年何ヶ月

身元引受人(一家ノ戸主ナル者ニシテ一名ハ成ルヘク東京現住ノ者)

何府(縣)何族(平民)

何國郡(市)町(村)何番地住

何國郡(市)町(村)何番地寄留

姓

名

全 全 全
上 上 上

年 號 月 日

姓

名 印

陸軍戸山學校長官姓名服

前書之趣調查候處相違無之候也

府(縣)郡(市)町(村)長

姓

名 印

年 號 月 日

前書之通相違無之候也

年 號 月 日

府(縣)知事

姓

名 印

第二號書式(書式ニ示ス外履歷ニ係ル者アルキハ悉ク記載スヘシ)

履 歷 書 (用紙願書ニ全シ)

府(縣)何族(平民)職業

戸主名何男(兄)(弟)等(附籍)

姓

名

何年何月種痘(天然痘)

一何年月日ヨリ何年月日迄何學校(塾)入學何科卒業(何學修業)(就官ノ者ハ其官年月日)

一何年月日何ニ依リ賞(罰)

右之通相違無之候也

年 號 月 日

本 人 姓 名

名 印

右身元引受人

姓 名 姓 名 印

●明治廿四年(十一月)告示第四百四十六號

本年十月陸軍省告示第十號ヲ以テ明治廿五年陸軍各兵科現役士官候補生並ニ幼年學校生徒學科試驗格例全志願者心得全取扱手續被定候ニ付志願ノ者ハ來ル廿五年一月十日迄ニ願書(二通)ニ履歷書ヲ添ヘ市町村長ヘ差出スヘシ市町村長ハ之ニ第五號第九號書式ニ準シ誕生證書身上明細表ヲ調製シ全月十五日迄ニ當廳(郡役所經由)ヘ送付スヘシ

○ 徵 發

●明治廿四年(十二月)訓令甲第五十號

郡市役所 町村役場

明治廿三年四月訓令甲第三十號徵發馬匹員數及駄馬屬具表調査ノ件廢止ス

○ 第十八類

○ 外國 交際

●明治廿四年(七月)訓令甲第三十二號

郡役所、市役所、町村役場

私雇外國人ノ内許可ヲ得テ居留地外ニ住居ノ者居留地外ニ於テ轉居ノ義ハ届出ル迄ニテ出願ニ不及義ニ付去ル二十二年四月十八日訓令甲第三十五號ヲ以テ轉居届之義訓令致置候處右轉居タル假令ハ雇主ノ轉居ト共ニ轉居スルカ若シハ當初許可ヲ得タル住居地ノ近傍ニ轉居候節ニ限リ届出ル迄ニテ可然義ト可心得此旨及訓令候也

○附 錄

○裁判宣告書

鹿兒島縣大隅國肝屬郡鹿屋村村長

原 告 永 田 翁 介

同縣同國同村中名八百三十六番戶同居士族

被 告 吉 原 彌 兵 衛

東京市神田區三崎町一丁目四番地寄留

代 言 人

代 言 人 小 出 鍾 太 郎

右原告永田翁介ヨリ被告吉原彌兵衛ニ對スル公民權有無ニ關スル訴訟審理ヲ遂クル處
原告陳述ノ要旨ハ明治二十三年十一月二日日本村會議員補缺選舉會舉行ニ付被告ニ於テ選
舉人名簿ヲ縱覽スルニ被告ノ氏名無之ヲ不當ナリトシ町村制第十八條ニ依リ原告ニ申立ヲ
爲シタルヲ以テ同制第三十七條ニ基キ村會ノ裁決ヲ經テ其裁決書ヲ被告ニ交付セリ然ルニ
被告ハ之ニ服セス更ニ本郡郡長ニ訴願ヲ爲シタルニ郡長ハ被告ヲ以テ公民權ヲ有スルモノ
ト裁決セリ其理由トスル所ハ吉原彌兵衛ハ鹿屋村ノ住民ニシテ地租十圓以上ヲ納メ本村ノ
負擔ヲ分任シ吉原彌藏ト同居スルモ彌藏ニ嗣子ナキヲ以テ該家ヲ補助スルカ爲メニ止マ得
ス同居スルモノニシテ彌藏トハ經濟ヲ異ニシ獨立ノ生計ヲナスハ本人ノ訴願書及吉原彌藏

ノ申立ニ依リ明瞭ナリトアルモ被告ノ如キハ幼時父母ヲ失ヒ叔父吉原彌藏ノ家ニ養育ヲ受ケ成長スルニ及ンテ今尙同居同炊數十年ノ久シキ未ダ嘗テ獨立ノ家業ヲ營ミタルノ證ナク且叔父彌藏ハ年齡五十強地租十一圓餘ヲ納メ家計亦貧ナラス何ソ彌兵衛ノ補助ヲ要センヤ又郡長カ吉原彌藏ノ申立ニ自分甥トハ常ニ生計ヲ異ニスル旨ヲ以テシタルヲ採用スルモ叔甥ノ關係アルモノナレハ其申立ヲ以テ證據ト爲スニ足ラサルナリ故ニ原告ハ其裁決ニ服セズシテ客年十一月二十一日付本縣知事ニ訴願ヲ爲シタルニ知事モ亦被告ノ叔父彌藏ト家計ヲ異ニスルヤ否ハ關係人即チ家主吉原彌藏ノ證明ニ據リテ之ヲ定ムルニ足ルヲ以テ被告ハ公民權ヲ有スルモノトセリ抑町村制第七條第二項ノ精神ハ戶主非戶主借家同居ノ別ヲ論セズ自己獨立ノ業ヲ營ムモノハ公民權ヲ有スルハ明ラカナルモ被告ハ獨立ノ業ヲ營ミタルコトナク且地方税ノ戶數割町村税ノ戶別割等會テ上納セシコトナキモノナルニ其納不納ヲ論セス又其骨肉ノ關係アル吉原彌藏ノ届書ニ據リテ裁決ヲ爲シタルハ不服ナルヲ以テ町村制第三十七條第三項ニ據リ出訴ヲ爲シタリト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ本訴ハ町村制第七條ヨリ原因シ來ルモノニシテ即チ同條ノ要件ヲ具備スルヤ否ノ爭ニ外ナラス故ニ第一自己獨立ノ業ヲ營ムヤ否第二一戶ヲ構ヘ居ルヤ否ノ點ニ就テ之ヲ論辯セントス而シテ其第一ノ點ニ就テハ原告ハ戶主非戶主借家同居ノ別ヲ論セス自己獨立ノ業ヲ營ムモノハ公民權ヲ有スル義ナルヤ明ナルモ被告ハ生來父母ヲ失ヒ叔父吉原彌藏ノ家ニ養育ヲ受ケ會テ別家獨立ノ業ヲ營ミタル證ナク隨テ地方税ノ戶數割町村税ノ戶別割ヲ分擔セサルカ爲公民權ヲ有セサルモノナリト云フモ彼地方税ナルモノハ一縣ノ縣規ニ

屬シ全國一般人民ノ遵守スヘキモノニアラス且毎年縣會ノ議權内ニアルモノニテ一定不動堂堂タル法律ヲ左右スルノ効力ナキハ論ヲ待タス之ニ隨從スル村税ニ於ケルモ尙且然リ原告カ該税ヲ以テ公民權ノ有無ヲ判定スルハ町村制第七條其町村ノ負擔ヲ分任シ云々トアルヲ以テ其分任ヲ缺ケリト云フニ在ルヘシト雖町村税ナルモノハ戶別割ノミニ限ラス營業割地價割等モアリテ其地價割ノ如キハ現ニ納メ居レリ且原告ハ被告カ戶數割稅ヲ負擔セシコトナシト云フモ被告ハ明治十三年以來十七年規則ノ改正マテ之ヲ負擔シタルモノニシテ十七年以來負擔セサルハ自ラ負擔セサルニ非スシテ本縣ノ規則カ負擔セシメサルナリ然ルニ原告ハ尙ホ被告カ同居者ナルヲ以テ自己獨立ノ業ヲ營ム能ハスト云フカ被告ハ明治十九年ニ於テハ本縣ノ茶業組合ノ組長ニ選舉サレ同二十三年ニハ蠶業組合ノ幹事ニ當選シ村内一般ノ公益ヲサヘ計ルモノナリ殊ニ儼然タル一戶主ニシテ地租十圓以上ヲ納メ從來公務ヲ奉シタル履歷モ有之將タ妻子ヲモ養育シ居リテ其能力ニ缺クハ原告カ獨立ノ業ヲ營ム能ハスト云フハ無理ナル論點ト云ハサルヲ得テ第二ノ點ニ就テハ原告ハ町村制第七條末項ニ一戶ヲ構ヘ云々トアルヲ其文字ニ拘泥シ別居者ニアラサレハ獨立ノ實アルモノト雖悉ク公民權ヲ有セサルモノト云フカ是レ有形上ノ事實ト無形ノ獨立ノ事實アルモノトヲ混同スルモノナリ法律ニ一戶ヲ構ヘト示セルハ同居ト別居トヲ問ハス人ノ支配ヲ受ケズ自由ニ生計ヲ營ミ得ルノ能力アルモノト云フノ意ニ外ナラサルヘシ殊更ニ別居タルヲ要スルノ理アラシヤ抑立法者カ自治ノ制度ヲ布キ町村制市制等ノ法律ヲ設クルニ當リ舊時ノ族制主義ヲ捨テ一個人主義ヲ採用シタルモノナレハ市町村ノ共同事業ニ參與スルコトヲ戶主以外

ニ許サ、ル理ナキトキハ當然ナレハ荷モ一戸ヲ構ヘ獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資産アル者ニハ公民權ヲ附與スルニ在リ而シテ一戸ヲ構ヘトハ必モ棟梁床壁ヲ異ニセル有形上ノ事實ヲ云フニ非スシテ別居同居ヲ論セス一家計ヲ立ツルニ足ルヘキ資産ヲ有スル即チ無形上一戸ヲ構成スルモノヲ云フナリ而シテ一家計ヲ立ツルニ足ルヘキ資産ノ標準ハ如何ト云フニ第七條ノ規定スル地稅ヲ納メ又ハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ皆此資産ヲ有スルモノト解セサルヘカラス蓋シ公民タルニ獨立男子タルコトヲ要スルハ身體上ノ資格ニシテ財産上ノ資格ニ非ス其資産上ノ資格ハ市町村制第七條第一項中ニ規定セル所ナリ約言スレハ第七條第一項ノ財産ヲ(資産上ノ資格)獨立シテ經營(身體上ノ資格)スルモノハ國家ノ一成素ト認メ公民權ヲ附與シタルモノナリ被告ハ本家即チ叔父ノ宅ニ養育ヲ受タルモ前陳ノ如ク能力ヲ有スルヲ以テ別居スルハ何レノ時ト雖何ソ撰ハン然ルニ叔父彌藏夫婦ハ一ノ嗣子ナク且ツ叔母即チ彌藏ノ妻ハ病身ニシテ諸事萬端ヲ五十以上ノ老人ナル叔父一人ニ一任スルハ骨肉ノ間柄見ルニ忍ヒス故ニ彼等ヲ補助スル爲メ同居スルハ情誼上止ヲ得サル事實ニシテ被告ハ斷シテ町村制第七條ノ要件ハ具備シ居ルモノト確信スト云フニ在リ

依テ雙方ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ閱シ理由ヲ說明スル左ノ如シ

本件原被告所争ノ要點ハ被告吉原彌兵衛ハ町村制第七條第二項一戸ヲ構ヘト云ヘル要件ヲ具フルモノナルヤ否ニアリトス而シテ被告ニ於テハ幼ニシテ父母ヲ失ヒタルヨリ其叔父吉原彌藏ノ家ニ在リテ養育ヲ受ケタリシモ成長ノ後其家ニ同居シアルハ叔父吉原彌藏カ一ノ嗣子ナク且彌藏カ妻ハ病身ナルヨリ叔父カ家事ヲ補助スルカ爲メニシテ自己獨立ノ業ヲ營ミ獨立ノ

生計ヲ營ムヲ得ルノ能力アルハ被告カ明治十九年以來茶業組合ノ組長及蠶業組合幹事ニ當選シ其他公務ヲ奉シタルト一戸主ニシテ地租十圓以上ヲ納メ來ルヲ以テ知ルヲ得ヘク其戸數割戸別割ヲ納メサルハ明治十七年以後本縣規則ノ然ラシムル所ナリト云フト雖被告ハ幼時叔父吉原彌藏ノ家ニ於テ養育ヲ受ケタル以來依然同居同業シ獨立ノ事實ヲ表明スルモノ無之ニ依リ町村制第七條第二項一戸ヲ構ヘタルモノト認ムルヲ得ス故ニ被告ハ公民權ヲ有セサルモノトス

右ノ理由ニ依リ判決スル左ノ如シ

原告村長カ被告ヲ公民權ナシトシタルハ不當ノ處置ニアラストス

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

明治廿四年六月四日行政裁判所公廷ニ於テ宣告ス

○ 裁判宣告書

長野縣北佐久郡岩村田町第六百四十一番地
平民農

原告 秋山 清作

長野縣北佐久郡岩村田町第四百三十五番地

平民農岩村田町長

被告 遠藤 善九郎

右原告秋山清作ヨリ被告岩村田町長遠藤善九郎ニ對スル公民權ノ有無ニ附知事ノ裁決ヲ不當

トスル訴訟審理ヲ遂シル處

原告陳述ノ要旨ハ長野縣知事ハ町村制第六十二條第三項ノ規定ニ第五十六條第二項ヲ適用
 ストアリ第六十二條第三項中ニ第五十六條第二項中但書ヲハ適用セストノ法文ナキヲ以テ
 第五十六條第二項但書トモ收入役ニ適用シ町村會議員ノ選舉ニ參與スルノ權アルモノト云
 フト雖モ第五十六條第二項中但書ハ收入役ニ適用スヘキモノニアラス何トナレハ收入役ハ
 町村長ノ推薦ヨリ成立シ町村會カ之ヲ選任スルモノニシテ收入役ニ對シテハ町村制中選任
 トノミ明記シアリ第五十六條第二項中但書ニハ當選トノミアリテ選任ノ文字ナン若シ但書
 ナモ適用スヘキナリトセハ當選及選任ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タルノ權利ヲ得トノ
 明文ナカルヘカラス故ニ假令ヒ第六十二條第三項ニ第五十六條第二項中但書ハ適用セスト
 明記セスト雖モ但書中選任ノ文字ナキヲ以テ之ヲ收入役ニ適用スヘカラスハ明カナリ又
 第五十六條第二項中但書ニ云ヘル公民ノ權利トハ有給町村及ヒ有給助役ニノミ適用スヘ
 キモノナリ而シテ此公民ノ權利ハ町村制第七條ノ所謂ル公民權ナルモノト異ナリ假令町村
 長助役ト雖モ第十二條ノ本文ニ云ヘル選舉權ヲ許與シタルモノニアラス町村長ハ其町村ヲ
 統轄シ其行政事務ヲ擔任スルカ爲メ唯其地位ヲ重ク高カラシムルカ爲メ公民ト云フ權利ノ
 名義ノミヲ許與シタルモノニシテ第十二條ニ云ヘル選舉ニ參與スルノ權利ヲ得有シアルモ
 ノニアラス又助役ニ町村長ト同シキ權利ヲ許與セラレタル理由ハ町村長ノ故障アルトキハ
 其代理ヲ爲スカ故ナリ以上述ルカ如ク町村長助役スラスノ如シ然ルニ町村制中年齡ニモ制
 限ナシ幾歲ノ兒童タリトモ町村會カ選任サヘスレハ差支ヘモナキコトニ法律ハ之ヲ收入役

ニ許シ置ケリ然ルニ貴重ナル公民權ヲ許與シアルモノト解釋チ下スハ適法ノ精神ニアラス
 故ニ長野縣知事ノ裁決ハ不當ノ裁決ナルヲ以テ本町收入役阿部龜助ヲ本町會議員選舉人名
 簿中ヨリ除名セラレシコトヲ請求スト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ被告ハ町村制第六十二條第三項ニ「收入役ハ町村長及助役ヲ兼スルコト
 ナ得ス其第五十六條第二項(中略)ヲ適用ス」其第五十六條第二項ニ「有給町村長及有給助
 役ハ其町村公民タル者ニ限ラス但當選ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タルノ權利ヲ得」トア
 リ依テ本町收入役阿部龜助ハ公民權ヲ得有シタルモノトシ選舉人名簿ニ登載シタルナリ然
 ルニ原告ニ於テハ收入役ハ選任トノミ明記アリテ當選トノ文字ナン若シ但書ヲモ適用スヘ
 キモノナレハ當選及選任ニ應シ云々トアルヘキナリト謂フト雖モ本條ハ町村長助役ヲ主ト
 セシモノナレハ無論選任ノ文字ヲ用ユルノ要ナシ而シテ收入役ハ第六十二條第三項ニ依
 リ本條ヲ適用スルニ至レトモナリ尤モ當選ト選任トハ自他ノ別アルノミ一ハ町村長ノ推
 薦ニヨリ町村會之ヲ選任シ一ハ町村會ニ於テ公選ヲ以テ選任スルモノニシテ何レモ高點者
 トナリタルトキハ當選ト云ハスシテ何ソヤ若シ之カ但書ヲ適用セサルモノナレハ本項ハ本
 文ノミヲ適用ストアルヘキナリ又原告ハ町村長助役ト雖モ町村制第十二條ノ本文ニ云ヘル
 選舉權ヲ許與シタルモノニアラス唯其地位ヲ重ク高カラシムルカ爲メ公民ノ權利ノ名義ノ
 ミヲ許與シタル云々ト謂フト雖モ公民權ハ固ヨリ空位ニシテ行使スルコトヲ得サルモノニ
 アラサルヲ以テ議員選舉ニ參與スルコトヲ得スト云フヲ得ス故ニ以上陳述ノ理由ニ依リ被
 告カ阿部龜助ヲ町會議員選舉人名簿ニ登載セシハ適法ナリト云フニ在リ